

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (28)

頁	区分	変更の概要及び理由																								
270	改訂	<p>準備書 p270 「6.1.7 重要な陸生動物 (1) 陸生動物の重要な種」の表を改訂 (下線: 改訂)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (3/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>24</sup></th> <th>確認状況<sup>25</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>オジロトウネン (チドリ目シギ科)</td> <td>本種は干潟、干拓地、水田、溜池等の湿った砂泥地に生息する。冬鳥又は旅鳥として飛来する。5月～7月に繁殖するが、日本では繁殖しない。灌木の根元の地上に巣をつくる。昆虫、小型の甲殻類、軟体動物、ミミズやゴカイ類を捕食する。</td> <td>干拓地西側の木曾川に面した護岸上で3個体が確認された。主な生息地は干拓地周辺の水田であり、干拓地内や干拓地周辺の干潟を休息地として利用していると推定される。</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価書 (p. 293)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>24</sup></th> <th>確認状況<sup>25</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>オジロトウネン (チドリ目シギ科)</td> <td>本種は干潟、水田、溜池等の湿った砂泥地に生息する。冬鳥又は旅鳥として飛来するが、日本では繁殖しない。<u>三重県には旅鳥として飛来する。</u>昆虫、小型の甲殻類、軟体動物、ミミズやゴカイ類を捕食する。</td> <td><u>秋季に干拓地西側の木曾川に面した堤防で3個体が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の干潟や水田であり、満潮時には堤防等を避難場所として利用している。</u></td> </tr> </tbody> </table>	表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (3/7)				分類群	種名	種の分布・特性 <sup>24</sup>	確認状況 <sup>25</sup>	鳥類	オジロトウネン (チドリ目シギ科)	本種は干潟、干拓地、水田、溜池等の湿った砂泥地に生息する。冬鳥又は旅鳥として飛来する。5月～7月に繁殖するが、日本では繁殖しない。灌木の根元の地上に巣をつくる。昆虫、小型の甲殻類、軟体動物、ミミズやゴカイ類を捕食する。	干拓地西側の木曾川に面した護岸上で3個体が確認された。主な生息地は干拓地周辺の水田であり、干拓地内や干拓地周辺の干潟を休息地として利用していると推定される。	表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)				分類群	種名	種の分布・特性 <sup>24</sup>	確認状況 <sup>25</sup>	鳥類	オジロトウネン (チドリ目シギ科)	本種は干潟、水田、溜池等の湿った砂泥地に生息する。冬鳥又は旅鳥として飛来するが、日本では繁殖しない。 <u>三重県には旅鳥として飛来する。</u> 昆虫、小型の甲殻類、軟体動物、ミミズやゴカイ類を捕食する。	<u>秋季に干拓地西側の木曾川に面した堤防で3個体が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の干潟や水田であり、満潮時には堤防等を避難場所として利用している。</u>
表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (3/7)																										
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>24</sup>	確認状況 <sup>25</sup>																							
鳥類	オジロトウネン (チドリ目シギ科)	本種は干潟、干拓地、水田、溜池等の湿った砂泥地に生息する。冬鳥又は旅鳥として飛来する。5月～7月に繁殖するが、日本では繁殖しない。灌木の根元の地上に巣をつくる。昆虫、小型の甲殻類、軟体動物、ミミズやゴカイ類を捕食する。	干拓地西側の木曾川に面した護岸上で3個体が確認された。主な生息地は干拓地周辺の水田であり、干拓地内や干拓地周辺の干潟を休息地として利用していると推定される。																							
表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)																										
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>24</sup>	確認状況 <sup>25</sup>																							
鳥類	オジロトウネン (チドリ目シギ科)	本種は干潟、水田、溜池等の湿った砂泥地に生息する。冬鳥又は旅鳥として飛来するが、日本では繁殖しない。 <u>三重県には旅鳥として飛来する。</u> 昆虫、小型の甲殻類、軟体動物、ミミズやゴカイ類を捕食する。	<u>秋季に干拓地西側の木曾川に面した堤防で3個体が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の干潟や水田であり、満潮時には堤防等を避難場所として利用している。</u>																							
270	改訂	<p>準備書 p270 「6.1.7 重要な陸生動物 (1) 陸生動物の重要な種」の表を改訂 (下線: 改訂)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (3/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>24</sup></th> <th>確認状況<sup>25</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>ウズラシギ (チドリ目シギ科)</td> <td>本種は海岸の水溜りや河口の干潟、河川の砂泥地、水を張った水田、溜池、湖沼の砂泥地等、泥底の浅い水域に生息する。旅鳥として水田や入り江等に渡来する。日本では繁殖しない。小型の甲殻類、軟体動物、双翅類等の昆虫類を捕食する。</td> <td>干拓地東側の鍋田干拓地において数個体が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の水田であると推定される。</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価書 (p. 293)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>24</sup></th> <th>確認状況<sup>25</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>ウズラシギ (チドリ目シギ科)</td> <td>本種は海岸の水溜りや河口の干潟、河川の砂泥地、水を張った水田、溜池、湖沼の砂泥地等、泥底の浅い水域に生息する。旅鳥として渡来し、日本では繁殖しない。<u>三重県には旅鳥として飛来する。</u>小型の甲殻類、軟体動物、双翅類等の昆虫類を捕食する。</td> <td><u>春季と冬季に干拓地東側の鍋田干拓地において数個体が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の水田であると推定される。</u></td> </tr> </tbody> </table>	表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (3/7)				分類群	種名	種の分布・特性 <sup>24</sup>	確認状況 <sup>25</sup>	鳥類	ウズラシギ (チドリ目シギ科)	本種は海岸の水溜りや河口の干潟、河川の砂泥地、水を張った水田、溜池、湖沼の砂泥地等、泥底の浅い水域に生息する。旅鳥として水田や入り江等に渡来する。日本では繁殖しない。小型の甲殻類、軟体動物、双翅類等の昆虫類を捕食する。	干拓地東側の鍋田干拓地において数個体が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の水田であると推定される。	表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)				分類群	種名	種の分布・特性 <sup>24</sup>	確認状況 <sup>25</sup>	鳥類	ウズラシギ (チドリ目シギ科)	本種は海岸の水溜りや河口の干潟、河川の砂泥地、水を張った水田、溜池、湖沼の砂泥地等、泥底の浅い水域に生息する。旅鳥として渡来し、日本では繁殖しない。 <u>三重県には旅鳥として飛来する。</u> 小型の甲殻類、軟体動物、双翅類等の昆虫類を捕食する。	<u>春季と冬季に干拓地東側の鍋田干拓地において数個体が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の水田であると推定される。</u>
表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (3/7)																										
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>24</sup>	確認状況 <sup>25</sup>																							
鳥類	ウズラシギ (チドリ目シギ科)	本種は海岸の水溜りや河口の干潟、河川の砂泥地、水を張った水田、溜池、湖沼の砂泥地等、泥底の浅い水域に生息する。旅鳥として水田や入り江等に渡来する。日本では繁殖しない。小型の甲殻類、軟体動物、双翅類等の昆虫類を捕食する。	干拓地東側の鍋田干拓地において数個体が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の水田であると推定される。																							
表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)																										
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>24</sup>	確認状況 <sup>25</sup>																							
鳥類	ウズラシギ (チドリ目シギ科)	本種は海岸の水溜りや河口の干潟、河川の砂泥地、水を張った水田、溜池、湖沼の砂泥地等、泥底の浅い水域に生息する。旅鳥として渡来し、日本では繁殖しない。 <u>三重県には旅鳥として飛来する。</u> 小型の甲殻類、軟体動物、双翅類等の昆虫類を捕食する。	<u>春季と冬季に干拓地東側の鍋田干拓地において数個体が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の水田であると推定される。</u>																							

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (29)

頁	区分	変更の概要及び理由																								
271	改訂	<p>準備書 p271 「6.1.7 重要な陸生動物 (1) 陸生動物の重要な種」の表を改訂 (下線: 改訂)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性</th> <th>確認状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>オバシギ (チドリ目シギ科)</td> <td>本種は海岸の砂浜や干潟、海岸に近い沼沢地、河口部の砂泥地に生息する。旅鳥として干潟・砂浜・海岸近くの湿地や水田に飛来する。繁殖期は 6 月～7 月ごろだが、日本では繁殖しない。コケの上の窪みに巣をつくる。双翅類や鞘翅類等の昆虫類、クモ類、甲殻類、植物の種子等を捕食する。</td> <td>干拓地の事業実施区域外や干拓地周辺の干潟、干拓地東側の鍋田干拓地において確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の干潟や水田等であると推定される。</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価書 (p. 293)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>2)</sup></th> <th>確認状況<sup>2)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>オバシギ (チドリ目シギ科)</td> <td>本種は海岸の砂浜や干潟、海岸に近い沼沢地、河口部の砂泥地に生息する。旅鳥として渡来し、日本では繁殖しない。<u>三重県には旅鳥として飛来する。貝類、甲殻類等を捕食する。</u></td> <td>秋季に干拓地の事業実施区域外や干拓地周辺の干潟において確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟、水田であり、<u>満潮時には堤防等を避難場所として利用している。</u></td> </tr> </tbody> </table>	表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)				分類群	種名	種の分布・特性	確認状況	鳥類	オバシギ (チドリ目シギ科)	本種は海岸の砂浜や干潟、海岸に近い沼沢地、河口部の砂泥地に生息する。旅鳥として干潟・砂浜・海岸近くの湿地や水田に飛来する。繁殖期は 6 月～7 月ごろだが、日本では繁殖しない。コケの上の窪みに巣をつくる。双翅類や鞘翅類等の昆虫類、クモ類、甲殻類、植物の種子等を捕食する。	干拓地の事業実施区域外や干拓地周辺の干潟、干拓地東側の鍋田干拓地において確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の干潟や水田等であると推定される。	表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)				分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>	鳥類	オバシギ (チドリ目シギ科)	本種は海岸の砂浜や干潟、海岸に近い沼沢地、河口部の砂泥地に生息する。旅鳥として渡来し、日本では繁殖しない。 <u>三重県には旅鳥として飛来する。貝類、甲殻類等を捕食する。</u>	秋季に干拓地の事業実施区域外や干拓地周辺の干潟において確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟、水田であり、 <u>満潮時には堤防等を避難場所として利用している。</u>
表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)																										
分類群	種名	種の分布・特性	確認状況																							
鳥類	オバシギ (チドリ目シギ科)	本種は海岸の砂浜や干潟、海岸に近い沼沢地、河口部の砂泥地に生息する。旅鳥として干潟・砂浜・海岸近くの湿地や水田に飛来する。繁殖期は 6 月～7 月ごろだが、日本では繁殖しない。コケの上の窪みに巣をつくる。双翅類や鞘翅類等の昆虫類、クモ類、甲殻類、植物の種子等を捕食する。	干拓地の事業実施区域外や干拓地周辺の干潟、干拓地東側の鍋田干拓地において確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の干潟や水田等であると推定される。																							
表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)																										
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>																							
鳥類	オバシギ (チドリ目シギ科)	本種は海岸の砂浜や干潟、海岸に近い沼沢地、河口部の砂泥地に生息する。旅鳥として渡来し、日本では繁殖しない。 <u>三重県には旅鳥として飛来する。貝類、甲殻類等を捕食する。</u>	秋季に干拓地の事業実施区域外や干拓地周辺の干潟において確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟、水田であり、 <u>満潮時には堤防等を避難場所として利用している。</u>																							
271	改訂	<p>準備書 p271 「6.1.7 重要な陸生動物 (1) 陸生動物の重要な種」の表を改訂 (下線: 改訂)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性</th> <th>確認状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>アカアシシギ (チドリ目シギ科)</td> <td>本種は干潟、河口、潟湖、池沼、ときには河川等の砂泥地の浅い水域に生息する。旅鳥として日本全土に現れる。繁殖期は 4 月～6 月であり、北海道で少数が繁殖する。草むらの草株の元や間に巣をつくる。軟体動物、甲殻類、ガガンボの幼虫等を捕食する。</td> <td>干拓地北側の干潟で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟であると推定される。</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価書 (p. 293)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>2)</sup></th> <th>確認状況<sup>2)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>アカアシシギ (チドリ目シギ科)</td> <td>本種は干潟、河口、潟湖、池沼、ときには河川等の砂泥地の浅い水域に生息する。旅鳥として日本全土に現れ、北海道で少数が繁殖する。軟体動物、甲殻類、ガガンボの幼虫等を捕食する。</td> <td>春季に干拓地北側の干潟で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟であり、<u>満潮時には堤防等を避難場所として利用している。</u></td> </tr> </tbody> </table>	表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)				分類群	種名	種の分布・特性	確認状況	鳥類	アカアシシギ (チドリ目シギ科)	本種は干潟、河口、潟湖、池沼、ときには河川等の砂泥地の浅い水域に生息する。旅鳥として日本全土に現れる。繁殖期は 4 月～6 月であり、北海道で少数が繁殖する。草むらの草株の元や間に巣をつくる。軟体動物、甲殻類、ガガンボの幼虫等を捕食する。	干拓地北側の干潟で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟であると推定される。	表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)				分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>	鳥類	アカアシシギ (チドリ目シギ科)	本種は干潟、河口、潟湖、池沼、ときには河川等の砂泥地の浅い水域に生息する。旅鳥として日本全土に現れ、北海道で少数が繁殖する。軟体動物、甲殻類、ガガンボの幼虫等を捕食する。	春季に干拓地北側の干潟で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟であり、 <u>満潮時には堤防等を避難場所として利用している。</u>
表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)																										
分類群	種名	種の分布・特性	確認状況																							
鳥類	アカアシシギ (チドリ目シギ科)	本種は干潟、河口、潟湖、池沼、ときには河川等の砂泥地の浅い水域に生息する。旅鳥として日本全土に現れる。繁殖期は 4 月～6 月であり、北海道で少数が繁殖する。草むらの草株の元や間に巣をつくる。軟体動物、甲殻類、ガガンボの幼虫等を捕食する。	干拓地北側の干潟で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟であると推定される。																							
表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)																										
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>																							
鳥類	アカアシシギ (チドリ目シギ科)	本種は干潟、河口、潟湖、池沼、ときには河川等の砂泥地の浅い水域に生息する。旅鳥として日本全土に現れ、北海道で少数が繁殖する。軟体動物、甲殻類、ガガンボの幼虫等を捕食する。	春季に干拓地北側の干潟で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟であり、 <u>満潮時には堤防等を避難場所として利用している。</u>																							
271	改訂	<p>準備書 p271 「6.1.7 重要な陸生動物 (1) 陸生動物の重要な種」の表を改訂 (下線: 改訂)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性</th> <th>確認状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>タカブシギ (チドリ目シギ科)</td> <td>本種は干潟、河川や河口の砂泥地等泥の多い水辺に生息する。旅鳥として水田、蓮田、川岸、湿地、入り江等に渡来し、各地で少数が越冬する。5 月～7 月に繁殖するが、日本では繁殖しない。蘇地の窪みに巣をつくる。昆虫、甲殻類等の小動物を捕食する。</td> <td>干拓地東側の鍋田干拓地で数個体が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の水田であると推定される。</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価書 (p. 293)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>2)</sup></th> <th>確認状況<sup>2)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>タカブシギ (チドリ目シギ科)</td> <td>本種は<u>水田、河川の砂泥地等泥の多い水辺</u>に生息する。旅鳥として渡来し、各地で少数が越冬する。日本では繁殖しない。<u>三重県には旅鳥として飛来する。</u>昆虫、甲殻類等の小動物を捕食する。</td> <td>春季と秋季に干拓地東側の鍋田干拓地等で数個体が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の水田であると推定される。</td> </tr> </tbody> </table>	表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)				分類群	種名	種の分布・特性	確認状況	鳥類	タカブシギ (チドリ目シギ科)	本種は干潟、河川や河口の砂泥地等泥の多い水辺に生息する。旅鳥として水田、蓮田、川岸、湿地、入り江等に渡来し、各地で少数が越冬する。5 月～7 月に繁殖するが、日本では繁殖しない。蘇地の窪みに巣をつくる。昆虫、甲殻類等の小動物を捕食する。	干拓地東側の鍋田干拓地で数個体が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の水田であると推定される。	表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)				分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>	鳥類	タカブシギ (チドリ目シギ科)	本種は <u>水田、河川の砂泥地等泥の多い水辺</u> に生息する。旅鳥として渡来し、各地で少数が越冬する。日本では繁殖しない。 <u>三重県には旅鳥として飛来する。</u> 昆虫、甲殻類等の小動物を捕食する。	春季と秋季に干拓地東側の鍋田干拓地等で数個体が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の水田であると推定される。
表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)																										
分類群	種名	種の分布・特性	確認状況																							
鳥類	タカブシギ (チドリ目シギ科)	本種は干潟、河川や河口の砂泥地等泥の多い水辺に生息する。旅鳥として水田、蓮田、川岸、湿地、入り江等に渡来し、各地で少数が越冬する。5 月～7 月に繁殖するが、日本では繁殖しない。蘇地の窪みに巣をつくる。昆虫、甲殻類等の小動物を捕食する。	干拓地東側の鍋田干拓地で数個体が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の水田であると推定される。																							
表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)																										
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>																							
鳥類	タカブシギ (チドリ目シギ科)	本種は <u>水田、河川の砂泥地等泥の多い水辺</u> に生息する。旅鳥として渡来し、各地で少数が越冬する。日本では繁殖しない。 <u>三重県には旅鳥として飛来する。</u> 昆虫、甲殻類等の小動物を捕食する。	春季と秋季に干拓地東側の鍋田干拓地等で数個体が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の水田であると推定される。																							

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (30)

頁	区分	変更の概要及び理由																
-	追記	<p>〃</p> <p>「6.1.7 重要な陸生動物 (1) 陸生動物の重要な種」に表を追記 (評価書 p. 293)</p> <p>表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>2)</sup></th> <th>確認状況<sup>2)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>オグロシギ (チドリ目シギ科)</td> <td>本種は海に近い水田や湿地、干潟などに生息する。旅鳥として渡来し、日本では繁殖しない。三重県には旅鳥として飛来する。カニ、貝、ゴカイ、昆虫類等を捕食する</td> <td>春季に干拓地西側の干潟で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟、水田等であり、満潮時には堤防等を避難場所として利用している。</td> </tr> </tbody> </table>	分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>	鳥類	オグロシギ (チドリ目シギ科)	本種は海に近い水田や湿地、干潟などに生息する。旅鳥として渡来し、日本では繁殖しない。三重県には旅鳥として飛来する。カニ、貝、ゴカイ、昆虫類等を捕食する	春季に干拓地西側の干潟で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟、水田等であり、満潮時には堤防等を避難場所として利用している。								
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>															
鳥類	オグロシギ (チドリ目シギ科)	本種は海に近い水田や湿地、干潟などに生息する。旅鳥として渡来し、日本では繁殖しない。三重県には旅鳥として飛来する。カニ、貝、ゴカイ、昆虫類等を捕食する	春季に干拓地西側の干潟で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟、水田等であり、満潮時には堤防等を避難場所として利用している。															
271	改訂	<p>〃</p> <p>準備書 p271 「6.1.7 重要な陸生動物 (1) 陸生動物の重要な種」の表を改訂 (下線: 改訂)</p> <p>準備書</p> <p>表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>2)</sup></th> <th>確認状況<sup>2)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>ダイシャクシギ (チドリ目シギ科)</td> <td>本種は海岸砂浜、入江の干潟、ときには潟湖、河川、湖沼の沿岸の砂泥地に生息する。旅鳥として日本全土に渡来し、本州中部以南では少数が越冬する。5月～7月に繁殖するが、日本では繁殖しない。草むらの中に浅い窪みをつくり、巣とする。昆虫類、ゴカイ類、二枚貝、カニ類を捕食する。</td> <td>主に干拓地周辺の干潟で確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟であると推定される。</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価書 (p. 293)</p> <p>表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>2)</sup></th> <th>確認状況<sup>2)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>ダイシャクシギ (チドリ目シギ科)</td> <td>本種は海岸砂浜、入江の干潟、ときには潟湖、河川、湖沼の沿岸の砂泥地に生息する。旅鳥として日本全土に渡来し、本州中部以南では少数が越冬する。日本では繁殖しない。<u>三重県には旅鳥として飛来する。カニ類の他、昆虫類、ゴカイ類、二枚貝を捕食する。</u></td> <td><u>春季に主に干拓地周辺の干潟で確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟であり、満潮時には堤防等を避難場所として利用している。</u></td> </tr> </tbody> </table>	分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>	鳥類	ダイシャクシギ (チドリ目シギ科)	本種は海岸砂浜、入江の干潟、ときには潟湖、河川、湖沼の沿岸の砂泥地に生息する。旅鳥として日本全土に渡来し、本州中部以南では少数が越冬する。5月～7月に繁殖するが、日本では繁殖しない。草むらの中に浅い窪みをつくり、巣とする。昆虫類、ゴカイ類、二枚貝、カニ類を捕食する。	主に干拓地周辺の干潟で確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟であると推定される。	分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>	鳥類	ダイシャクシギ (チドリ目シギ科)	本種は海岸砂浜、入江の干潟、ときには潟湖、河川、湖沼の沿岸の砂泥地に生息する。旅鳥として日本全土に渡来し、本州中部以南では少数が越冬する。日本では繁殖しない。 <u>三重県には旅鳥として飛来する。カニ類の他、昆虫類、ゴカイ類、二枚貝を捕食する。</u>	<u>春季に主に干拓地周辺の干潟で確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟であり、満潮時には堤防等を避難場所として利用している。</u>
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>															
鳥類	ダイシャクシギ (チドリ目シギ科)	本種は海岸砂浜、入江の干潟、ときには潟湖、河川、湖沼の沿岸の砂泥地に生息する。旅鳥として日本全土に渡来し、本州中部以南では少数が越冬する。5月～7月に繁殖するが、日本では繁殖しない。草むらの中に浅い窪みをつくり、巣とする。昆虫類、ゴカイ類、二枚貝、カニ類を捕食する。	主に干拓地周辺の干潟で確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟であると推定される。															
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>															
鳥類	ダイシャクシギ (チドリ目シギ科)	本種は海岸砂浜、入江の干潟、ときには潟湖、河川、湖沼の沿岸の砂泥地に生息する。旅鳥として日本全土に渡来し、本州中部以南では少数が越冬する。日本では繁殖しない。 <u>三重県には旅鳥として飛来する。カニ類の他、昆虫類、ゴカイ類、二枚貝を捕食する。</u>	<u>春季に主に干拓地周辺の干潟で確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟であり、満潮時には堤防等を避難場所として利用している。</u>															
271	改訂	<p>〃</p> <p>準備書 p271 「6.1.7 重要な陸生動物 (1) 陸生動物の重要な種」の表を改訂 (下線: 改訂)</p> <p>準備書</p> <p>表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>2)</sup></th> <th>確認状況<sup>2)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>ホウロクシギ (チドリ目シギ科)</td> <td>本種は海岸の砂浜、入り江の干潟、河口の砂泥地に生息する。旅鳥として日本全土に渡来し、本州中部以南では少数が越冬する。5月～7月に繁殖するが、日本では繁殖しない。蘆類のビート湿原、ヨシ原、湿地草原、灌木が散在する湿った荒地等に巣をつくる。ゴカイ類やカニ類を捕食する。</td> <td>干拓地周辺の干潟で少数が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟であると推定される。</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価書 (p. 293)</p> <p>表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>2)</sup></th> <th>確認状況<sup>2)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>ホウロクシギ (チドリ目シギ科)</td> <td>本種は海岸の砂浜、入り江の干潟、河口の砂泥地に生息する。旅鳥として日本全土に渡来し、本州中部以南では少数が越冬する。日本では繁殖しない。カニ類、ゴカイ類を捕食する。</td> <td><u>秋季に干拓地周辺の干潟等で少数が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟であり、満潮時には堤防等を避難場所として利用している。</u></td> </tr> </tbody> </table>	分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>	鳥類	ホウロクシギ (チドリ目シギ科)	本種は海岸の砂浜、入り江の干潟、河口の砂泥地に生息する。旅鳥として日本全土に渡来し、本州中部以南では少数が越冬する。5月～7月に繁殖するが、日本では繁殖しない。蘆類のビート湿原、ヨシ原、湿地草原、灌木が散在する湿った荒地等に巣をつくる。ゴカイ類やカニ類を捕食する。	干拓地周辺の干潟で少数が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟であると推定される。	分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>	鳥類	ホウロクシギ (チドリ目シギ科)	本種は海岸の砂浜、入り江の干潟、河口の砂泥地に生息する。旅鳥として日本全土に渡来し、本州中部以南では少数が越冬する。日本では繁殖しない。カニ類、ゴカイ類を捕食する。	<u>秋季に干拓地周辺の干潟等で少数が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟であり、満潮時には堤防等を避難場所として利用している。</u>
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>															
鳥類	ホウロクシギ (チドリ目シギ科)	本種は海岸の砂浜、入り江の干潟、河口の砂泥地に生息する。旅鳥として日本全土に渡来し、本州中部以南では少数が越冬する。5月～7月に繁殖するが、日本では繁殖しない。蘆類のビート湿原、ヨシ原、湿地草原、灌木が散在する湿った荒地等に巣をつくる。ゴカイ類やカニ類を捕食する。	干拓地周辺の干潟で少数が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟であると推定される。															
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>															
鳥類	ホウロクシギ (チドリ目シギ科)	本種は海岸の砂浜、入り江の干潟、河口の砂泥地に生息する。旅鳥として日本全土に渡来し、本州中部以南では少数が越冬する。日本では繁殖しない。カニ類、ゴカイ類を捕食する。	<u>秋季に干拓地周辺の干潟等で少数が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟であり、満潮時には堤防等を避難場所として利用している。</u>															

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (31)

頁	区分	変更の概要及び理由																								
271	改訂	<p>準備書 p271 「6.1.7 重要な陸生動物 (1) 陸生動物の重要な種」の表を改訂 (下線: 改訂)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>2)</sup></th> <th>確認状況<sup>2)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>コシャクシギ (チドリ目シギ科)</td> <td>本種は海岸の干潟、泥地の平原や草原に生息する。旅鳥として各地に少数が渡来する。九州や対馬では比較的記録が多く、鹿児島で 20 羽以上の群れで確認された記録もある。5 月～7 月ごろに繁殖するが、日本では繁殖しない。また、繁殖について詳しいことは分かっていない。甲虫、コオロギ、アリ類、植物の種子等を捕食する。</td> <td>干拓地西側の木曾川に面した僅かな干潟で確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟であると推定される。</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価書 (p. 294)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>2)</sup></th> <th>確認状況<sup>2)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>コシャクシギ (チドリ目シギ科)</td> <td>本種は海岸に近い農耕地や干潟の後背に成立しているヨシ等の草生地に生息する。旅鳥として各地に少数が渡来する。九州や対馬では比較的記録が多く、鹿児島で 20 羽以上の群れで確認された記録もある。三重県では迷鳥とされている。日本では繁殖しない。甲虫、コオロギ、アリ類、植物の種子等を捕食する。</td> <td>春季に干拓地西側の木曾川に面した堤防及び僅かな干潟で確認されているが、本種の分布・特性を考慮すると、本種の主な生息地は、干拓地周辺の草生地であると推定される。</td> </tr> </tbody> </table>	表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)				分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>	鳥類	コシャクシギ (チドリ目シギ科)	本種は海岸の干潟、泥地の平原や草原に生息する。旅鳥として各地に少数が渡来する。九州や対馬では比較的記録が多く、鹿児島で 20 羽以上の群れで確認された記録もある。5 月～7 月ごろに繁殖するが、日本では繁殖しない。また、繁殖について詳しいことは分かっていない。甲虫、コオロギ、アリ類、植物の種子等を捕食する。	干拓地西側の木曾川に面した僅かな干潟で確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟であると推定される。	表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)				分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>	鳥類	コシャクシギ (チドリ目シギ科)	本種は海岸に近い農耕地や干潟の後背に成立しているヨシ等の草生地に生息する。旅鳥として各地に少数が渡来する。九州や対馬では比較的記録が多く、鹿児島で 20 羽以上の群れで確認された記録もある。三重県では迷鳥とされている。日本では繁殖しない。甲虫、コオロギ、アリ類、植物の種子等を捕食する。	春季に干拓地西側の木曾川に面した堤防及び僅かな干潟で確認されているが、本種の分布・特性を考慮すると、本種の主な生息地は、干拓地周辺の草生地であると推定される。
表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)																										
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>																							
鳥類	コシャクシギ (チドリ目シギ科)	本種は海岸の干潟、泥地の平原や草原に生息する。旅鳥として各地に少数が渡来する。九州や対馬では比較的記録が多く、鹿児島で 20 羽以上の群れで確認された記録もある。5 月～7 月ごろに繁殖するが、日本では繁殖しない。また、繁殖について詳しいことは分かっていない。甲虫、コオロギ、アリ類、植物の種子等を捕食する。	干拓地西側の木曾川に面した僅かな干潟で確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地周辺の干潟であると推定される。																							
表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)																										
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>																							
鳥類	コシャクシギ (チドリ目シギ科)	本種は海岸に近い農耕地や干潟の後背に成立しているヨシ等の草生地に生息する。旅鳥として各地に少数が渡来する。九州や対馬では比較的記録が多く、鹿児島で 20 羽以上の群れで確認された記録もある。三重県では迷鳥とされている。日本では繁殖しない。甲虫、コオロギ、アリ類、植物の種子等を捕食する。	春季に干拓地西側の木曾川に面した堤防及び僅かな干潟で確認されているが、本種の分布・特性を考慮すると、本種の主な生息地は、干拓地周辺の草生地であると推定される。																							
271	改訂	<p>準備書 p271 「6.1.7 重要な陸生動物 (1) 陸生動物の重要な種」の表を改訂 (下線: 改訂)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>2)</sup></th> <th>確認状況<sup>2)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>オオジシギ (チドリ目シギ科)</td> <td>本種は比較的広々とした草原や荒地の灌木草原に生息する。夏鳥として本州中部の高原、東北地方から北海道の草原に渡来し、4 月～7 月に繁殖する。よく茂った草や藪の下の隠れた地上の窪みに巣をつくる。昆虫類、ミミズ、植物の種子、草の根、葉等を捕食する。</td> <td>干拓地の事業実施区域外や干拓地周辺の干潟、干拓地東側の鍋田干拓地で確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の干潟や水田等であると推定される。</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価書 (p. 294)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>2)</sup></th> <th>確認状況<sup>2)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>オオジシギ<sup>2)</sup> (チドリ目シギ科)</td> <td>本種は比較的広々とした草原や荒地の灌木草原に生息する。夏鳥として本州中部の高原、東北地方から北海道の草原に渡来し、4 月～7 月に繁殖する。三重県には旅鳥として飛来する。よく茂った草や藪の下の隠れた地上の窪みに巣をつくる。昆虫類、ミミズ等を捕食する。</td> <td>春季と冬季に干拓地の事業実施区域外や干拓地東側の鍋田干拓地で確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地及びその周辺の草地等であると推定される。</td> </tr> </tbody> </table>	表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)				分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>	鳥類	オオジシギ (チドリ目シギ科)	本種は比較的広々とした草原や荒地の灌木草原に生息する。夏鳥として本州中部の高原、東北地方から北海道の草原に渡来し、4 月～7 月に繁殖する。よく茂った草や藪の下の隠れた地上の窪みに巣をつくる。昆虫類、ミミズ、植物の種子、草の根、葉等を捕食する。	干拓地の事業実施区域外や干拓地周辺の干潟、干拓地東側の鍋田干拓地で確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の干潟や水田等であると推定される。	表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)				分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>	鳥類	オオジシギ <sup>2)</sup> (チドリ目シギ科)	本種は比較的広々とした草原や荒地の灌木草原に生息する。夏鳥として本州中部の高原、東北地方から北海道の草原に渡来し、4 月～7 月に繁殖する。三重県には旅鳥として飛来する。よく茂った草や藪の下の隠れた地上の窪みに巣をつくる。昆虫類、ミミズ等を捕食する。	春季と冬季に干拓地の事業実施区域外や干拓地東側の鍋田干拓地で確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地及びその周辺の草地等であると推定される。
表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (4/7)																										
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>																							
鳥類	オオジシギ (チドリ目シギ科)	本種は比較的広々とした草原や荒地の灌木草原に生息する。夏鳥として本州中部の高原、東北地方から北海道の草原に渡来し、4 月～7 月に繁殖する。よく茂った草や藪の下の隠れた地上の窪みに巣をつくる。昆虫類、ミミズ、植物の種子、草の根、葉等を捕食する。	干拓地の事業実施区域外や干拓地周辺の干潟、干拓地東側の鍋田干拓地で確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の干潟や水田等であると推定される。																							
表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)																										
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>																							
鳥類	オオジシギ <sup>2)</sup> (チドリ目シギ科)	本種は比較的広々とした草原や荒地の灌木草原に生息する。夏鳥として本州中部の高原、東北地方から北海道の草原に渡来し、4 月～7 月に繁殖する。三重県には旅鳥として飛来する。よく茂った草や藪の下の隠れた地上の窪みに巣をつくる。昆虫類、ミミズ等を捕食する。	春季と冬季に干拓地の事業実施区域外や干拓地東側の鍋田干拓地で確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地及びその周辺の草地等であると推定される。																							
272	改訂	<p>準備書 p272 「6.1.7 重要な陸生動物 (1) 陸生動物の重要な種」の表を改訂 (下線: 改訂)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>2)</sup></th> <th>確認状況<sup>2)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>セイタカシギ (チドリ目セイタカシギ科)</td> <td>本種は湿地帯、河口部や入り江の干潟、河川の氾濫原、水を張った水田、湖沼縁の砂泥地に生息する。旅鳥又は冬鳥として希に渡来するが、本州の一部では留鳥として少数が繁殖する。乾いて開けた場所の草が疎らな砂泥地の浅い窪みに巣をつくる。双翅類等の昆虫の幼虫、小さい甲殻類、小魚やオタマジャクシ等を捕食する。</td> <td>干拓地東側の鍋田干拓地で確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の水田であると推定される。</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価書 (p. 294)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>2)</sup></th> <th>確認状況<sup>2)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>セイタカシギ (チドリ目セイタカシギ科)</td> <td>本種は湿地帯、河口部や入り江の干潟、河川の氾濫原、水を張った水田、湖沼縁の砂泥地に生息する。旅鳥又は冬鳥として希に渡来するが、本州の一部では留鳥として少数が繁殖する。三重県では迷鳥とされている。乾いて開けた場所の草が疎らな砂泥地の浅い窪みに巣をつくる。双翅類等の昆虫の幼虫、小さい甲殻類、小魚やオタマジャクシ等を捕食する。</td> <td>夏季と秋季に干拓地東側の鍋田干拓地で確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の水田であると推定される。 なお、三重県では迷鳥とされているが、現地調査の結果に基づき調査地での渡り区分を留鳥(種)と判断した。</td> </tr> </tbody> </table>	表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)				分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>	鳥類	セイタカシギ (チドリ目セイタカシギ科)	本種は湿地帯、河口部や入り江の干潟、河川の氾濫原、水を張った水田、湖沼縁の砂泥地に生息する。旅鳥又は冬鳥として希に渡来するが、本州の一部では留鳥として少数が繁殖する。乾いて開けた場所の草が疎らな砂泥地の浅い窪みに巣をつくる。双翅類等の昆虫の幼虫、小さい甲殻類、小魚やオタマジャクシ等を捕食する。	干拓地東側の鍋田干拓地で確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の水田であると推定される。	表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)				分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>	鳥類	セイタカシギ (チドリ目セイタカシギ科)	本種は湿地帯、河口部や入り江の干潟、河川の氾濫原、水を張った水田、湖沼縁の砂泥地に生息する。旅鳥又は冬鳥として希に渡来するが、本州の一部では留鳥として少数が繁殖する。三重県では迷鳥とされている。乾いて開けた場所の草が疎らな砂泥地の浅い窪みに巣をつくる。双翅類等の昆虫の幼虫、小さい甲殻類、小魚やオタマジャクシ等を捕食する。	夏季と秋季に干拓地東側の鍋田干拓地で確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の水田であると推定される。 なお、三重県では迷鳥とされているが、現地調査の結果に基づき調査地での渡り区分を留鳥(種)と判断した。
表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)																										
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>																							
鳥類	セイタカシギ (チドリ目セイタカシギ科)	本種は湿地帯、河口部や入り江の干潟、河川の氾濫原、水を張った水田、湖沼縁の砂泥地に生息する。旅鳥又は冬鳥として希に渡来するが、本州の一部では留鳥として少数が繁殖する。乾いて開けた場所の草が疎らな砂泥地の浅い窪みに巣をつくる。双翅類等の昆虫の幼虫、小さい甲殻類、小魚やオタマジャクシ等を捕食する。	干拓地東側の鍋田干拓地で確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の水田であると推定される。																							
表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)																										
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>																							
鳥類	セイタカシギ (チドリ目セイタカシギ科)	本種は湿地帯、河口部や入り江の干潟、河川の氾濫原、水を張った水田、湖沼縁の砂泥地に生息する。旅鳥又は冬鳥として希に渡来するが、本州の一部では留鳥として少数が繁殖する。三重県では迷鳥とされている。乾いて開けた場所の草が疎らな砂泥地の浅い窪みに巣をつくる。双翅類等の昆虫の幼虫、小さい甲殻類、小魚やオタマジャクシ等を捕食する。	夏季と秋季に干拓地東側の鍋田干拓地で確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の水田であると推定される。 なお、三重県では迷鳥とされているが、現地調査の結果に基づき調査地での渡り区分を留鳥(種)と判断した。																							

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (32)

頁	区分	変更の概要及び理由																								
272	改訂	<p>//</p> <p>準備書 p272 「6.1.7 重要な陸生動物 (1) 陸生動物の重要な種」の表を改訂 (下線: 改訂)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)</th> </tr> <tr> <th>鳥類</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>2)</sup></th> <th>確認状況<sup>2)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>ズグロカモメ (チドリ目 カモメ科)</td> <td>本種は内湾や入り江の干潟等に生息する。冬鳥として北海道から沖縄までの沿岸各地に渡来する。正確な繁殖地や繁殖生態はまだ分かっていない。カニ類等を捕食する。</td> <td>干拓地周辺の干潟で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の干潟であると推定される。</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価書 (p. 294)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>2)</sup></th> <th>確認状況<sup>2)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>ズグロカモメ (チドリ目 カモメ科)</td> <td>本種は内湾や入り江の干潟等に生息する。冬鳥として北海道から沖縄までの沿岸各地に渡来する。カニ類等を捕食する。</td> <td>冬季に干拓地周辺の干潟で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の干潟であり、満潮時には堤防等を避蔵場所として利用している。 なお、一般的な渡り区分は冬鳥とされているが、現地調査の結果に基づき調査地での渡り区分を冬鳥(種)と判断した。</td> </tr> </tbody> </table>	表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)				鳥類	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>	鳥類	ズグロカモメ (チドリ目 カモメ科)	本種は内湾や入り江の干潟等に生息する。冬鳥として北海道から沖縄までの沿岸各地に渡来する。正確な繁殖地や繁殖生態はまだ分かっていない。カニ類等を捕食する。	干拓地周辺の干潟で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の干潟であると推定される。	表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)				分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>	鳥類	ズグロカモメ (チドリ目 カモメ科)	本種は内湾や入り江の干潟等に生息する。冬鳥として北海道から沖縄までの沿岸各地に渡来する。カニ類等を捕食する。	冬季に干拓地周辺の干潟で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の干潟であり、満潮時には堤防等を避蔵場所として利用している。 なお、一般的な渡り区分は冬鳥とされているが、現地調査の結果に基づき調査地での渡り区分を冬鳥(種)と判断した。
表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)																										
鳥類	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>																							
鳥類	ズグロカモメ (チドリ目 カモメ科)	本種は内湾や入り江の干潟等に生息する。冬鳥として北海道から沖縄までの沿岸各地に渡来する。正確な繁殖地や繁殖生態はまだ分かっていない。カニ類等を捕食する。	干拓地周辺の干潟で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の干潟であると推定される。																							
表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)																										
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>																							
鳥類	ズグロカモメ (チドリ目 カモメ科)	本種は内湾や入り江の干潟等に生息する。冬鳥として北海道から沖縄までの沿岸各地に渡来する。カニ類等を捕食する。	冬季に干拓地周辺の干潟で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の干潟であり、満潮時には堤防等を避蔵場所として利用している。 なお、一般的な渡り区分は冬鳥とされているが、現地調査の結果に基づき調査地での渡り区分を冬鳥(種)と判断した。																							
272	改訂	<p>//</p> <p>準備書 p272 「6.1.7 重要な陸生動物 (1) 陸生動物の重要な種」の表を改訂 (下線: 改訂)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)</th> </tr> <tr> <th>鳥類</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>2)</sup></th> <th>確認状況<sup>2)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>コアジサシ (チドリ目 カモメ科)</td> <td>本種は海岸や埋立地・河川の中州や河原に生息する。夏鳥として本州以南に渡来し、5月～7月に繁殖する。海岸の砂浜、埋立地、川の中州等に浅い窪みを掘り、巣をつくる。魚類を捕食する。</td> <td>主に干拓地周辺の水路部で、多数個体が採餌行動をとっているのが確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の水辺であると推定される。</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価書 (p. 294)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>2)</sup></th> <th>確認状況<sup>2)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>コアジサシ (チドリ目 カモメ科)</td> <td>本種は海岸や埋立地・河川の中州や河原に生息する。夏鳥として本州以南に渡来し、5月～7月に繁殖する。三重県には旅鳥として飛来する。海岸の砂浜、埋立地、川の中州等に浅い窪みを掘り、巣をつくる。魚類を捕食する。</td> <td>春季から秋季にかけて主に干拓地周辺の水路部で、多数個体が採餌行動をとっているのが確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の水辺であると推定される。 なお、三重県には旅鳥として渡来するとされているが、現地調査の結果に基づき調査地での渡り区分を(夏鳥)<sup>2)</sup>と判断した。</td> </tr> </tbody> </table>	表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)				鳥類	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>	鳥類	コアジサシ (チドリ目 カモメ科)	本種は海岸や埋立地・河川の中州や河原に生息する。夏鳥として本州以南に渡来し、5月～7月に繁殖する。海岸の砂浜、埋立地、川の中州等に浅い窪みを掘り、巣をつくる。魚類を捕食する。	主に干拓地周辺の水路部で、多数個体が採餌行動をとっているのが確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の水辺であると推定される。	表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)				分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>	鳥類	コアジサシ (チドリ目 カモメ科)	本種は海岸や埋立地・河川の中州や河原に生息する。夏鳥として本州以南に渡来し、5月～7月に繁殖する。三重県には旅鳥として飛来する。海岸の砂浜、埋立地、川の中州等に浅い窪みを掘り、巣をつくる。魚類を捕食する。	春季から秋季にかけて主に干拓地周辺の水路部で、多数個体が採餌行動をとっているのが確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の水辺であると推定される。 なお、三重県には旅鳥として渡来するとされているが、現地調査の結果に基づき調査地での渡り区分を(夏鳥) <sup>2)</sup> と判断した。
表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)																										
鳥類	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>																							
鳥類	コアジサシ (チドリ目 カモメ科)	本種は海岸や埋立地・河川の中州や河原に生息する。夏鳥として本州以南に渡来し、5月～7月に繁殖する。海岸の砂浜、埋立地、川の中州等に浅い窪みを掘り、巣をつくる。魚類を捕食する。	主に干拓地周辺の水路部で、多数個体が採餌行動をとっているのが確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の水辺であると推定される。																							
表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)																										
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>																							
鳥類	コアジサシ (チドリ目 カモメ科)	本種は海岸や埋立地・河川の中州や河原に生息する。夏鳥として本州以南に渡来し、5月～7月に繁殖する。三重県には旅鳥として飛来する。海岸の砂浜、埋立地、川の中州等に浅い窪みを掘り、巣をつくる。魚類を捕食する。	春季から秋季にかけて主に干拓地周辺の水路部で、多数個体が採餌行動をとっているのが確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の水辺であると推定される。 なお、三重県には旅鳥として渡来するとされているが、現地調査の結果に基づき調査地での渡り区分を(夏鳥) <sup>2)</sup> と判断した。																							
272	改訂	<p>//</p> <p>準備書 p272 「6.1.7 重要な陸生動物 (1) 陸生動物の重要な種」の表を改訂 (下線: 改訂)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)</th> </tr> <tr> <th>鳥類</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>2)</sup></th> <th>確認状況<sup>2)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>アオバズク (フクロウ目 フクロウ科)</td> <td>本種は低地や低山帯の大きい樹木のある樹林に生息する。夏鳥として全国に渡来するが、沖縄県では越冬する。ほぼ日本全土で5月～8月に繁殖する。樹洞を巣として利用する。セミ、タガメ、カミキリムシ、トンボ類、小鳥、コウモリ、カエル等も捕食する。</td> <td>干拓地東側の鍋田干拓地で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の農耕地や草地等であるとえられる。</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価書 (p. 294)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>2)</sup></th> <th>確認状況<sup>2)</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>アオバズク (フクロウ目 フクロウ科)</td> <td>本種は低地や低山帯の大きい樹木のある樹林に生息する。夏鳥として全国に渡来するが、沖縄県では越冬する。三重県には夏鳥として渡来する。ほぼ日本全土で5月～8月に繁殖する。樹洞を巣として利用する。セミ、タガメ、カミキリムシ、トンボ類、小鳥、コウモリ、カエル等も捕食する。</td> <td>夏季に干拓地東側の鍋田干拓地で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の樹林であると推定される。 なお、三重県には夏鳥として渡来するとされているが、現地調査の結果に基づき調査地での渡り区分を(夏鳥)と判断した。</td> </tr> </tbody> </table>	表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)				鳥類	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>	鳥類	アオバズク (フクロウ目 フクロウ科)	本種は低地や低山帯の大きい樹木のある樹林に生息する。夏鳥として全国に渡来するが、沖縄県では越冬する。ほぼ日本全土で5月～8月に繁殖する。樹洞を巣として利用する。セミ、タガメ、カミキリムシ、トンボ類、小鳥、コウモリ、カエル等も捕食する。	干拓地東側の鍋田干拓地で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の農耕地や草地等であるとえられる。	表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)				分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>	鳥類	アオバズク (フクロウ目 フクロウ科)	本種は低地や低山帯の大きい樹木のある樹林に生息する。夏鳥として全国に渡来するが、沖縄県では越冬する。三重県には夏鳥として渡来する。ほぼ日本全土で5月～8月に繁殖する。樹洞を巣として利用する。セミ、タガメ、カミキリムシ、トンボ類、小鳥、コウモリ、カエル等も捕食する。	夏季に干拓地東側の鍋田干拓地で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の樹林であると推定される。 なお、三重県には夏鳥として渡来するとされているが、現地調査の結果に基づき調査地での渡り区分を(夏鳥)と判断した。
表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)																										
鳥類	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>																							
鳥類	アオバズク (フクロウ目 フクロウ科)	本種は低地や低山帯の大きい樹木のある樹林に生息する。夏鳥として全国に渡来するが、沖縄県では越冬する。ほぼ日本全土で5月～8月に繁殖する。樹洞を巣として利用する。セミ、タガメ、カミキリムシ、トンボ類、小鳥、コウモリ、カエル等も捕食する。	干拓地東側の鍋田干拓地で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の農耕地や草地等であるとえられる。																							
表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)																										
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>																							
鳥類	アオバズク (フクロウ目 フクロウ科)	本種は低地や低山帯の大きい樹木のある樹林に生息する。夏鳥として全国に渡来するが、沖縄県では越冬する。三重県には夏鳥として渡来する。ほぼ日本全土で5月～8月に繁殖する。樹洞を巣として利用する。セミ、タガメ、カミキリムシ、トンボ類、小鳥、コウモリ、カエル等も捕食する。	夏季に干拓地東側の鍋田干拓地で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地周辺の樹林であると推定される。 なお、三重県には夏鳥として渡来するとされているが、現地調査の結果に基づき調査地での渡り区分を(夏鳥)と判断した。																							

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要(33)

頁	区分	変更の概要及び理由																				
272	改訂	<p>//</p> <p>準備書 p272 「6.1.7 重要な陸生動物 (1) 陸生動物の重要な種」の表を改訂 (下線:改訂)</p> <table border="1"> <tr> <td>準備書</td> <td colspan="3"> <b>表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)</b> </td> </tr> <tr> <td>鳥類</td> <td>サンショウクイ (スズメ目 サンショウクイ科)</td> <td>本種は標高 1000m 以下の山地、丘陵、平地の高い木のある広葉樹林に生息する。夏鳥として北海道を除き本州から西表島まで渡来し、5 月～7 月に繁殖する。ハンノキ、ハルニレ等の高木の上部の枝の上に浅い椀形の巣をつくる。昆虫類、クモ類を捕食する。</td> <td>干拓地上空を通過する個体が 1 個体確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種は干拓地及びその周辺を主な生息地としていないと推定される。</td> </tr> <tr> <td>評価書 (p. 295)</td> <td colspan="3"> <b>表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)</b> </td> </tr> <tr> <td>分類群</td> <td>種名</td> <td>種の分布・特性<sup>2)</sup></td> <td>確認状況<sup>2)</sup></td> </tr> <tr> <td>鳥類</td> <td>サンショウクイ (スズメ目 サンショウクイ科)</td> <td>本種は標高 1000m 以下の山地、丘陵、平地の高い木のある広葉樹林に生息する。夏鳥として北海道を除き本州から西表島まで渡来し、5 月～7 月に繁殖する。<u>三重県には夏鳥として渡来する。</u>ハンノキ、ハルニレ等の高木の上部の枝の上に浅い椀形の巣をつくる。昆虫類、クモ類を捕食する。</td> <td>夏季に干拓地上空を通過する個体が 1 個体確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種は干拓地及びその周辺を主な生息地としていないと推定される。 <u>なお、三重県には夏鳥として渡来するとされているが、現地調査の結果に基づき調査地での渡り区分を旅鳥と判断した。</u></td> </tr> </table>	準備書	<b>表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)</b>			鳥類	サンショウクイ (スズメ目 サンショウクイ科)	本種は標高 1000m 以下の山地、丘陵、平地の高い木のある広葉樹林に生息する。夏鳥として北海道を除き本州から西表島まで渡来し、5 月～7 月に繁殖する。ハンノキ、ハルニレ等の高木の上部の枝の上に浅い椀形の巣をつくる。昆虫類、クモ類を捕食する。	干拓地上空を通過する個体が 1 個体確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種は干拓地及びその周辺を主な生息地としていないと推定される。	評価書 (p. 295)	<b>表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)</b>			分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>	鳥類	サンショウクイ (スズメ目 サンショウクイ科)	本種は標高 1000m 以下の山地、丘陵、平地の高い木のある広葉樹林に生息する。夏鳥として北海道を除き本州から西表島まで渡来し、5 月～7 月に繁殖する。 <u>三重県には夏鳥として渡来する。</u> ハンノキ、ハルニレ等の高木の上部の枝の上に浅い椀形の巣をつくる。昆虫類、クモ類を捕食する。	夏季に干拓地上空を通過する個体が 1 個体確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種は干拓地及びその周辺を主な生息地としていないと推定される。 <u>なお、三重県には夏鳥として渡来するとされているが、現地調査の結果に基づき調査地での渡り区分を旅鳥と判断した。</u>
準備書	<b>表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)</b>																					
鳥類	サンショウクイ (スズメ目 サンショウクイ科)	本種は標高 1000m 以下の山地、丘陵、平地の高い木のある広葉樹林に生息する。夏鳥として北海道を除き本州から西表島まで渡来し、5 月～7 月に繁殖する。ハンノキ、ハルニレ等の高木の上部の枝の上に浅い椀形の巣をつくる。昆虫類、クモ類を捕食する。	干拓地上空を通過する個体が 1 個体確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種は干拓地及びその周辺を主な生息地としていないと推定される。																			
評価書 (p. 295)	<b>表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)</b>																					
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>																			
鳥類	サンショウクイ (スズメ目 サンショウクイ科)	本種は標高 1000m 以下の山地、丘陵、平地の高い木のある広葉樹林に生息する。夏鳥として北海道を除き本州から西表島まで渡来し、5 月～7 月に繁殖する。 <u>三重県には夏鳥として渡来する。</u> ハンノキ、ハルニレ等の高木の上部の枝の上に浅い椀形の巣をつくる。昆虫類、クモ類を捕食する。	夏季に干拓地上空を通過する個体が 1 個体確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種は干拓地及びその周辺を主な生息地としていないと推定される。 <u>なお、三重県には夏鳥として渡来するとされているが、現地調査の結果に基づき調査地での渡り区分を旅鳥と判断した。</u>																			
272	改訂	<p>//</p> <p>準備書 p272 「6.1.7 重要な陸生動物 (1) 陸生動物の重要な種」の表を改訂 (下線:改訂)</p> <table border="1"> <tr> <td>準備書</td> <td colspan="3"> <b>表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)</b> </td> </tr> <tr> <td>鳥類</td> <td>クロツグミ (スズメ目 ツグミ科)</td> <td>本種は広葉樹林、スギ等の造林針葉樹林の造林地に生息する。夏鳥として九州以北の各地に渡来し、5 月～7 月に繁殖する。木の枝の上に、コケ類や枯れ草、土等を材料に椀形の巣をつくる。</td> <td>干拓地周辺で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種は干拓地及びその周辺を主な生息地としていないと推定される。</td> </tr> <tr> <td>評価書 (p. 295)</td> <td colspan="3"> <b>表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)</b> </td> </tr> <tr> <td>分類群</td> <td>種名</td> <td>種の分布・特性<sup>2)</sup></td> <td>確認状況<sup>2)</sup></td> </tr> <tr> <td>鳥類</td> <td>クロツグミ (スズメ目 ツグミ科)</td> <td>本種は広葉樹林、スギ等の針葉樹林の造林地に生息する。夏鳥として九州以北の各地に渡来し、5 月～7 月に繁殖する。<u>三重県には夏鳥として渡来する。</u>木の枝の上に、コケ類や枯れ草、土等を材料に椀形の巣をつくる。</td> <td>春季に干拓地周辺で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種は干拓地及びその周辺を主な生息地としていないと推定される。 <u>なお、三重県には夏鳥として渡来するとされているが、現地調査の結果に基づき調査地での渡り区分を旅鳥と判断した。</u></td> </tr> </table>	準備書	<b>表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)</b>			鳥類	クロツグミ (スズメ目 ツグミ科)	本種は広葉樹林、スギ等の造林針葉樹林の造林地に生息する。夏鳥として九州以北の各地に渡来し、5 月～7 月に繁殖する。木の枝の上に、コケ類や枯れ草、土等を材料に椀形の巣をつくる。	干拓地周辺で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種は干拓地及びその周辺を主な生息地としていないと推定される。	評価書 (p. 295)	<b>表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)</b>			分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>	鳥類	クロツグミ (スズメ目 ツグミ科)	本種は広葉樹林、スギ等の針葉樹林の造林地に生息する。夏鳥として九州以北の各地に渡来し、5 月～7 月に繁殖する。 <u>三重県には夏鳥として渡来する。</u> 木の枝の上に、コケ類や枯れ草、土等を材料に椀形の巣をつくる。	春季に干拓地周辺で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種は干拓地及びその周辺を主な生息地としていないと推定される。 <u>なお、三重県には夏鳥として渡来するとされているが、現地調査の結果に基づき調査地での渡り区分を旅鳥と判断した。</u>
準備書	<b>表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)</b>																					
鳥類	クロツグミ (スズメ目 ツグミ科)	本種は広葉樹林、スギ等の造林針葉樹林の造林地に生息する。夏鳥として九州以北の各地に渡来し、5 月～7 月に繁殖する。木の枝の上に、コケ類や枯れ草、土等を材料に椀形の巣をつくる。	干拓地周辺で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種は干拓地及びその周辺を主な生息地としていないと推定される。																			
評価書 (p. 295)	<b>表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)</b>																					
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>																			
鳥類	クロツグミ (スズメ目 ツグミ科)	本種は広葉樹林、スギ等の針葉樹林の造林地に生息する。夏鳥として九州以北の各地に渡来し、5 月～7 月に繁殖する。 <u>三重県には夏鳥として渡来する。</u> 木の枝の上に、コケ類や枯れ草、土等を材料に椀形の巣をつくる。	春季に干拓地周辺で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種は干拓地及びその周辺を主な生息地としていないと推定される。 <u>なお、三重県には夏鳥として渡来するとされているが、現地調査の結果に基づき調査地での渡り区分を旅鳥と判断した。</u>																			
272	改訂	<p>//</p> <p>準備書 p272 「6.1.7 重要な陸生動物 (1) 陸生動物の重要な種」の表を改訂 (下線:改訂)</p> <table border="1"> <tr> <td>準備書</td> <td colspan="3"> <b>表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)</b> </td> </tr> <tr> <td>鳥類</td> <td>アカハラ (スズメ目 ツグミ科)</td> <td>本種は山地の明るい林、木がまばらに生えた環境に生息する。本州中部以西では冬鳥として渡来する。本州中部以北では夏鳥として渡来し、5 月中旬から 8 月に繁殖する。林縁や道路脇の落葉広葉樹、アカマツ、カラマツ、コメツガ、オオシラビン等の亜高山針葉樹の枝先、又は幹に近い枝上に巣をつくる。昆虫類やミミズ、木の実を捕食する。</td> <td>干拓地周辺で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種は干拓地及びその周辺を主な生息地としていないと推定される。</td> </tr> <tr> <td>評価書 (p. 295)</td> <td colspan="3"> <b>表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)</b> </td> </tr> <tr> <td>分類群</td> <td>種名</td> <td>種の分布・特性<sup>2)</sup></td> <td>確認状況<sup>2)</sup></td> </tr> <tr> <td>鳥類</td> <td>アカハラ (スズメ目 ツグミ科)</td> <td>本種は山地の明るい林、木がまばらに生えた環境に生息する。本州中部以西では冬鳥として渡来する。本州中部以北では夏鳥として渡来し、5 月中旬から 8 月に繁殖する。<u>三重県には冬鳥として渡来する。</u>林縁や道路脇の落葉広葉樹、アカマツ、カラマツ、コメツガ、オオシラビン等の亜高山針葉樹の枝先、又は幹に近い枝上に巣をつくる。木の実、昆虫類やミミズを捕食する。</td> <td>春季に干拓地周辺で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種は干拓地及びその周辺を主な生息地としていないと推定される。</td> </tr> </table>	準備書	<b>表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)</b>			鳥類	アカハラ (スズメ目 ツグミ科)	本種は山地の明るい林、木がまばらに生えた環境に生息する。本州中部以西では冬鳥として渡来する。本州中部以北では夏鳥として渡来し、5 月中旬から 8 月に繁殖する。林縁や道路脇の落葉広葉樹、アカマツ、カラマツ、コメツガ、オオシラビン等の亜高山針葉樹の枝先、又は幹に近い枝上に巣をつくる。昆虫類やミミズ、木の実を捕食する。	干拓地周辺で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種は干拓地及びその周辺を主な生息地としていないと推定される。	評価書 (p. 295)	<b>表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)</b>			分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>	鳥類	アカハラ (スズメ目 ツグミ科)	本種は山地の明るい林、木がまばらに生えた環境に生息する。本州中部以西では冬鳥として渡来する。本州中部以北では夏鳥として渡来し、5 月中旬から 8 月に繁殖する。 <u>三重県には冬鳥として渡来する。</u> 林縁や道路脇の落葉広葉樹、アカマツ、カラマツ、コメツガ、オオシラビン等の亜高山針葉樹の枝先、又は幹に近い枝上に巣をつくる。木の実、昆虫類やミミズを捕食する。	春季に干拓地周辺で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種は干拓地及びその周辺を主な生息地としていないと推定される。
準備書	<b>表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (5/7)</b>																					
鳥類	アカハラ (スズメ目 ツグミ科)	本種は山地の明るい林、木がまばらに生えた環境に生息する。本州中部以西では冬鳥として渡来する。本州中部以北では夏鳥として渡来し、5 月中旬から 8 月に繁殖する。林縁や道路脇の落葉広葉樹、アカマツ、カラマツ、コメツガ、オオシラビン等の亜高山針葉樹の枝先、又は幹に近い枝上に巣をつくる。昆虫類やミミズ、木の実を捕食する。	干拓地周辺で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種は干拓地及びその周辺を主な生息地としていないと推定される。																			
評価書 (p. 295)	<b>表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)</b>																					
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>2)</sup>	確認状況 <sup>2)</sup>																			
鳥類	アカハラ (スズメ目 ツグミ科)	本種は山地の明るい林、木がまばらに生えた環境に生息する。本州中部以西では冬鳥として渡来する。本州中部以北では夏鳥として渡来し、5 月中旬から 8 月に繁殖する。 <u>三重県には冬鳥として渡来する。</u> 林縁や道路脇の落葉広葉樹、アカマツ、カラマツ、コメツガ、オオシラビン等の亜高山針葉樹の枝先、又は幹に近い枝上に巣をつくる。木の実、昆虫類やミミズを捕食する。	春季に干拓地周辺で 1 個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種は干拓地及びその周辺を主な生息地としていないと推定される。																			

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (34)

頁	区分	変更の概要及び理由																								
273	改訂	<p>//</p> <p>準備書 p273 「6.1.7 重要な陸生動物 (1) 陸生動物の重要な種」の表を改訂 (下線: 改訂)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性</th> <th>確認状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>オオヨシキリ (スズメ目 ヒタキ科)</td> <td>本種はヨシ群落のある海岸、河口、河川敷、湖沼畔に生息する。夏鳥として北海道北・東部と沖縄を除く全国に渡来し、5月～8月に繁殖する。ヨシの茎にイネ科の葉や茎を用いて楕形の巣をつくる。昆虫類を捕食する。本種の生息環境及び確認状況から、本種の子な生息地は干拓地内及びその周辺のヨシ原であると推定される。</td> <td>事業実施区域を含む干拓地内及び干拓地の周辺のヨシ原でさえずりが多数確認されたほか、営巣も確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の子な生息地は干拓地内及びその周辺のヨシ原であると推定される。</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価書 (p. 295)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>25</sup></th> <th>確認状況<sup>25</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>オオヨシキリ (スズメ目 ウグイス科)</td> <td>本種はヨシ群落のある海岸、河口、河川敷、湖沼畔に生息する。夏鳥として北海道北・東部と沖縄を除く全国に渡来し、5月～8月に繁殖する。<u>三重県には夏鳥として渡来する。</u>ヨシの茎にイネ科の葉や茎を用いて楕形の巣をつくる。昆虫類を捕食する。</td> <td><u>春季から秋季にかけて事業実施区域を含む干拓地内及び干拓地の周辺のヨシ原でさえずりが多数確認されたほか、営巣も確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の子な生息地は干拓地内全域に点在するヨシ原及び干拓地周辺のヨシ原であると推定されるが、干拓地内のヨシ原のほとんどは、生育密度が低く(約80本/㎡以下)、オオヨシキリが営巣可能と考えられるヨシ原はほとんど見られなかった。</u>以上のことから、干拓地内のオオヨシキリの生息個体数は比較的少ないと考えられる。</td> </tr> </tbody> </table>	表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)				分類群	種名	種の分布・特性	確認状況	鳥類	オオヨシキリ (スズメ目 ヒタキ科)	本種はヨシ群落のある海岸、河口、河川敷、湖沼畔に生息する。夏鳥として北海道北・東部と沖縄を除く全国に渡来し、5月～8月に繁殖する。ヨシの茎にイネ科の葉や茎を用いて楕形の巣をつくる。昆虫類を捕食する。本種の生息環境及び確認状況から、本種の子な生息地は干拓地内及びその周辺のヨシ原であると推定される。	事業実施区域を含む干拓地内及び干拓地の周辺のヨシ原でさえずりが多数確認されたほか、営巣も確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の子な生息地は干拓地内及びその周辺のヨシ原であると推定される。	表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)				分類群	種名	種の分布・特性 <sup>25</sup>	確認状況 <sup>25</sup>	鳥類	オオヨシキリ (スズメ目 ウグイス科)	本種はヨシ群落のある海岸、河口、河川敷、湖沼畔に生息する。夏鳥として北海道北・東部と沖縄を除く全国に渡来し、5月～8月に繁殖する。 <u>三重県には夏鳥として渡来する。</u> ヨシの茎にイネ科の葉や茎を用いて楕形の巣をつくる。昆虫類を捕食する。	<u>春季から秋季にかけて事業実施区域を含む干拓地内及び干拓地の周辺のヨシ原でさえずりが多数確認されたほか、営巣も確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の子な生息地は干拓地内全域に点在するヨシ原及び干拓地周辺のヨシ原であると推定されるが、干拓地内のヨシ原のほとんどは、生育密度が低く(約80本/㎡以下)、オオヨシキリが営巣可能と考えられるヨシ原はほとんど見られなかった。</u> 以上のことから、干拓地内のオオヨシキリの生息個体数は比較的少ないと考えられる。
表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)																										
分類群	種名	種の分布・特性	確認状況																							
鳥類	オオヨシキリ (スズメ目 ヒタキ科)	本種はヨシ群落のある海岸、河口、河川敷、湖沼畔に生息する。夏鳥として北海道北・東部と沖縄を除く全国に渡来し、5月～8月に繁殖する。ヨシの茎にイネ科の葉や茎を用いて楕形の巣をつくる。昆虫類を捕食する。本種の生息環境及び確認状況から、本種の子な生息地は干拓地内及びその周辺のヨシ原であると推定される。	事業実施区域を含む干拓地内及び干拓地の周辺のヨシ原でさえずりが多数確認されたほか、営巣も確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の子な生息地は干拓地内及びその周辺のヨシ原であると推定される。																							
表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)																										
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>25</sup>	確認状況 <sup>25</sup>																							
鳥類	オオヨシキリ (スズメ目 ウグイス科)	本種はヨシ群落のある海岸、河口、河川敷、湖沼畔に生息する。夏鳥として北海道北・東部と沖縄を除く全国に渡来し、5月～8月に繁殖する。 <u>三重県には夏鳥として渡来する。</u> ヨシの茎にイネ科の葉や茎を用いて楕形の巣をつくる。昆虫類を捕食する。	<u>春季から秋季にかけて事業実施区域を含む干拓地内及び干拓地の周辺のヨシ原でさえずりが多数確認されたほか、営巣も確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の子な生息地は干拓地内全域に点在するヨシ原及び干拓地周辺のヨシ原であると推定されるが、干拓地内のヨシ原のほとんどは、生育密度が低く(約80本/㎡以下)、オオヨシキリが営巣可能と考えられるヨシ原はほとんど見られなかった。</u> 以上のことから、干拓地内のオオヨシキリの生息個体数は比較的少ないと考えられる。																							
273	改訂	<p>//</p> <p>準備書 p273 「6.1.7 重要な陸生動物 (1) 陸生動物の重要な種」の表を改訂 (下線: 改訂)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性</th> <th>確認状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>コサメビタキ (スズメ目 ヒタキ科)</td> <td>本種は平地から標高1000mぐらいまでの落葉広葉樹林、雑木林、カラマツ林に生息する。夏鳥として北海道から九州までの各地に渡来し、5月～7月に繁殖する。高木の葉がない水平な枝の上に樹皮等で楕形の巣をつくる。蝶、蛾、ウンカ、アブ等の昆虫類を捕食する。</td> <td>干拓地周辺で1個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種は干拓地及びその周辺を主な生息地としていないと推定される。</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価書 (p. 295)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種名</th> <th>種の分布・特性<sup>25</sup></th> <th>確認状況<sup>25</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥類</td> <td>コサメビタキ (スズメ目 ヒタキ科)</td> <td>本種は平地から標高1000mぐらいまでの落葉広葉樹林、雑木林、カラマツ林に生息する。夏鳥として北海道から九州までの各地に渡来し、5月～7月に繁殖する。<u>三重県には夏鳥として渡来する。</u>高木の葉がない水平な枝の上に樹皮等で楕形の巣をつくる。蝶、蛾、ウンカ、アブ等の昆虫類を捕食する。</td> <td><u>秋季に干拓地周辺で1個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種は干拓地及びその周辺を主な生息地としていないと推定される。</u>なお、<u>三重県には夏鳥として渡来するとされているが、現地調査の結果に基づき調査地での渡り区分を旅鳥と判断した。</u></td> </tr> </tbody> </table>	表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)				分類群	種名	種の分布・特性	確認状況	鳥類	コサメビタキ (スズメ目 ヒタキ科)	本種は平地から標高1000mぐらいまでの落葉広葉樹林、雑木林、カラマツ林に生息する。夏鳥として北海道から九州までの各地に渡来し、5月～7月に繁殖する。高木の葉がない水平な枝の上に樹皮等で楕形の巣をつくる。蝶、蛾、ウンカ、アブ等の昆虫類を捕食する。	干拓地周辺で1個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種は干拓地及びその周辺を主な生息地としていないと推定される。	表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)				分類群	種名	種の分布・特性 <sup>25</sup>	確認状況 <sup>25</sup>	鳥類	コサメビタキ (スズメ目 ヒタキ科)	本種は平地から標高1000mぐらいまでの落葉広葉樹林、雑木林、カラマツ林に生息する。夏鳥として北海道から九州までの各地に渡来し、5月～7月に繁殖する。 <u>三重県には夏鳥として渡来する。</u> 高木の葉がない水平な枝の上に樹皮等で楕形の巣をつくる。蝶、蛾、ウンカ、アブ等の昆虫類を捕食する。	<u>秋季に干拓地周辺で1個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種は干拓地及びその周辺を主な生息地としていないと推定される。</u> なお、 <u>三重県には夏鳥として渡来するとされているが、現地調査の結果に基づき調査地での渡り区分を旅鳥と判断した。</u>
表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)																										
分類群	種名	種の分布・特性	確認状況																							
鳥類	コサメビタキ (スズメ目 ヒタキ科)	本種は平地から標高1000mぐらいまでの落葉広葉樹林、雑木林、カラマツ林に生息する。夏鳥として北海道から九州までの各地に渡来し、5月～7月に繁殖する。高木の葉がない水平な枝の上に樹皮等で楕形の巣をつくる。蝶、蛾、ウンカ、アブ等の昆虫類を捕食する。	干拓地周辺で1個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種は干拓地及びその周辺を主な生息地としていないと推定される。																							
表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)																										
分類群	種名	種の分布・特性 <sup>25</sup>	確認状況 <sup>25</sup>																							
鳥類	コサメビタキ (スズメ目 ヒタキ科)	本種は平地から標高1000mぐらいまでの落葉広葉樹林、雑木林、カラマツ林に生息する。夏鳥として北海道から九州までの各地に渡来し、5月～7月に繁殖する。 <u>三重県には夏鳥として渡来する。</u> 高木の葉がない水平な枝の上に樹皮等で楕形の巣をつくる。蝶、蛾、ウンカ、アブ等の昆虫類を捕食する。	<u>秋季に干拓地周辺で1個体が確認されたのみである。本種の生息環境及び確認状況から、本種は干拓地及びその周辺を主な生息地としていないと推定される。</u> なお、 <u>三重県には夏鳥として渡来するとされているが、現地調査の結果に基づき調査地での渡り区分を旅鳥と判断した。</u>																							

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (35)

頁	区 分	変更の概要及び理由																								
273	改 訂	<p>準備書 p273 「6.1.7 重要な陸生動物 (1) 陸生動物の重要な種」の表を改訂 (下線: 改訂)</p> <table border="1" data-bbox="399 280 1388 806"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種 名</th> <th>種の分布・特性<sup>※</sup></th> <th>確認状況<sup>※</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥 類</td> <td>ホオアカ (スズメ目 ホオジロ科)</td> <td>本種は低地、低山帯、亜高山帯の草原、あるいは草原状の場所に生息する。夏鳥として北海道、本州、四国、九州の各地に渡来し、5月～7月に繁殖する。また、本州の西南部以南では越冬するものがあり、九州南部では多数が越冬する。草むらの間や草株の上、藪の枝の上等に碗形の巣をつくる。植物の種子や昆虫類を捕食する。</td> <td>事業実施区域及び干拓地東側の鍋田干拓地で数個体が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地内の草地やその周辺の水田であると推定される。</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="399 571 1388 795"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種 名</th> <th>種の分布・特性<sup>※</sup></th> <th>確認状況<sup>※</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鳥 類</td> <td>ホオアカ (スズメ目 ホオジロ科)</td> <td>本種は低地、低山帯、亜高山帯の草原、あるいは草原状の場所に生息する。留鳥として北海道、本州、四国、九州の各地で5月～7月に繁殖する。また、本州の西南部以南では越冬するものがあり、九州南部では多数が越冬する。三重県では留鳥とされている。草むらの間や草株の上、藪の枝の上等に碗形の巣をつくる。植物の種子や昆虫類を捕食する。</td> <td>春季と冬季に事業実施区域及び干拓地東側の鍋田干拓地で数個体が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地内及びその周辺の草地であると推定される。 なお、三重県では留鳥とされているが、<u>現地調査の結果に基づき調査地での渡り区分を冬鳥と判断した。</u></td> </tr> </tbody> </table>	表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)				分類群	種 名	種の分布・特性 <sup>※</sup>	確認状況 <sup>※</sup>	鳥 類	ホオアカ (スズメ目 ホオジロ科)	本種は低地、低山帯、亜高山帯の草原、あるいは草原状の場所に生息する。夏鳥として北海道、本州、四国、九州の各地に渡来し、5月～7月に繁殖する。また、本州の西南部以南では越冬するものがあり、九州南部では多数が越冬する。草むらの間や草株の上、藪の枝の上等に碗形の巣をつくる。植物の種子や昆虫類を捕食する。	事業実施区域及び干拓地東側の鍋田干拓地で数個体が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地内の草地やその周辺の水田であると推定される。	表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)				分類群	種 名	種の分布・特性 <sup>※</sup>	確認状況 <sup>※</sup>	鳥 類	ホオアカ (スズメ目 ホオジロ科)	本種は低地、低山帯、亜高山帯の草原、あるいは草原状の場所に生息する。留鳥として北海道、本州、四国、九州の各地で5月～7月に繁殖する。また、本州の西南部以南では越冬するものがあり、九州南部では多数が越冬する。三重県では留鳥とされている。草むらの間や草株の上、藪の枝の上等に碗形の巣をつくる。植物の種子や昆虫類を捕食する。	春季と冬季に事業実施区域及び干拓地東側の鍋田干拓地で数個体が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地内及びその周辺の草地であると推定される。 なお、三重県では留鳥とされているが、 <u>現地調査の結果に基づき調査地での渡り区分を冬鳥と判断した。</u>
表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)																										
分類群	種 名	種の分布・特性 <sup>※</sup>	確認状況 <sup>※</sup>																							
鳥 類	ホオアカ (スズメ目 ホオジロ科)	本種は低地、低山帯、亜高山帯の草原、あるいは草原状の場所に生息する。夏鳥として北海道、本州、四国、九州の各地に渡来し、5月～7月に繁殖する。また、本州の西南部以南では越冬するものがあり、九州南部では多数が越冬する。草むらの間や草株の上、藪の枝の上等に碗形の巣をつくる。植物の種子や昆虫類を捕食する。	事業実施区域及び干拓地東側の鍋田干拓地で数個体が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地内の草地やその周辺の水田であると推定される。																							
表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (6/7)																										
分類群	種 名	種の分布・特性 <sup>※</sup>	確認状況 <sup>※</sup>																							
鳥 類	ホオアカ (スズメ目 ホオジロ科)	本種は低地、低山帯、亜高山帯の草原、あるいは草原状の場所に生息する。留鳥として北海道、本州、四国、九州の各地で5月～7月に繁殖する。また、本州の西南部以南では越冬するものがあり、九州南部では多数が越冬する。三重県では留鳥とされている。草むらの間や草株の上、藪の枝の上等に碗形の巣をつくる。植物の種子や昆虫類を捕食する。	春季と冬季に事業実施区域及び干拓地東側の鍋田干拓地で数個体が確認された。本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は、干拓地内及びその周辺の草地であると推定される。 なお、三重県では留鳥とされているが、 <u>現地調査の結果に基づき調査地での渡り区分を冬鳥と判断した。</u>																							
274	改 訂	<p>昆虫類に関し、確認状況の記述に誤りがあったため、以下のとおり表を改訂した。</p> <p>準備書 p274 「6.1.7 重要な陸生動物 (1) 陸生動物の重要な種」の表を改訂 (下線: 改訂)</p> <table border="1" data-bbox="399 862 1388 1478"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (7/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種 名</th> <th>種の分布・特性</th> <th>確認状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>昆虫類</td> <td>コオイムシ (カメムシ目 コオイムシ科)</td> <td>本種は本州、四国、九州に分布する。おもに水田や池沼の静水に生息する。和名のコオイムシ (子負い虫) は5～6月頃、♀が卵の背の上に卵を並べて産みつける習性があることに由来する。成虫で越冬する。オタマジャクシや小型の水生昆虫等を捕食する。</td> <td>事業実施区域内の水溜り1地点、事業実施区域外の小さな水路内の溜まりで成虫1個体が確認された。調査の結果、干拓地における本種の生息地は、局所的であり、成虫が確認された干拓地の水路6地点及び小さな水溜り1地点の計6箇所であると推定される。</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="399 1232 1388 1467"> <thead> <tr> <th colspan="4">表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (7/7)</th> </tr> <tr> <th>分類群</th> <th>種 名</th> <th>種の分布特性<sup>※</sup></th> <th>確認状況<sup>※</sup></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>昆虫類</td> <td>コオイムシ (カメムシ目 コオイムシ科)</td> <td>本種は本州、四国、九州に分布する。主に水田や池沼の静水に生息する。和名のコオイムシ (子負い虫) は5～6月頃、雌が雄の背の上に卵を並べて産みつける習性があることに由来する。成虫で越冬する。オタマジャクシや小型の水生昆虫等を捕食する。</td> <td>事業実施区域内の水溜り1地点で成虫1個体、事業実施区域外の小さな水路内の溜まり6地点で成虫6個体が確認された。調査の結果、干拓地における本種の分布は、局所的である。生息地は成虫が確認された事業実施区域内の水溜り及び事業実施区域外の水路であると推定される。</td> </tr> </tbody> </table>	表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (7/7)				分類群	種 名	種の分布・特性	確認状況	昆虫類	コオイムシ (カメムシ目 コオイムシ科)	本種は本州、四国、九州に分布する。おもに水田や池沼の静水に生息する。和名のコオイムシ (子負い虫) は5～6月頃、♀が卵の背の上に卵を並べて産みつける習性があることに由来する。成虫で越冬する。オタマジャクシや小型の水生昆虫等を捕食する。	事業実施区域内の水溜り1地点、事業実施区域外の小さな水路内の溜まりで成虫1個体が確認された。調査の結果、干拓地における本種の生息地は、局所的であり、成虫が確認された干拓地の水路6地点及び小さな水溜り1地点の計6箇所であると推定される。	表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (7/7)				分類群	種 名	種の分布特性 <sup>※</sup>	確認状況 <sup>※</sup>	昆虫類	コオイムシ (カメムシ目 コオイムシ科)	本種は本州、四国、九州に分布する。主に水田や池沼の静水に生息する。和名のコオイムシ (子負い虫) は5～6月頃、雌が雄の背の上に卵を並べて産みつける習性があることに由来する。成虫で越冬する。オタマジャクシや小型の水生昆虫等を捕食する。	事業実施区域内の水溜り1地点で成虫1個体、事業実施区域外の小さな水路内の溜まり6地点で成虫6個体が確認された。調査の結果、干拓地における本種の分布は、局所的である。生息地は成虫が確認された事業実施区域内の水溜り及び事業実施区域外の水路であると推定される。
表 8.6.1-22 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (7/7)																										
分類群	種 名	種の分布・特性	確認状況																							
昆虫類	コオイムシ (カメムシ目 コオイムシ科)	本種は本州、四国、九州に分布する。おもに水田や池沼の静水に生息する。和名のコオイムシ (子負い虫) は5～6月頃、♀が卵の背の上に卵を並べて産みつける習性があることに由来する。成虫で越冬する。オタマジャクシや小型の水生昆虫等を捕食する。	事業実施区域内の水溜り1地点、事業実施区域外の小さな水路内の溜まりで成虫1個体が確認された。調査の結果、干拓地における本種の生息地は、局所的であり、成虫が確認された干拓地の水路6地点及び小さな水溜り1地点の計6箇所であると推定される。																							
表 8.6.1-26 重要な陸生動物の特性及び確認状況 (7/7)																										
分類群	種 名	種の分布特性 <sup>※</sup>	確認状況 <sup>※</sup>																							
昆虫類	コオイムシ (カメムシ目 コオイムシ科)	本種は本州、四国、九州に分布する。主に水田や池沼の静水に生息する。和名のコオイムシ (子負い虫) は5～6月頃、雌が雄の背の上に卵を並べて産みつける習性があることに由来する。成虫で越冬する。オタマジャクシや小型の水生昆虫等を捕食する。	事業実施区域内の水溜り1地点で成虫1個体、事業実施区域外の小さな水路内の溜まり6地点で成虫6個体が確認された。調査の結果、干拓地における本種の分布は、局所的である。生息地は成虫が確認された事業実施区域内の水溜り及び事業実施区域外の水路であると推定される。																							
-	追 記	<p>鳥類の渡り区分の見直しに伴い、その説明の文章として、以下を表の欄外に追記した。</p> <p>また、オオジシギの確認状況の修正に伴い、「準備書についての意見の概要及び事業者見解」との不整合が生じたことから、そのことについて文章を追記した。</p> <p>「6.1.7 重要な陸生動物 (1) 陸生動物の重要な種」に文章を追記 (評価書 p.297)</p> <p>*1) 鳥類の種の分布・特性に記載した三重県の渡り区分は、「三重県立博物館、1979. 三重県立博物館研究報告 自然科学第1号 2. 三重県の鳥類相」に準じた。なお、三重県の渡り区分の記載がない種は、準じた文献に記載されていない種である。</p> <p>*2) 鳥類の確認状況に記載した渡り区分は、現地調査結果に基づき判断し、木曾岬干拓地及びその周辺における渡り区分とした。(ここで言う「周辺」とは、鳥類相の調査範囲である、鍋田干拓地、源緑輪中、木曾川河口等に加え、弥富野鳥園を含む範囲とした)。各渡り区分の説明は以下の通り</p> <p>留鳥：現地調査結果から、木曾岬干拓地及びその周辺に一年中生息し、繁殖していると考えられた種  (留鳥)：ほぼ年間を通して確認されているが、木曾岬干拓地及びその周辺では繁殖していないと考えられた種  留鳥(稀)：周辺地域に留鳥として生息し、木曾岬干拓地及びその周辺に稀に飛来してくると考えられた種  夏鳥：春に越冬地から渡来し、木曾岬干拓地及びその周辺で繁殖していると考えられた種  (夏鳥)：周辺地域に夏鳥として渡来し繁殖するが、木曾岬干拓地及びその周辺では繁殖していないと考えられた種  冬鳥：秋に繁殖地から渡来し、木曾岬干拓地及びその周辺で越冬していると考えられた種  冬鳥(稀)：周辺地域に冬鳥として渡来し、木曾岬干拓地及びその周辺に稀に飛来してくると考えられた種  旅鳥：繁殖地と越冬地を往復する渡り途中の春秋だけに、木曾岬干拓地及びその周辺に出現した種  迷鳥：本来の生息地や渡りのコースから外れて、木曾岬干拓地及びその周辺に偶発的に出現したと考えられた種</p> <p>*3) オオジシギは「準備書についての意見の概要及び事業者見解」で、干潟で観察された旨記載したが、再精査した結果、干潟で確認したことは誤りであることが分かったため、確認状況の記載から「干拓地周辺の干潟」を削除した。</p>																								



表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (36)

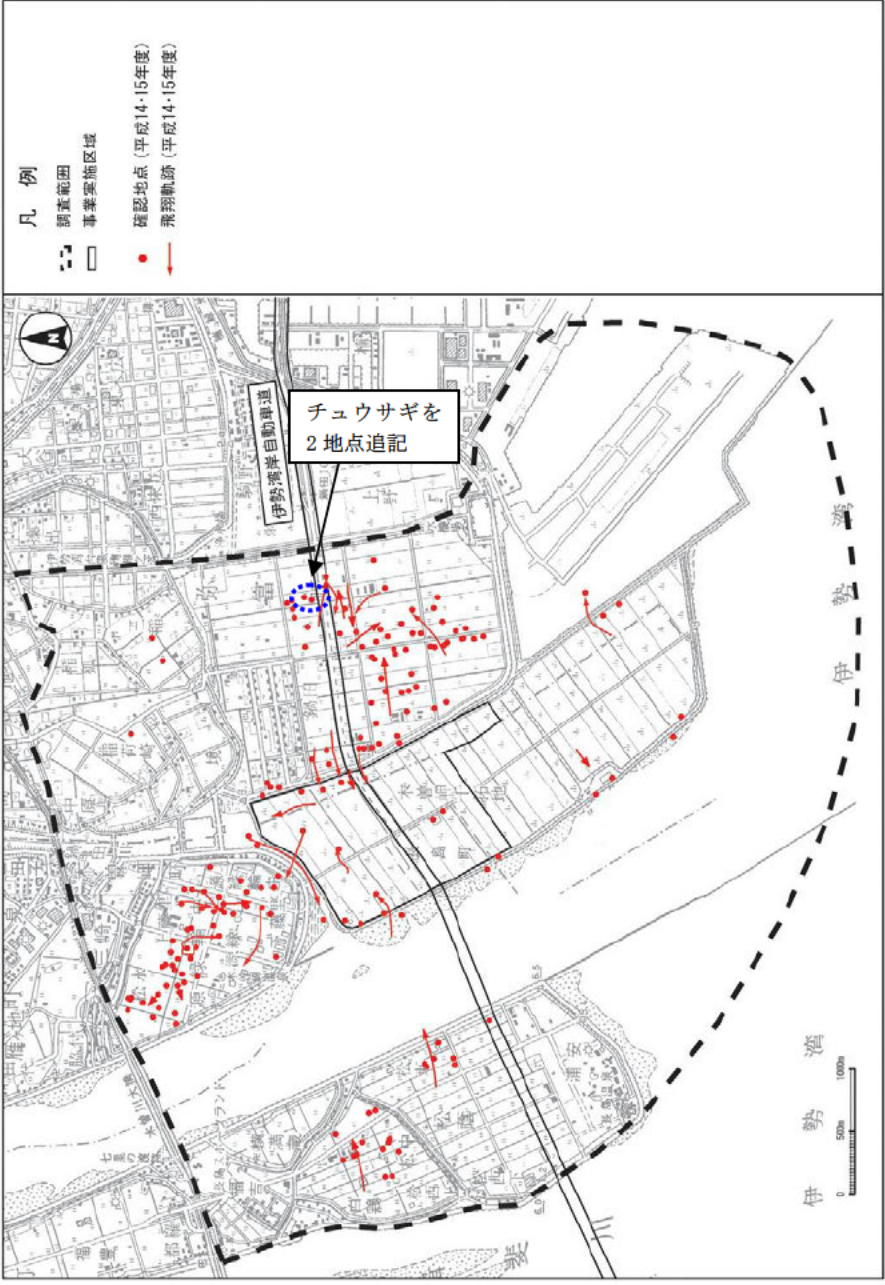
頁	区分	変更の概要及び理由
276	改訂	<p>重要な種について、確認位置に誤りがあったため、以下のとおり図を改訂した(「6.2.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用 (5) 予測結果」でも同様の修正を行った)。</p> <p>準備書 p. 276 「6.1.7 重要な陸生動物 (5) 陸生動物の重要な種」の図を改訂 (追記)</p> <p>評価書 p. 299</p>  <p>凡例          調査範囲          事業実施区域          確認地点 (平成14・15年度)          飛翔軌跡 (平成14・15年度)</p> <p>伊勢湾岸自動車道</p> <p>チュウサギを 2地点追記</p> <p>伊勢湾</p> <p>0 500m 1000m</p>

図 8.6.1-22(2) 陸生動物の重要な種確認状況 (鳥類：チュウサギ)

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要(37)

頁	区分	変更の概要及び理由				
277	改訂	<p>重要な種について、種名の記述に誤りがあったため、以下のとおり図題を改訂した。</p> <table border="1" data-bbox="395 280 1390 414"> <tr> <td data-bbox="395 280 550 342">準備書</td> <td data-bbox="550 280 1390 342">図 8. 6. 1-15 (3) 陸生動物の重要な種確認状況 (鳥類: カワイアイサ、ウズラ、クイナ、ヒクイナ)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="395 342 550 414">評価書 (p. 300)</td> <td data-bbox="550 342 1390 414">図 8. 6. 1-22 (3) 陸生動物の重要な種確認状況 (鳥類: カワイアイサ、ウズラ、クイナ、ヒクイナ)</td> </tr> </table>	準備書	図 8. 6. 1-15 (3) 陸生動物の重要な種確認状況 (鳥類: カワイアイサ、ウズラ、クイナ、ヒクイナ)	評価書 (p. 300)	図 8. 6. 1-22 (3) 陸生動物の重要な種確認状況 (鳥類: カワイアイサ、ウズラ、クイナ、ヒクイナ)
準備書	図 8. 6. 1-15 (3) 陸生動物の重要な種確認状況 (鳥類: カワイアイサ、ウズラ、クイナ、ヒクイナ)					
評価書 (p. 300)	図 8. 6. 1-22 (3) 陸生動物の重要な種確認状況 (鳥類: カワイアイサ、ウズラ、クイナ、ヒクイナ)					
278	改訂	<p>鳥類に関し、重要な種に選定漏れがあった。また、重要な種について、確認位置に誤りがあった。これにより、以下のとおり図を改訂した(「6. 2. 1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用 (5) 予測結果」でも同様の修正を行った)。</p> <p>準備書 p. 278 「6. 1. 7 重要な陸生動物 (5) 陸生動物の重要な種」の図を改訂 (<span style="color: blue;">●</span>: 追記、<span style="color: red;">●</span>: 削除)</p> <p>評価書 p. 301</p> <div data-bbox="399 616 1380 1937"> </div> <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; right: 0; bottom: 0;">図 8. 6. 1-22 (4) 陸生動物の重要な種確認状況 (鳥類: タマシギ、イカルチドリ、シロチドリ、オグロシギ)</p>				

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (38)

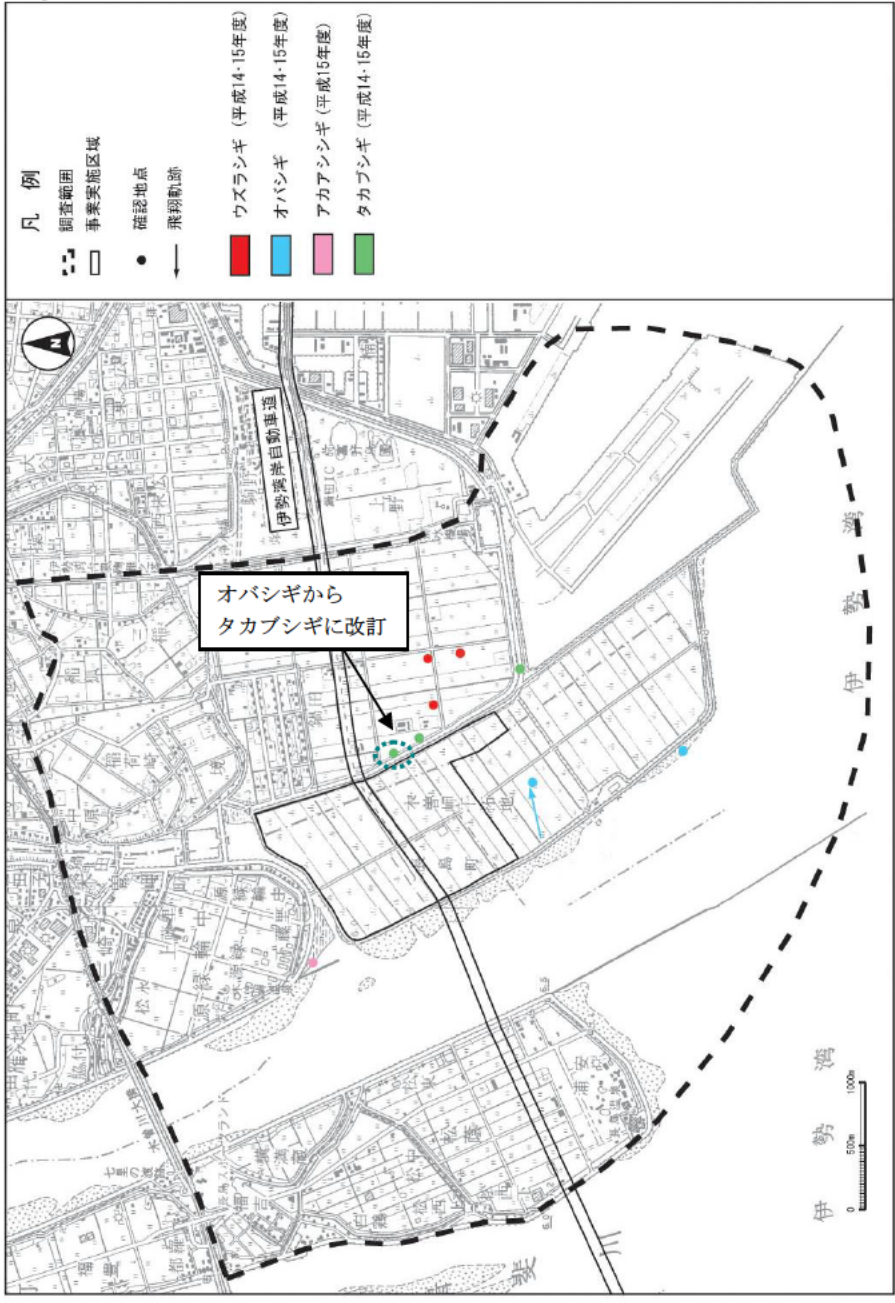
頁	区分	変更の概要及び理由
279	改訂	<p>重要な種について、確認位置に誤りがあったため、以下のとおり図を改訂した(「6.2.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用 (5) 予測結果」でも同様の修正を行った)。</p> <p>準備書 p. 279 「6.1.7 重要な陸生動物 (5) 陸生動物の重要な種」の図を改訂 (●: 改訂)</p> <p>評価書 p. 302</p>  <p>図 8.6.1-22 (5) 陸生動物の重要な種確認状況 (鳥類: ウズラシギ、オバシギ、アカアシシギ、タカブシギ)</p>

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (39)

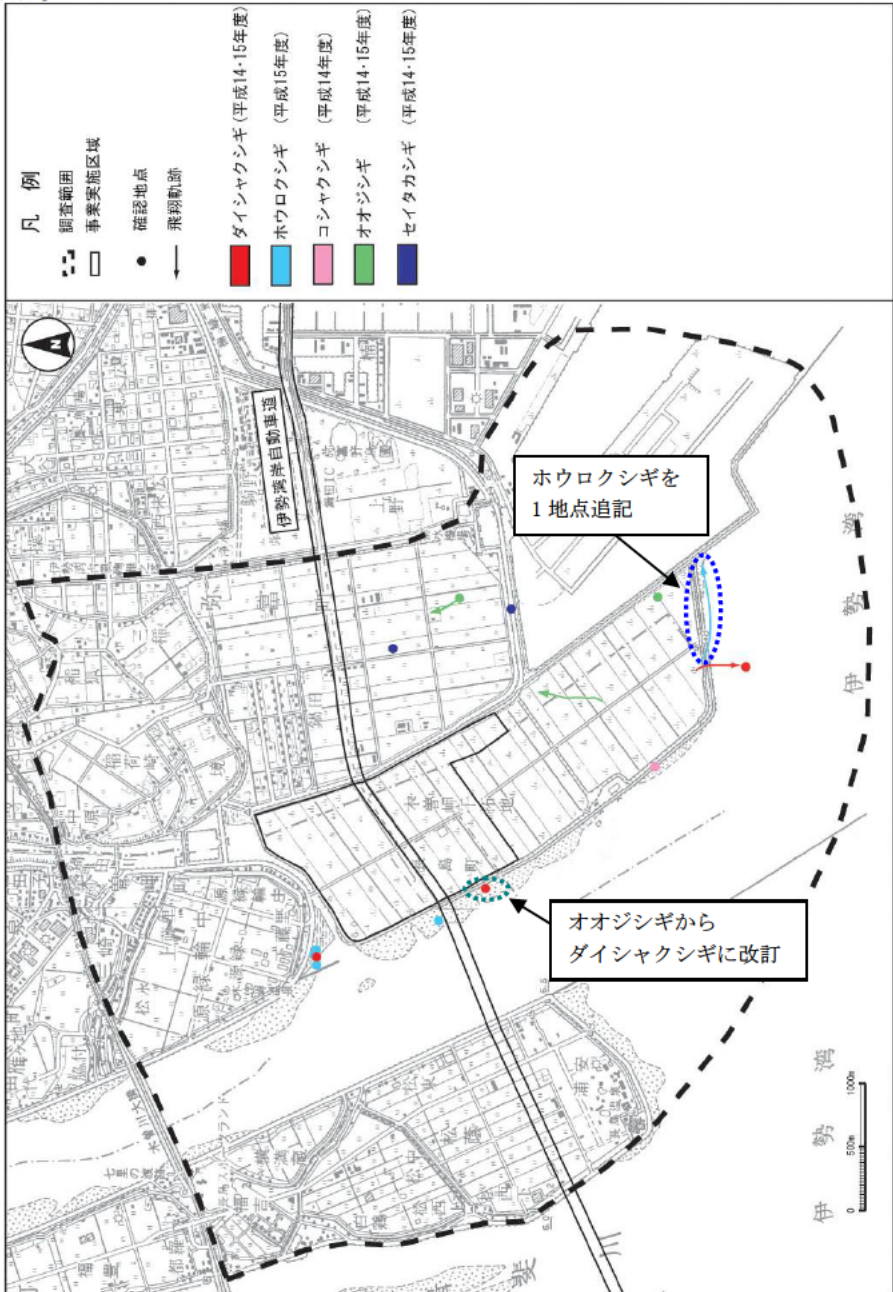
頁	区分	変更の概要及び理由
280	改訂	<p>重要な種について、確認位置に誤りがあったため、以下のとおり図を改訂した(「6.2.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用 (5) 予測結果」でも同様の修正を行った)。</p> <p>準備書 p. 280 「6.1.7 重要な陸生動物 (5) 陸生動物の重要な種」の図を改訂  <span style="color: blue;">(●)</span>: 追記、<span style="color: green;">(●)</span>: 改訂)</p> <p>評価書 p. 303</p>  <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査範囲</li> <li>事業実施区域</li> <li>確認地点</li> <li>飛翔軌跡</li> <li>ダイシャクシギ (平成14・15年度)</li> <li>ホウロクシギ (平成15年度)</li> <li>コシャクシギ (平成14年度)</li> <li>オオジシギ (平成14・15年度)</li> <li>セイタカシギ (平成14・15年度)</li> </ul> <p>伊勢湾自動車道</p> <p>伊勢湾</p> <p>0 500m 1000m</p> <p>図 8.6.1-22 (6) 陸生動物の重要な種確認状況 (鳥類: ダイシャクシギ、ホウロクシギ、コシャクシギ、オオジシギ、セイタカシギ)</p>

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要(40)

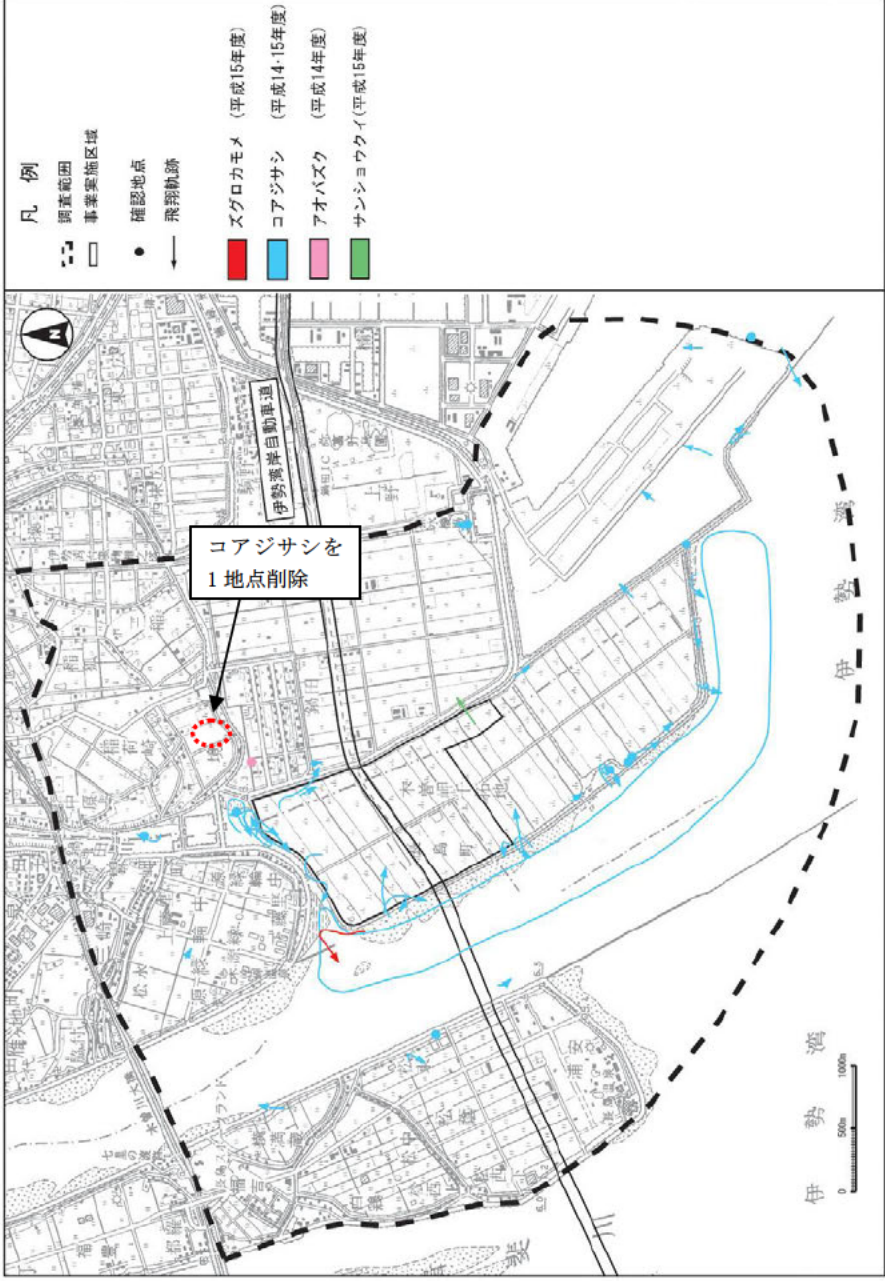
頁	区分	変更の概要及び理由
281	改訂	<p>重要な種について、確認位置に誤りがあったため、以下のとおり図を改訂した(「6.2.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用 (5) 予測結果」でも同様の修正を行った)。</p> <p>準備書 p. 281 「6.1.7 重要な陸生動物(5) 陸生動物の重要な種」の図を改訂 (●: 削除)</p> <p>評価書 p. 304</p>  <p>図 8.6.1-22(7) 陸生動物の重要な種確認状況 (鳥類: ズグロカカモメ、コアジサシ、アオバズク、サンショウウクイ)</p>

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要(41)

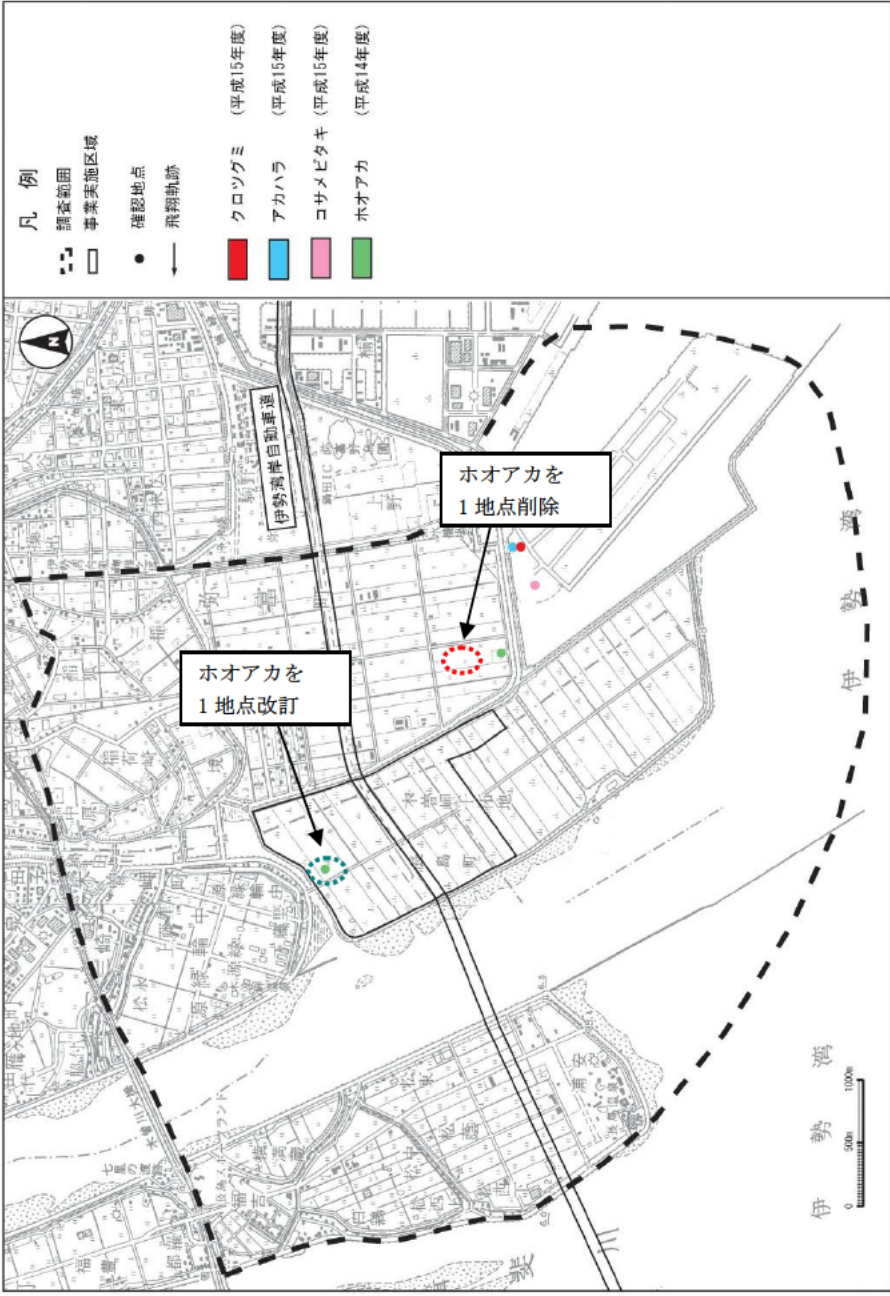
頁	区分	変更の概要及び理由
282	改訂	<p>重要な種について、確認位置に誤りがあったため、以下のとおり図を改訂した(「6.2.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用 (5) 予測結果」でも同様の修正を行った)。</p> <p>準備書 p. 282 「6.1.7 重要な陸生動物(5) 陸生動物の重要な種」の図を改訂  <span style="color: green;">●</span> : 改訂、<span style="color: red;">●</span> : 削除</p> <p>評価書 p. 305</p> 

図 8.6.1-22(8) 陸生動物の重要な種確認状況 (鳥類：クロツグミ、アカハラ、コサメビタキ、ホオアカ)

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (42)

頁	区 分	変更の概要及び理由				
285	改 訂	<p>干拓地は、特に冬季における利用個体数が増加する猛禽類のねぐらとして重要な機能を有していると考えられたことから、これを注目すべき生息地として位置づけることとし、以下のとおり文章を改訂した。</p> <p>準備書 p. 285 「6. 1. 8 注目すべき生息地」の文章を改訂（下線：改訂）</p> <table border="1" data-bbox="400 360 1385 853"> <tr> <td data-bbox="400 360 528 506">準備書</td> <td data-bbox="528 360 1385 506"> <p><b>6. 1. 8 注目すべき生息地</b>                      (中略)、対象事業実施区域及びその周辺に注目すべき生息地に該当する区域等は指定されていない。以上より、学術上若しくは希少性の観点から重要である生息地は確認されなかった。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="400 506 528 853">評価書 (p. 308)</td> <td data-bbox="528 506 1385 853"> <p><b>6. 1. 8 注目すべき生息地</b>                      (中略)、対象事業実施区域及びその周辺に注目すべき生息地に該当する区域等は指定されていない。  <u>しかし、猛禽類(ねぐら)調査において7種の猛禽類が木曾岬干拓地内をねぐらとして利用していることが確認されている。特に11月以降の冬季には、ハイイロチュウヒ、チュウヒ、コチョウゲンボウの当該干拓地におけるねぐら利用個体数が増加し、ハイイロチュウヒ、チュウヒは主に干拓地南側の草地を、コチョウゲンボウは主に干拓地北側の電柱等をねぐら利用していることが確認された。これら3種にとって当該干拓地はねぐらとして重要な機能を有しているものと考えられる。以上より、学術上若しくは希少性の観点からハイイロチュウヒ、チュウヒ、コチョウゲンボウのねぐらを注目すべき生息地として選定した。</u></p> </td> </tr> </table>	準備書	<p><b>6. 1. 8 注目すべき生息地</b>                      (中略)、対象事業実施区域及びその周辺に注目すべき生息地に該当する区域等は指定されていない。以上より、学術上若しくは希少性の観点から重要である生息地は確認されなかった。</p>	評価書 (p. 308)	<p><b>6. 1. 8 注目すべき生息地</b>                      (中略)、対象事業実施区域及びその周辺に注目すべき生息地に該当する区域等は指定されていない。  <u>しかし、猛禽類(ねぐら)調査において7種の猛禽類が木曾岬干拓地内をねぐらとして利用していることが確認されている。特に11月以降の冬季には、ハイイロチュウヒ、チュウヒ、コチョウゲンボウの当該干拓地におけるねぐら利用個体数が増加し、ハイイロチュウヒ、チュウヒは主に干拓地南側の草地を、コチョウゲンボウは主に干拓地北側の電柱等をねぐら利用していることが確認された。これら3種にとって当該干拓地はねぐらとして重要な機能を有しているものと考えられる。以上より、学術上若しくは希少性の観点からハイイロチュウヒ、チュウヒ、コチョウゲンボウのねぐらを注目すべき生息地として選定した。</u></p>
準備書	<p><b>6. 1. 8 注目すべき生息地</b>                      (中略)、対象事業実施区域及びその周辺に注目すべき生息地に該当する区域等は指定されていない。以上より、学術上若しくは希少性の観点から重要である生息地は確認されなかった。</p>					
評価書 (p. 308)	<p><b>6. 1. 8 注目すべき生息地</b>                      (中略)、対象事業実施区域及びその周辺に注目すべき生息地に該当する区域等は指定されていない。  <u>しかし、猛禽類(ねぐら)調査において7種の猛禽類が木曾岬干拓地内をねぐらとして利用していることが確認されている。特に11月以降の冬季には、ハイイロチュウヒ、チュウヒ、コチョウゲンボウの当該干拓地におけるねぐら利用個体数が増加し、ハイイロチュウヒ、チュウヒは主に干拓地南側の草地を、コチョウゲンボウは主に干拓地北側の電柱等をねぐら利用していることが確認された。これら3種にとって当該干拓地はねぐらとして重要な機能を有しているものと考えられる。以上より、学術上若しくは希少性の観点からハイイロチュウヒ、チュウヒ、コチョウゲンボウのねぐらを注目すべき生息地として選定した。</u></p>					
286	改 訂	<p>ごくまれに少数個体を散発的に確認したのみであるカワアイサ、サシバを予測対象とする重要な種から除外した。また、予測項目に「注目すべき生息地」を追加した。これにより、以下のとおり文章を改訂した。</p> <p>準備書 p. 286 「6. 2. 1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用(1)予測項目」の文章を改訂（下線：改訂）</p> <table border="1" data-bbox="400 965 1385 1861"> <tr> <td data-bbox="400 965 528 1413">準備書</td> <td data-bbox="528 965 1385 1413"> <p><b>(1) 予測項目</b>                      1) 陸生動物相及びそれらの生息環境                      2) 重要な種</p> <p>予測項目は上記の2項目とし、予測対象とする陸生動物及び影響要因は表 8. 6. 2-1 に示すとおりとした。なお、重要な種のうち、ごくまれに少数の個体を散発的に確認したのみであり、調査範囲は主要な生息地ではないと判断したハチクマ、ハイタカ、サンショウクイ、クロツグミ、アカハラ、コサメビタキは予測対象とする重要な種から除いた。</p> <p>また、調査の結果、注目すべき生息地は確認されなかったことから、注目すべき生息地は予測対象としなかった。</p> <p>直接改変以外の影響要因である「工事の実施」に伴い発生する水の濁り等及び「土地又は工作物の存在及び供用」による排水等による水質の変化に伴う生息環境の変化による影響予測は、「生活史の全て又は一部を水域に依存して生息する種」を対象とした。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="400 1413 528 1861">評価書 (p. 309)</td> <td data-bbox="528 1413 1385 1861"> <p><b>(1) 予測項目</b>                      予測項目は以下の3項目とし、予測対象とする陸生動物及び影響要因は表 8. 6. 2-1 に示すとおりとした。なお、<u>重要な種のうち、カワアイサ、ハチクマ、ハイタカ、サシバ、サンショウクイ、クロツグミ、アカハラ、コサメビタキについては、ごくまれに少数の個体を散発的に確認したのみであり、調査範囲が主要な生息地ではないと判断されるため、予測対象とする重要な種から除外した。</u></p> <p>直接改変以外の影響要因である「工事の実施」に伴い発生する水の濁り等及び「土地又は工作物の存在及び供用」による排水等による水質の変化に伴う生息環境の変化による影響予測は、「生活史の全て又は一部を水域に依存して生息する種」を対象とした。</p> <p>1) 陸生動物相及びそれらの生息環境                      2) 重要な種                      3) <u>注目すべき生息地</u></p> </td> </tr> </table>	準備書	<p><b>(1) 予測項目</b>                      1) 陸生動物相及びそれらの生息環境                      2) 重要な種</p> <p>予測項目は上記の2項目とし、予測対象とする陸生動物及び影響要因は表 8. 6. 2-1 に示すとおりとした。なお、重要な種のうち、ごくまれに少数の個体を散発的に確認したのみであり、調査範囲は主要な生息地ではないと判断したハチクマ、ハイタカ、サンショウクイ、クロツグミ、アカハラ、コサメビタキは予測対象とする重要な種から除いた。</p> <p>また、調査の結果、注目すべき生息地は確認されなかったことから、注目すべき生息地は予測対象としなかった。</p> <p>直接改変以外の影響要因である「工事の実施」に伴い発生する水の濁り等及び「土地又は工作物の存在及び供用」による排水等による水質の変化に伴う生息環境の変化による影響予測は、「生活史の全て又は一部を水域に依存して生息する種」を対象とした。</p>	評価書 (p. 309)	<p><b>(1) 予測項目</b>                      予測項目は以下の3項目とし、予測対象とする陸生動物及び影響要因は表 8. 6. 2-1 に示すとおりとした。なお、<u>重要な種のうち、カワアイサ、ハチクマ、ハイタカ、サシバ、サンショウクイ、クロツグミ、アカハラ、コサメビタキについては、ごくまれに少数の個体を散発的に確認したのみであり、調査範囲が主要な生息地ではないと判断されるため、予測対象とする重要な種から除外した。</u></p> <p>直接改変以外の影響要因である「工事の実施」に伴い発生する水の濁り等及び「土地又は工作物の存在及び供用」による排水等による水質の変化に伴う生息環境の変化による影響予測は、「生活史の全て又は一部を水域に依存して生息する種」を対象とした。</p> <p>1) 陸生動物相及びそれらの生息環境                      2) 重要な種                      3) <u>注目すべき生息地</u></p>
準備書	<p><b>(1) 予測項目</b>                      1) 陸生動物相及びそれらの生息環境                      2) 重要な種</p> <p>予測項目は上記の2項目とし、予測対象とする陸生動物及び影響要因は表 8. 6. 2-1 に示すとおりとした。なお、重要な種のうち、ごくまれに少数の個体を散発的に確認したのみであり、調査範囲は主要な生息地ではないと判断したハチクマ、ハイタカ、サンショウクイ、クロツグミ、アカハラ、コサメビタキは予測対象とする重要な種から除いた。</p> <p>また、調査の結果、注目すべき生息地は確認されなかったことから、注目すべき生息地は予測対象としなかった。</p> <p>直接改変以外の影響要因である「工事の実施」に伴い発生する水の濁り等及び「土地又は工作物の存在及び供用」による排水等による水質の変化に伴う生息環境の変化による影響予測は、「生活史の全て又は一部を水域に依存して生息する種」を対象とした。</p>					
評価書 (p. 309)	<p><b>(1) 予測項目</b>                      予測項目は以下の3項目とし、予測対象とする陸生動物及び影響要因は表 8. 6. 2-1 に示すとおりとした。なお、<u>重要な種のうち、カワアイサ、ハチクマ、ハイタカ、サシバ、サンショウクイ、クロツグミ、アカハラ、コサメビタキについては、ごくまれに少数の個体を散発的に確認したのみであり、調査範囲が主要な生息地ではないと判断されるため、予測対象とする重要な種から除外した。</u></p> <p>直接改変以外の影響要因である「工事の実施」に伴い発生する水の濁り等及び「土地又は工作物の存在及び供用」による排水等による水質の変化に伴う生息環境の変化による影響予測は、「生活史の全て又は一部を水域に依存して生息する種」を対象とした。</p> <p>1) 陸生動物相及びそれらの生息環境                      2) 重要な種                      3) <u>注目すべき生息地</u></p>					

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要(43)

頁	区分	変更の概要及び理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
287	改訂	<p>ごくまれに少数個体を散発的に確認したのみであるカワアイサを予測対象とする重要な種から除外した。また、鳥類に関し、重要な種の選定漏れがあったため、この種を予測対象とする重要な種に追加した。さらに、注目すべき生息地(ねぐら)を新たな予測項目に追加し、ハイロチュウヒ、チュウヒ及びコチョウゲンボウのねぐらを予測対象とする注目すべき生息地として追加した。このため、以下のとおり表を改訂した。</p> <p>準備書 p. 287 「6. 2. 1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用(1) 予測項目」の表を改訂(下線: 追記、取消線: 削除)</p> <p>評価書 p. 310</p> <p style="text-align: center;">表 8. 6. 2-1 予測対象とする陸生動物及び影響要因</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3">影響要因</th> <th colspan="3">工事の実施</th> <th colspan="3">土地又は工作物の存在及び供用</th> </tr> <tr> <th colspan="3">                     ・重機の稼働                      ・樹木の伐採、処理                      ・工作物の建設                      ・工事用道路等の建設                 </th> <th colspan="3">                     ・資材の運搬                      ・土地の造成                      ・工作物の供用、稼働                      ・発生車両の走行                 </th> </tr> <tr> <th>直接改変</th> <th>直接改変以外</th> <th>直接改変以外</th> <th>直接改変</th> <th>直接改変以外</th> <th>直接改変以外</th> </tr> <tr> <th>予測対象</th> <th>生息地の消失又は改変</th> <th>水の濁り等による生息環境の変化</th> <th>人や車両等の立ち入りによる生息環境の変化</th> <th>生息地の消失又は改変</th> <th>排水等による水質変化に伴う生息環境の変化</th> <th>人や車両等の立ち入りによる生息環境の変化</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">陸生動物</td> <td>哺乳類</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>鳥類</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>爬虫類</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>両生類</td> <td>●</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>昆虫類</td> <td>●</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>クモ類</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="33">重要な種</td> <td>土壌動物</td> <td>●</td> <td></td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>カヤネズミ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>チュウサギ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>カワアイサ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>ミサゴ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>オオタカ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>ハイロチュウヒ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>チュウヒ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>ハヤブサ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>ウズラ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>クイナ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>ヒクイナ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>タマシギ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>イカルチドリ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>シロチドリ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>オジロトウネン</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>ウズラシギ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>オバシギ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>アカアシシギ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>タカブシギ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>オグロシギ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>ダイシャクシギ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>ホウロクシギ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>コシャクシギ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>オオジシギ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>セイタカシギ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>ズグロカモメ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>コアジサシ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>アオバズク</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>オオヨシキリ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>ホオアカ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>ネアカヨシヤンマ</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>アオヤンマ</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>コオイムシ</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>ヤマトモンシダムシ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>オオツノハネカクシ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コガネグモ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">注目すべき生息地(ねぐら)</td> <td>ハイロチュウヒ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>チュウヒ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>コチョウゲンボウ</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> </tr> </tbody> </table>	影響要因	工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用			・重機の稼働 ・樹木の伐採、処理 ・工作物の建設 ・工事用道路等の建設			・資材の運搬 ・土地の造成 ・工作物の供用、稼働 ・発生車両の走行			直接改変	直接改変以外	直接改変以外	直接改変	直接改変以外	直接改変以外	予測対象	生息地の消失又は改変	水の濁り等による生息環境の変化	人や車両等の立ち入りによる生息環境の変化	生息地の消失又は改変	排水等による水質変化に伴う生息環境の変化	人や車両等の立ち入りによる生息環境の変化	陸生動物	哺乳類	●		●		●	鳥類	●		●		●	爬虫類	●			●		両生類	●	●		●	●	昆虫類	●	●		●	●	クモ類	●			●		重要な種	土壌動物	●			●		カヤネズミ	●		●	●	●	チュウサギ	●		●	●	●	カワアイサ	●		●	●	●	ミサゴ	●		●	●	●	オオタカ	●		●	●	●	ハイロチュウヒ	●		●	●	●	チュウヒ	●		●	●	●	ハヤブサ	●		●	●	●	ウズラ	●		●	●	●	クイナ	●		●	●	●	ヒクイナ	●		●	●	●	タマシギ	●		●	●	●	イカルチドリ	●		●	●	●	シロチドリ	●		●	●	●	オジロトウネン	●		●	●	●	ウズラシギ	●		●	●	●	オバシギ	●		●	●	●	アカアシシギ	●		●	●	●	タカブシギ	●		●	●	●	オグロシギ	●		●	●	●	ダイシャクシギ	●		●	●	●	ホウロクシギ	●		●	●	●	コシャクシギ	●		●	●	●	オオジシギ	●		●	●	●	セイタカシギ	●		●	●	●	ズグロカモメ	●		●	●	●	コアジサシ	●		●	●	●	アオバズク	●		●	●	●	オオヨシキリ	●		●	●	●	ホオアカ	●		●	●	●	ネアカヨシヤンマ	●	●	●	●	●	アオヤンマ	●	●	●	●	●	コオイムシ	●	●	●	●	●	ヤマトモンシダムシ	●		●	●		オオツノハネカクシ	●		●	●		コガネグモ	●		●	●		注目すべき生息地(ねぐら)	ハイロチュウヒ	●		●		●	チュウヒ	●		●		●	コチョウゲンボウ	●		●		●
影響要因	工事の実施			土地又は工作物の存在及び供用																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	・重機の稼働 ・樹木の伐採、処理 ・工作物の建設 ・工事用道路等の建設			・資材の運搬 ・土地の造成 ・工作物の供用、稼働 ・発生車両の走行																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	直接改変	直接改変以外	直接改変以外	直接改変	直接改変以外	直接改変以外																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
予測対象	生息地の消失又は改変	水の濁り等による生息環境の変化	人や車両等の立ち入りによる生息環境の変化	生息地の消失又は改変	排水等による水質変化に伴う生息環境の変化	人や車両等の立ち入りによる生息環境の変化																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
陸生動物	哺乳類	●		●		●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	鳥類	●		●		●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	爬虫類	●			●																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	両生類	●	●		●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	昆虫類	●	●		●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	クモ類	●			●																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
重要な種	土壌動物	●			●																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	カヤネズミ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	チュウサギ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	カワアイサ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	ミサゴ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	オオタカ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	ハイロチュウヒ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	チュウヒ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	ハヤブサ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	ウズラ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	クイナ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	ヒクイナ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	タマシギ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	イカルチドリ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	シロチドリ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	オジロトウネン	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	ウズラシギ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	オバシギ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	アカアシシギ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	タカブシギ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	オグロシギ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	ダイシャクシギ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	ホウロクシギ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	コシャクシギ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	オオジシギ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	セイタカシギ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	ズグロカモメ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	コアジサシ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	アオバズク	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	オオヨシキリ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	ホオアカ	●		●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	ネアカヨシヤンマ	●	●	●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	アオヤンマ	●	●	●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
コオイムシ	●	●	●	●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
ヤマトモンシダムシ	●		●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
オオツノハネカクシ	●		●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
コガネグモ	●		●	●																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
注目すべき生息地(ねぐら)	ハイロチュウヒ	●		●		●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	チュウヒ	●		●		●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	コチョウゲンボウ	●		●		●																																																																																																																																																																																																																																																																																																													



表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (44)

頁	区 分	変更の概要及び理由				
288	追 記	<p>「注目すべき生息地」を予測項目に追加したため、その予測方法について、以下の文章を追記した。</p> <p>準備書 p. 288 「6. 2. 1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用 (2) 予測方法」に文章を追記 (評価書 p. 311)</p> <p><b>3) 注目すべき生息地</b>            工事計画から把握される改変区域と現地調査結果を重ね合わせ、注目すべき生息地が受ける影響の程度を可能な限り定量的に予測した。</p>				
289	改 訂	<p>調査結果をより詳細に記述したことにより、予測結果を見直し、以下のとおり文章を改訂した。</p> <p>準備書 p. 289 「6. 2. 1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用 (5) 予測結果」の文章を改訂 (下線：改訂)</p> <table border="1" data-bbox="400 611 1383 1888"> <tr> <td data-bbox="400 611 528 1155">準備書</td> <td data-bbox="528 611 1383 1155"> <p><b>a カヤネズミ</b>                調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8. 6. 2-1 に示した。                調査の結果、干拓地における本種の生息地の植生は、ヤマアワを含むイネ科草本であり、干拓地全域に広く分布する。確認された 37 個の球巢の巢材は全てヤマアワであり、事業実施区域内に 21 個、事業実施区域外に 16 個確認された。</p> <p><b>7 直接改変</b>                事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息地として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在することから、事業の実施に伴う直接改変の影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b>                事業実施区域外の本種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の範囲であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>う まとめ</b>                事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小し個体数が減少するが、対象事業の実施が生息に与える影響は小さいと考えられる。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="400 1155 528 1888">評価書 (p. 312)</td> <td data-bbox="528 1155 1383 1888"> <p><b>a カヤネズミ</b>  <u>平成 14 年度調査、平成 15 年度調査を通して、確認されたカヤネズミ球巢と事業計画との重ね合わせ結果を図 8. 6. 2-1 に示した。</u>  <u>本種は、餌となる種子やバクテリアが豊富で、造巢が可能となる高茎のイネ科草本を含む場所に生息すると言われている。干拓地内にはイネ科の高茎草本を含むチガヤ群落やススキ・ハチジョウススキ群落等が一面に広がっていることから、干拓地内全域に生息していると考えられるが、セイケアワダチソウ群落の占める割合も高く、乾燥化に伴い、その生息環境は狭小化しつつあるものと考えられる。</u></p> <p><b>7 直接改変</b>                事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息地として適さなくなる。事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在するが、<u>本種の生息環境は、現状においても狭小化していると考えられ、事業によってこれが加速されることが懸念される。</u></p> <p><b>イ 直接改変以外</b>                事業実施区域外の本種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の<u>区域</u>であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>う まとめ</b>                事業の実施に伴う地形の改変により、<u>現状における生息環境の狭小化が加速されることが懸念される。直接改変以外による影響は、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから影響をうける範囲は事業実施区域に隣接する一部の区域であると予測され、影響は小さいと考えられる。</u></p> </td> </tr> </table>	準備書	<p><b>a カヤネズミ</b>                調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8. 6. 2-1 に示した。                調査の結果、干拓地における本種の生息地の植生は、ヤマアワを含むイネ科草本であり、干拓地全域に広く分布する。確認された 37 個の球巢の巢材は全てヤマアワであり、事業実施区域内に 21 個、事業実施区域外に 16 個確認された。</p> <p><b>7 直接改変</b>                事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息地として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在することから、事業の実施に伴う直接改変の影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b>                事業実施区域外の本種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の範囲であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>う まとめ</b>                事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小し個体数が減少するが、対象事業の実施が生息に与える影響は小さいと考えられる。</p>	評価書 (p. 312)	<p><b>a カヤネズミ</b>  <u>平成 14 年度調査、平成 15 年度調査を通して、確認されたカヤネズミ球巢と事業計画との重ね合わせ結果を図 8. 6. 2-1 に示した。</u>  <u>本種は、餌となる種子やバクテリアが豊富で、造巢が可能となる高茎のイネ科草本を含む場所に生息すると言われている。干拓地内にはイネ科の高茎草本を含むチガヤ群落やススキ・ハチジョウススキ群落等が一面に広がっていることから、干拓地内全域に生息していると考えられるが、セイケアワダチソウ群落の占める割合も高く、乾燥化に伴い、その生息環境は狭小化しつつあるものと考えられる。</u></p> <p><b>7 直接改変</b>                事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息地として適さなくなる。事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在するが、<u>本種の生息環境は、現状においても狭小化していると考えられ、事業によってこれが加速されることが懸念される。</u></p> <p><b>イ 直接改変以外</b>                事業実施区域外の本種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の<u>区域</u>であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>う まとめ</b>                事業の実施に伴う地形の改変により、<u>現状における生息環境の狭小化が加速されることが懸念される。直接改変以外による影響は、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから影響をうける範囲は事業実施区域に隣接する一部の区域であると予測され、影響は小さいと考えられる。</u></p>
準備書	<p><b>a カヤネズミ</b>                調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8. 6. 2-1 に示した。                調査の結果、干拓地における本種の生息地の植生は、ヤマアワを含むイネ科草本であり、干拓地全域に広く分布する。確認された 37 個の球巢の巢材は全てヤマアワであり、事業実施区域内に 21 個、事業実施区域外に 16 個確認された。</p> <p><b>7 直接改変</b>                事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息地として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在することから、事業の実施に伴う直接改変の影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b>                事業実施区域外の本種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の範囲であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>う まとめ</b>                事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小し個体数が減少するが、対象事業の実施が生息に与える影響は小さいと考えられる。</p>					
評価書 (p. 312)	<p><b>a カヤネズミ</b>  <u>平成 14 年度調査、平成 15 年度調査を通して、確認されたカヤネズミ球巢と事業計画との重ね合わせ結果を図 8. 6. 2-1 に示した。</u>  <u>本種は、餌となる種子やバクテリアが豊富で、造巢が可能となる高茎のイネ科草本を含む場所に生息すると言われている。干拓地内にはイネ科の高茎草本を含むチガヤ群落やススキ・ハチジョウススキ群落等が一面に広がっていることから、干拓地内全域に生息していると考えられるが、セイケアワダチソウ群落の占める割合も高く、乾燥化に伴い、その生息環境は狭小化しつつあるものと考えられる。</u></p> <p><b>7 直接改変</b>                事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息地として適さなくなる。事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在するが、<u>本種の生息環境は、現状においても狭小化していると考えられ、事業によってこれが加速されることが懸念される。</u></p> <p><b>イ 直接改変以外</b>                事業実施区域外の本種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の<u>区域</u>であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>う まとめ</b>                事業の実施に伴う地形の改変により、<u>現状における生息環境の狭小化が加速されることが懸念される。直接改変以外による影響は、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから影響をうける範囲は事業実施区域に隣接する一部の区域であると予測され、影響は小さいと考えられる。</u></p>					

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (45)

頁	区 分	変更の概要及び理由				
289	改 訂	<p>確認状況の修正に伴い、干潟等を主な生息地としている種と水田等を主な生息地等としている種に分けて予測した。また、鳥類に関し、予測対象とする重要な種を追加したため、この種についても予測を行った。このため、以下のとおり文章を改訂した。</p> <p>準備書 p. 289 「6.2.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用(5) 予測結果」の文章を改訂（下線：改訂）</p> <table border="1" data-bbox="400 338 1383 1832"> <tr> <td data-bbox="400 338 496 864">準備書</td> <td data-bbox="496 338 1383 864"> <p><b>b タマシギ・イカルチドリ・シロチドリ・ウズラシギ・タカブシギ・オジロトウネン・オバシギ・アカアシシギ・ホウロクシギ・ダイシャクシギ・コシャクシギ・オオジシギ・セイタカシギ・ズグロカモメ・アオバズク</b></p> <p>調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8.6.2-2(1)～(4)に示した。</p> <p>これらの種は、生息環境及び確認状況から主に干拓地周辺の干潟及び水田が生息地であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b></p> <p>これらの種の主な生息地は干拓地周辺であるため、事業の実施に伴う直接改変の影響は想定されない。</p> <p><b>1 直接改変以外</b></p> <p>事業実施区域外のこれらの種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の範囲であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>う まとめ</b></p> <p>これらの種の生息地は事業の実施に伴う直接改変による影響を受けない。また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、対象事業の実施後もこれらの種の生息は維持されると考えられる。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="400 864 496 1832">評価書 (p. 312 ～313)</td> <td data-bbox="496 864 1383 1832"> <p><b>b シロチドリ・オジロトウネン・オバシギ・アカアシシギ・オグロシギ・ダイシャクシギ・ホウロクシギ・ズグロカモメ</b></p> <p>平成 14 年度から平成 15 年度までの調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8.6.2-2(1)～(2)に示した。</p> <p>これらの種は、生息環境及び確認状況から主に干拓地周辺の干潟、水田等を生息地としており、満潮時には堤防等を避難場所として利用している。</p> <p><b>7 直接改変</b></p> <p>これらの種の主な生息地は干拓地周辺の干潟や水田等であり、事業の実施に伴う直接改変の影響は想定されない。</p> <p><b>1 直接改変以外</b></p> <p>事業実施区域外のこれらの種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の範囲であると予測され、かつ、これらの種が主に生息する干潟や水田と事業実施区域の間には堤防が存在していることから、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>う まとめ</b></p> <p>これらの種の生息地は事業の実施に伴う直接改変による影響を受けない。また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、事業の実施後もこれらの種の生息は維持されると考えられる。</p> <p><b>c タマシギ・イカルチドリ・ウズラシギ・タカブシギ・コシャクシギ・オオジシギ・セイタカシギ・アオバズク</b></p> <p>平成 14 年度から平成 15 年度までの調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8.6.2-2(3)～(4)に示した。</p> <p>これらの種は、生息環境及び確認状況から主に干拓地周辺の水田、草地、樹林及び木曽川が生息地であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b></p> <p>これらの種の主な生息地は干拓地周辺であるため、事業の実施に伴う直接改変の影響は想定されない。</p> <p><b>1 直接改変以外</b></p> <p>事業実施区域外の本種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の区域であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>う まとめ</b></p> <p>これらの種の生息地は事業の実施に伴う直接改変による影響を受けない。また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、事業の実施後もこれらの種の生息は維持されると考えられる。</p> </td> </tr> </table>	準備書	<p><b>b タマシギ・イカルチドリ・シロチドリ・ウズラシギ・タカブシギ・オジロトウネン・オバシギ・アカアシシギ・ホウロクシギ・ダイシャクシギ・コシャクシギ・オオジシギ・セイタカシギ・ズグロカモメ・アオバズク</b></p> <p>調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8.6.2-2(1)～(4)に示した。</p> <p>これらの種は、生息環境及び確認状況から主に干拓地周辺の干潟及び水田が生息地であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b></p> <p>これらの種の主な生息地は干拓地周辺であるため、事業の実施に伴う直接改変の影響は想定されない。</p> <p><b>1 直接改変以外</b></p> <p>事業実施区域外のこれらの種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の範囲であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>う まとめ</b></p> <p>これらの種の生息地は事業の実施に伴う直接改変による影響を受けない。また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、対象事業の実施後もこれらの種の生息は維持されると考えられる。</p>	評価書 (p. 312 ～313)	<p><b>b シロチドリ・オジロトウネン・オバシギ・アカアシシギ・オグロシギ・ダイシャクシギ・ホウロクシギ・ズグロカモメ</b></p> <p>平成 14 年度から平成 15 年度までの調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8.6.2-2(1)～(2)に示した。</p> <p>これらの種は、生息環境及び確認状況から主に干拓地周辺の干潟、水田等を生息地としており、満潮時には堤防等を避難場所として利用している。</p> <p><b>7 直接改変</b></p> <p>これらの種の主な生息地は干拓地周辺の干潟や水田等であり、事業の実施に伴う直接改変の影響は想定されない。</p> <p><b>1 直接改変以外</b></p> <p>事業実施区域外のこれらの種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の範囲であると予測され、かつ、これらの種が主に生息する干潟や水田と事業実施区域の間には堤防が存在していることから、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>う まとめ</b></p> <p>これらの種の生息地は事業の実施に伴う直接改変による影響を受けない。また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、事業の実施後もこれらの種の生息は維持されると考えられる。</p> <p><b>c タマシギ・イカルチドリ・ウズラシギ・タカブシギ・コシャクシギ・オオジシギ・セイタカシギ・アオバズク</b></p> <p>平成 14 年度から平成 15 年度までの調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8.6.2-2(3)～(4)に示した。</p> <p>これらの種は、生息環境及び確認状況から主に干拓地周辺の水田、草地、樹林及び木曽川が生息地であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b></p> <p>これらの種の主な生息地は干拓地周辺であるため、事業の実施に伴う直接改変の影響は想定されない。</p> <p><b>1 直接改変以外</b></p> <p>事業実施区域外の本種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の区域であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>う まとめ</b></p> <p>これらの種の生息地は事業の実施に伴う直接改変による影響を受けない。また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、事業の実施後もこれらの種の生息は維持されると考えられる。</p>
準備書	<p><b>b タマシギ・イカルチドリ・シロチドリ・ウズラシギ・タカブシギ・オジロトウネン・オバシギ・アカアシシギ・ホウロクシギ・ダイシャクシギ・コシャクシギ・オオジシギ・セイタカシギ・ズグロカモメ・アオバズク</b></p> <p>調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8.6.2-2(1)～(4)に示した。</p> <p>これらの種は、生息環境及び確認状況から主に干拓地周辺の干潟及び水田が生息地であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b></p> <p>これらの種の主な生息地は干拓地周辺であるため、事業の実施に伴う直接改変の影響は想定されない。</p> <p><b>1 直接改変以外</b></p> <p>事業実施区域外のこれらの種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の範囲であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>う まとめ</b></p> <p>これらの種の生息地は事業の実施に伴う直接改変による影響を受けない。また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、対象事業の実施後もこれらの種の生息は維持されると考えられる。</p>					
評価書 (p. 312 ～313)	<p><b>b シロチドリ・オジロトウネン・オバシギ・アカアシシギ・オグロシギ・ダイシャクシギ・ホウロクシギ・ズグロカモメ</b></p> <p>平成 14 年度から平成 15 年度までの調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8.6.2-2(1)～(2)に示した。</p> <p>これらの種は、生息環境及び確認状況から主に干拓地周辺の干潟、水田等を生息地としており、満潮時には堤防等を避難場所として利用している。</p> <p><b>7 直接改変</b></p> <p>これらの種の主な生息地は干拓地周辺の干潟や水田等であり、事業の実施に伴う直接改変の影響は想定されない。</p> <p><b>1 直接改変以外</b></p> <p>事業実施区域外のこれらの種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の範囲であると予測され、かつ、これらの種が主に生息する干潟や水田と事業実施区域の間には堤防が存在していることから、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>う まとめ</b></p> <p>これらの種の生息地は事業の実施に伴う直接改変による影響を受けない。また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、事業の実施後もこれらの種の生息は維持されると考えられる。</p> <p><b>c タマシギ・イカルチドリ・ウズラシギ・タカブシギ・コシャクシギ・オオジシギ・セイタカシギ・アオバズク</b></p> <p>平成 14 年度から平成 15 年度までの調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8.6.2-2(3)～(4)に示した。</p> <p>これらの種は、生息環境及び確認状況から主に干拓地周辺の水田、草地、樹林及び木曽川が生息地であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b></p> <p>これらの種の主な生息地は干拓地周辺であるため、事業の実施に伴う直接改変の影響は想定されない。</p> <p><b>1 直接改変以外</b></p> <p>事業実施区域外の本種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の区域であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>う まとめ</b></p> <p>これらの種の生息地は事業の実施に伴う直接改変による影響を受けない。また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、事業の実施後もこれらの種の生息は維持されると考えられる。</p>					

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要(46)

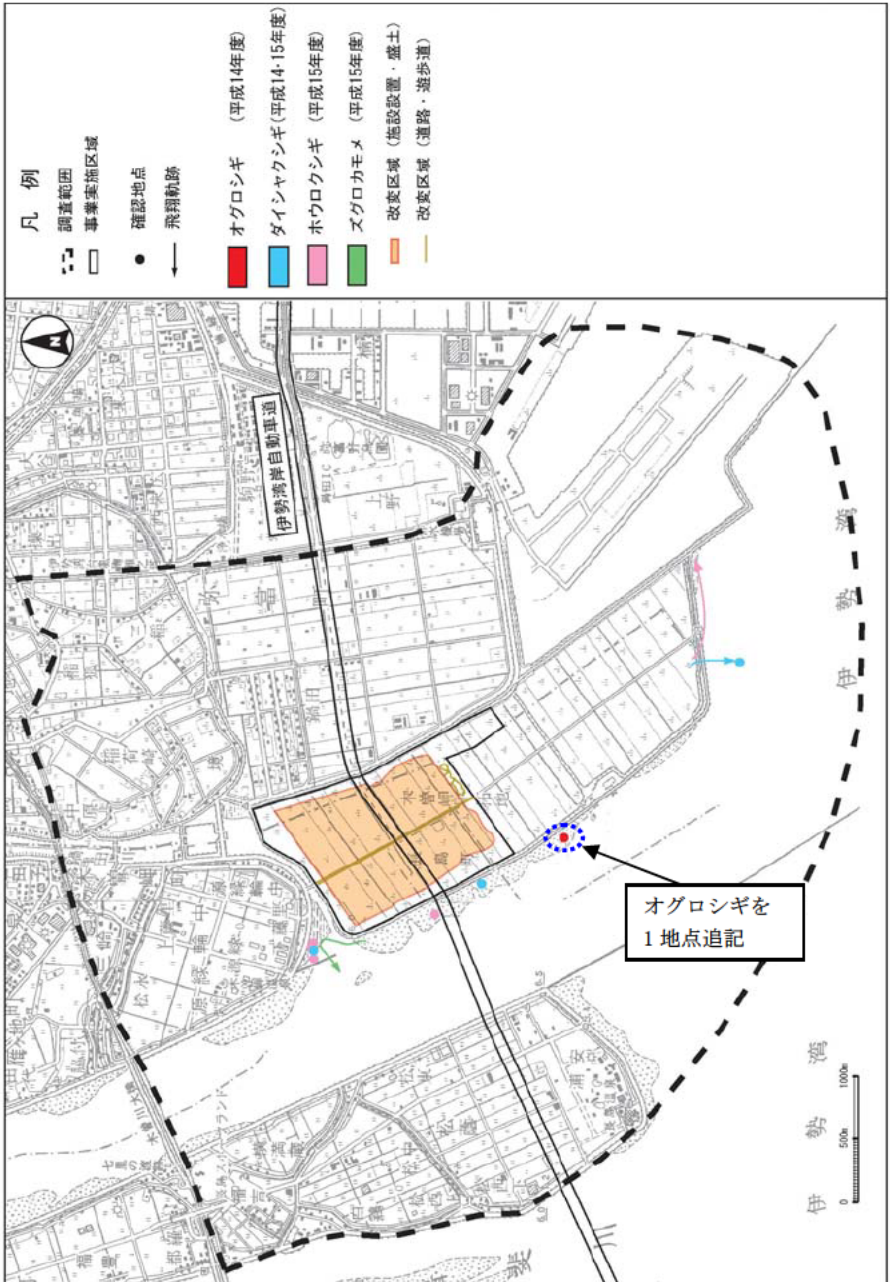
頁	区分	変更の概要及び理由
293	改訂	<p>鳥類に関し、重要な種の選定漏れがあったため、この種について事業計画との重ね合わせを新たに行い、以下のとおり図を改訂した。</p> <p>「6.2.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用(5)予測結果」の図を改訂(●: 追記)</p> <p>評価書 p. 316</p>  <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査範囲</li> <li>事業実施区域</li> <li>確認地点</li> <li>飛翔軌跡</li> <li>オグロシギ (平成14年度)</li> <li>ダイシャクシギ (平成14・15年度)</li> <li>ホウロクシギ (平成15年度)</li> <li>ズグロカモメ (平成15年度)</li> <li>変更区域 (施設設置・盛土)</li> <li>変更区域 (道路・遊歩道)</li> </ul> <p>伊勢湾自動車道</p> <p>伊勢湾</p> <p>0 500m 1000m</p> <p>オグロシギを 1 地点追記</p> <p>図 8.6.2-2(2) 重要な種 (オグロシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、ズグロカモメ) と事業計画の重ね合わせ結果</p>

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要(47)

頁	区 分	変更の概要及び理由				
295	改 訂	<p>カワアイサを予測対象とする重要な種から除外し、予測結果をより詳細に記述した。そのため、以下のとおり文章を改訂した。</p> <p>準備書 p. 295 「6. 2. 1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用(5)予測結果」の文章を改訂（下線：改訂）</p> <table border="1" data-bbox="400 293 1386 1541"> <tr> <td data-bbox="400 293 528 902">準備書</td> <td data-bbox="528 293 1386 902"> <p><b>c チュウサギ・カワアイサ・コアジサシ</b>                      調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8. 6. 2-3(1)～(2)に示した。                      本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地内外の水辺であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息地として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在することから、事業の実施に伴う直接改変の影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b>                      事業実施区域外の本種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の範囲であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>ウ まとめ</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小するが、対象事業の実施が生息に与える影響は小さいと考えられる。また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、対象事業の実施後も本種の生息は維持されると考えられる。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="400 902 528 1541">評価書 (p. 319)</td> <td data-bbox="528 902 1386 1541"> <p><b>d チュウサギ・<del>カワアイサ</del>・コアジサシ</b>                      平成 14 年度から平成 15 年度までの調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8. 6. 2-3(1)～(2)に示した。                      本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地内外の水辺であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息地として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在することから、事業の実施に伴う直接改変の影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b>                      事業実施区域外の本種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設<u>の建設</u>はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の<u>区域</u>であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>ウ まとめ</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小するが、<u>事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在することから、対象事業の実施がこれらの種の生息に与える影響は小さいと考えられる。</u>また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、事業の実施後も<u>これらの種の生息は維持されると考えられる。</u></p> </td> </tr> </table>	準備書	<p><b>c チュウサギ・カワアイサ・コアジサシ</b>                      調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8. 6. 2-3(1)～(2)に示した。                      本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地内外の水辺であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息地として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在することから、事業の実施に伴う直接改変の影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b>                      事業実施区域外の本種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の範囲であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>ウ まとめ</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小するが、対象事業の実施が生息に与える影響は小さいと考えられる。また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、対象事業の実施後も本種の生息は維持されると考えられる。</p>	評価書 (p. 319)	<p><b>d チュウサギ・<del>カワアイサ</del>・コアジサシ</b>                      平成 14 年度から平成 15 年度までの調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8. 6. 2-3(1)～(2)に示した。                      本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地内外の水辺であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息地として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在することから、事業の実施に伴う直接改変の影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b>                      事業実施区域外の本種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設<u>の建設</u>はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の<u>区域</u>であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>ウ まとめ</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小するが、<u>事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在することから、対象事業の実施がこれらの種の生息に与える影響は小さいと考えられる。</u>また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、事業の実施後も<u>これらの種の生息は維持されると考えられる。</u></p>
準備書	<p><b>c チュウサギ・カワアイサ・コアジサシ</b>                      調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8. 6. 2-3(1)～(2)に示した。                      本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地内外の水辺であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息地として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在することから、事業の実施に伴う直接改変の影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b>                      事業実施区域外の本種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の範囲であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>ウ まとめ</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小するが、対象事業の実施が生息に与える影響は小さいと考えられる。また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、対象事業の実施後も本種の生息は維持されると考えられる。</p>					
評価書 (p. 319)	<p><b>d チュウサギ・<del>カワアイサ</del>・コアジサシ</b>                      平成 14 年度から平成 15 年度までの調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8. 6. 2-3(1)～(2)に示した。                      本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は干拓地内外の水辺であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息地として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在することから、事業の実施に伴う直接改変の影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b>                      事業実施区域外の本種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設<u>の建設</u>はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の<u>区域</u>であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>ウ まとめ</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小するが、<u>事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在することから、対象事業の実施がこれらの種の生息に与える影響は小さいと考えられる。</u>また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、事業の実施後も<u>これらの種の生息は維持されると考えられる。</u></p>					

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (48)

頁	区分	変更の概要及び理由
295	改訂	<p>調査結果をより詳細に記述したことにより、予測結果を見直し、以下のとおり文章を改訂した。</p> <p>準備書 p. 295 「6. 2. 1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用 (5) 予測結果」の文章を改訂 (下線: 改訂)</p> <p><b>準備書</b></p> <p><b>d チュウヒ</b>          本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は事業実施区域を含む干拓地内の草地であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b>          事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息地として適さなくなる。平成 16 年度の調査で確認された 3 つがいの営巣地のうち、事業実施区域外に確認されている 2 つがいの営巣地は維持されるが、事業の実施により採餌場が減少するため、現状では事業実施区域外で 3 つがいが繁殖するのは困難であると考えられる。</p> <p><b>4 直接改変以外</b>          事業実施区域外の本種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の範囲であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>りまとめ</b>          本種は事業の実施に伴う直接改変の影響を受け、生息地の一部が消失する。特に、1 つがいの営巣地と採餌場の一部が消失する。          直接改変以外による影響は、大きな騒音を発生するような工事や施設はないことから影響をうける範囲は事業実施区域に隣接する一部の範囲であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p>なお、種の保全の観点から確認位置を示していない。</p> <p><b>評価書</b>          (p. 319～320)</p> <p><b>e チュウヒ</b>  <u>3 つがいが繁殖に成功し、3 つがいの営巣地が特定された平成 15 年度の調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8. 6. 2-4 に示した。</u>          本種の生息環境及び確認状況から、本種の繁殖期における<u>主な生息地は事業実施区域を含む干拓地内及びその周辺の草地である。</u></p> <p><b>7 直接改変</b>  <u>平成 15 年度において、伊勢湾岸自動車道以南で 3 つがいのチュウヒが繁殖に成功しているが、事業の実施に伴う土地の改変により事業実施区域近傍の 1 つがいの営巣地への影響が懸念される。</u>  <u>3 つがいが繁殖に成功した平成 15 年度において、ペア別にそれぞれ区画メッシュ法(猛禽類保護の進め方(特にイヌワシ、クマタカ、オオタカについて) 1996 環境庁)により行動圏解析を行ったところ、チュウヒ 3 つがいの主要な採餌場の面積に対して、約 50ha が消失するおそれがあると考えられた。したがって、現状では事業実施区域外で 3 つがいが繁殖するのは困難になると考えられる。</u></p> <p><b>4 直接改変以外</b>          事業実施区域外の本種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の<u>区域</u>であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>りまとめ</b>  <u>平成 15 年度において、伊勢湾岸自動車道以南で 3 つがいのチュウヒが繁殖に成功しているが、事業の実施に伴う土地の改変により事業実施区域近傍の 1 つがいの営巣地への影響が懸念される。チュウヒ 3 つがいの主要な採餌場の面積に対して、約 50ha が消失するおそれがあると考えられた。</u>          直接改変以外による影響は、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから影響をうける範囲は事業実施区域に隣接する一部の<u>区域</u>であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p>

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要(49)

頁	区分	変更の概要及び理由
-	追記	<p>チュウヒの行動圏(模式図)と事業計画を重ね合わせを行い、以下の図を追記した。</p> <p>「6.2.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用(5)予測結果」の図を改訂</p> <p>評価書 p. 323</p> <div data-bbox="443 360 1337 1637"> <p><b>凡例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施区域</li> <li>最大行動圏</li> <li>探餌場</li> <li>主要な探餌場(高利用域)</li> <li>改変区域(施設設置・盛土)</li> <li>改変区域(運路・遊歩道)</li> </ul> <p>注1. 高利用域：(猛禽類保護の進め方(特にイヌワシ、クマタカ、オオタカについて)1996年発行)によりますと、オオタカの高利用域は、繁殖期の探餌場所、主要な飛行ルート、主要な巡回場所、主要な止まり場等を含む繁殖期に利用頻度が高い区域とされている。</p> <p>本解析では、それぞれのベアの「高利用域」と、「狩り行動の高利用域」を整理したところ、「高利用域」と「狩り行動の高利用域」はほぼ重なっていたため、「高利用域」を繁殖期の主要な探餌場と定義した。</p> <p>2. 本図面は種の保全の観点から、確認された3つがいの行動圏及び探餌場の概略を模式的に示したものである。</p> </div>

図 8.6.2-4 重要な種(チュウヒ)と事業計画の重ね合わせ結果(平成15年度)

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (50)

頁	区 分	変更の概要及び理由
298	改 訂	<p>予測結果をより詳細に記述することとし、以下のとおり文章を改訂した。</p> <p>準備書 p. 298 「6. 2. 1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用 (5) 予測結果」の文章を改訂 (下線: 改訂)</p> <p><b>準備書</b></p> <p><b>e ミサゴ、オオタカ、ハイイロチュウヒ、ハヤブサ</b>          これらの種の生息環境及び確認状況から、主に事業実施区域を含む干拓地内の樹林や草地等が生息地であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b>          事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域はこれらの種の生息地として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にもこれらの種の生息地は存在することから、事業の実施に伴う直接改変の影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b>          事業実施区域外のこれらの種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の範囲であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>う まとめ</b>          これらの種の生息地は直接改変による影響を受けるが事業実施区域外の生息地は直接改変の影響が及ばないため、事業の実施に伴う影響は小さいと考えられる。          また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、対象事業の実施後もこれらの種の生息は維持されると考えられる。          なお、種の保全の観点から確認位置を示していない。</p> <p><b>評価書 (p. 324)</b></p> <p><b>f ミサゴ、オオタカ、ハイイロチュウヒ、ハヤブサ</b>          これらの種の生息環境及び平成 14 年度から平成 16 年度までの確認状況から、主に事業実施区域を含む干拓地内の樹林や草地等が生息地であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b>          事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域はこれらの種の生息地として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にもこれらの種の生息地は存在することから、事業の実施に伴う直接改変の影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b>          事業実施区域外のこれらの種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の区域であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>う まとめ</b>  <u>事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小するが、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在することから、事業の実施がこれらの種の生息に与える影響は小さいと考えられる。</u>          また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、事業の実施後もこれらの種の生息は維持されると考えられる。          なお、種の保全の観点から確認位置を示していない。</p>

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (51)

頁	区 分	変更の概要及び理由				
298	改 訂	<p>予測結果をより詳細に記述することとし、以下のとおり文章を改訂した。</p> <p>準備書 p. 298 「6. 2. 1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用 (5) 予測結果」の文章を改訂 (下線: 改訂)</p> <table border="1" data-bbox="400 275 1382 1621"> <tr> <td data-bbox="400 342 528 949">準備書</td> <td data-bbox="528 342 1382 949"> <p><b>f ウズラ・クイナ・ヒクイナ・ホオアカ</b></p> <p>調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8. 6. 2-4(1)～(2)に示した。</p> <p>これらの種の生息環境及び確認状況から、主に事業実施区域を含む干拓地内の草地等が生息地であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b></p> <p>事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域はこれらの種の生息地として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にもこれらの種の生息地は存在することから、事業の実施に伴う直接改変の影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b></p> <p>事業実施区域外のこれらの種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の範囲であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>う まとめ</b></p> <p>これらの種の生息地は直接改変による影響を受けるが事業実施区域外の生息地は直接改変の影響が及ばないため、事業の実施に伴う影響は小さいと考えられる。</p> <p>また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、対象事業の実施後もこれらの種の生息は維持され则认为られる。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="400 949 528 1621">評価書 (p. 324～ 325)</td> <td data-bbox="528 949 1382 1621"> <p><b>g ウズラ・クイナ・ヒクイナ・ホオアカ</b></p> <p>平成 14 年度から平成 15 年度までの調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8. 6. 2-5(1)～(2)に示した。</p> <p>これらの種の生息環境及び確認状況から、主に事業実施区域を含む干拓地内及びその周辺の草地等が生息地であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b></p> <p>事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域はこれらの種の生息地として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にもこれらの種の生息地は存在することから、事業の実施に伴う直接改変の影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b></p> <p>事業実施区域外のこれらの種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の区域であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>う まとめ</b></p> <p>事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小するが、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在することから、事業の実施がこれらの種の生息に与える影響は小さいと考慮される。</p> <p>また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、対象事業の実施後もこれらの種の生息は維持され则认为られる。</p> </td> </tr> </table>	準備書	<p><b>f ウズラ・クイナ・ヒクイナ・ホオアカ</b></p> <p>調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8. 6. 2-4(1)～(2)に示した。</p> <p>これらの種の生息環境及び確認状況から、主に事業実施区域を含む干拓地内の草地等が生息地であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b></p> <p>事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域はこれらの種の生息地として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にもこれらの種の生息地は存在することから、事業の実施に伴う直接改変の影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b></p> <p>事業実施区域外のこれらの種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の範囲であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>う まとめ</b></p> <p>これらの種の生息地は直接改変による影響を受けるが事業実施区域外の生息地は直接改変の影響が及ばないため、事業の実施に伴う影響は小さいと考えられる。</p> <p>また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、対象事業の実施後もこれらの種の生息は維持され则认为られる。</p>	評価書 (p. 324～ 325)	<p><b>g ウズラ・クイナ・ヒクイナ・ホオアカ</b></p> <p>平成 14 年度から平成 15 年度までの調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8. 6. 2-5(1)～(2)に示した。</p> <p>これらの種の生息環境及び確認状況から、主に事業実施区域を含む干拓地内及びその周辺の草地等が生息地であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b></p> <p>事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域はこれらの種の生息地として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にもこれらの種の生息地は存在することから、事業の実施に伴う直接改変の影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b></p> <p>事業実施区域外のこれらの種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の区域であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>う まとめ</b></p> <p>事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小するが、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在することから、事業の実施がこれらの種の生息に与える影響は小さいと考慮される。</p> <p>また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、対象事業の実施後もこれらの種の生息は維持され则认为られる。</p>
準備書	<p><b>f ウズラ・クイナ・ヒクイナ・ホオアカ</b></p> <p>調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8. 6. 2-4(1)～(2)に示した。</p> <p>これらの種の生息環境及び確認状況から、主に事業実施区域を含む干拓地内の草地等が生息地であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b></p> <p>事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域はこれらの種の生息地として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にもこれらの種の生息地は存在することから、事業の実施に伴う直接改変の影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b></p> <p>事業実施区域外のこれらの種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の範囲であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>う まとめ</b></p> <p>これらの種の生息地は直接改変による影響を受けるが事業実施区域外の生息地は直接改変の影響が及ばないため、事業の実施に伴う影響は小さいと考えられる。</p> <p>また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、対象事業の実施後もこれらの種の生息は維持され则认为られる。</p>					
評価書 (p. 324～ 325)	<p><b>g ウズラ・クイナ・ヒクイナ・ホオアカ</b></p> <p>平成 14 年度から平成 15 年度までの調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8. 6. 2-5(1)～(2)に示した。</p> <p>これらの種の生息環境及び確認状況から、主に事業実施区域を含む干拓地内及びその周辺の草地等が生息地であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b></p> <p>事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域はこれらの種の生息地として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にもこれらの種の生息地は存在することから、事業の実施に伴う直接改変の影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b></p> <p>事業実施区域外のこれらの種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の区域であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>う まとめ</b></p> <p>事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小するが、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在することから、事業の実施がこれらの種の生息に与える影響は小さいと考慮される。</p> <p>また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、対象事業の実施後もこれらの種の生息は維持され则认为られる。</p>					



表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要(52)

頁	区 分	変更の概要及び理由				
301	改 訂	<p>調査結果をより詳細に記述したことにより、予測結果を見直し、以下のとおり文章を改訂した。</p> <p>準備書 p.301 「6.2.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用(5)予測結果」の文章を改訂(下線:改訂)</p> <table border="1" data-bbox="400 324 1386 1637"> <tr> <td data-bbox="400 324 528 869">準備書</td> <td data-bbox="528 324 1386 869"> <p><b>g オオヨシキリ</b>                      調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8.6.2-5 に示した。                      本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は事業実施区域を含む干拓地内及びその周辺のヨシ原であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息地として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在することから、事業の実施に伴う直接改変の影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>4 直接改変以外</b>                      事業実施区域外の本種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の範囲であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>り まとめ</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小するが、対象事業の実施が生息に与える影響は小さいと考えられる。また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、対象事業の実施後も本種の生息は維持されると考えられる。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="400 869 528 1637">評価書 (p.328)</td> <td data-bbox="528 869 1386 1637"> <p><b>h オオヨシキリ</b>                      平成 14 年度から平成 15 年度までの調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8.6.2-6 に示した。                      本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は事業実施区域を含む干拓地内に点在するヨシ原及び干拓地周辺のヨシ原であると推定されるが、<u>干拓地内のヨシ原のほとんどは、生育密度が低く(約 80 本/m<sup>2</sup>未満)、オオヨシキリが営巣可能と考えられるヨシ原はほとんど見られなかった。以上のことから、干拓地内のオオヨシキリの生息個体数は比較的少ないと考えられる。</u></p> <p><b>7 直接改変</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息地として適さなくなる。事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在するが、<u>本種は干拓地内における生息個体数が比較的少ないと考えられ、事業実施による個体群のさらなる矮小化が懸念される。</u></p> <p><b>4 直接改変以外</b>                      事業実施区域外の本種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の区域であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>り まとめ</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小し、<u>個体群のさらなる矮小化が懸念される。</u>  <u>直接改変以外による影響は、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから影響をうける範囲は事業実施区域に隣接する一部の区域であると予測され、影響は小さいと考えられる。</u></p> </td> </tr> </table>	準備書	<p><b>g オオヨシキリ</b>                      調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8.6.2-5 に示した。                      本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は事業実施区域を含む干拓地内及びその周辺のヨシ原であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息地として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在することから、事業の実施に伴う直接改変の影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>4 直接改変以外</b>                      事業実施区域外の本種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の範囲であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>り まとめ</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小するが、対象事業の実施が生息に与える影響は小さいと考えられる。また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、対象事業の実施後も本種の生息は維持されると考えられる。</p>	評価書 (p.328)	<p><b>h オオヨシキリ</b>                      平成 14 年度から平成 15 年度までの調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8.6.2-6 に示した。                      本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は事業実施区域を含む干拓地内に点在するヨシ原及び干拓地周辺のヨシ原であると推定されるが、<u>干拓地内のヨシ原のほとんどは、生育密度が低く(約 80 本/m<sup>2</sup>未満)、オオヨシキリが営巣可能と考えられるヨシ原はほとんど見られなかった。以上のことから、干拓地内のオオヨシキリの生息個体数は比較的少ないと考えられる。</u></p> <p><b>7 直接改変</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息地として適さなくなる。事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在するが、<u>本種は干拓地内における生息個体数が比較的少ないと考えられ、事業実施による個体群のさらなる矮小化が懸念される。</u></p> <p><b>4 直接改変以外</b>                      事業実施区域外の本種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の区域であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>り まとめ</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小し、<u>個体群のさらなる矮小化が懸念される。</u>  <u>直接改変以外による影響は、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから影響をうける範囲は事業実施区域に隣接する一部の区域であると予測され、影響は小さいと考えられる。</u></p>
準備書	<p><b>g オオヨシキリ</b>                      調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8.6.2-5 に示した。                      本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は事業実施区域を含む干拓地内及びその周辺のヨシ原であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息地として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在することから、事業の実施に伴う直接改変の影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>4 直接改変以外</b>                      事業実施区域外の本種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の範囲であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>り まとめ</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小するが、対象事業の実施が生息に与える影響は小さいと考えられる。また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、対象事業の実施後も本種の生息は維持されると考えられる。</p>					
評価書 (p.328)	<p><b>h オオヨシキリ</b>                      平成 14 年度から平成 15 年度までの調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8.6.2-6 に示した。                      本種の生息環境及び確認状況から、本種の主な生息地は事業実施区域を含む干拓地内に点在するヨシ原及び干拓地周辺のヨシ原であると推定されるが、<u>干拓地内のヨシ原のほとんどは、生育密度が低く(約 80 本/m<sup>2</sup>未満)、オオヨシキリが営巣可能と考えられるヨシ原はほとんど見られなかった。以上のことから、干拓地内のオオヨシキリの生息個体数は比較的少ないと考えられる。</u></p> <p><b>7 直接改変</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息地として適さなくなる。事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外にも本種の生息地は存在するが、<u>本種は干拓地内における生息個体数が比較的少ないと考えられ、事業実施による個体群のさらなる矮小化が懸念される。</u></p> <p><b>4 直接改変以外</b>                      事業実施区域外の本種の生息地は、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の区域であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>り まとめ</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小し、<u>個体群のさらなる矮小化が懸念される。</u>  <u>直接改変以外による影響は、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから影響をうける範囲は事業実施区域に隣接する一部の区域であると予測され、影響は小さいと考えられる。</u></p>					

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (53)

頁	区 分	変更の概要及び理由				
303	改 訂	<p>確認状況を修正したことにより、以下のとおり文章を改訂した。</p> <p>準備書 p.303 「6.2.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用(5)予測結果」の文章を改訂（下線：改訂）</p> <table border="1" data-bbox="400 275 1386 1585"> <tr> <td data-bbox="400 342 528 913">準備書</td> <td data-bbox="528 342 1386 913"> <p><b>i コオイムシ</b>                      調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8.6.2-6 に示した。                      調査の結果、干拓地における本種の生息地は、局所的であり、成虫が確認された干拓地の水路 6 地点及び小さな水溜り 1 地点の計 6 箇所であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息環境として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外に生息環境が維持されることから、個体数は減少するが本種の生息は維持されると考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b>                      主に事業実施区域外の水路に生息するこれらの種の生息環境は、事業の実施による水の濁りと、その結果生じる底質の変化による影響を受けることが懸念される。しかし、適切な沈砂池の配置及び維持管理により、降雨時においても現況と同程度の水質で放流することから影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>ウ まとめ</b>                      本種は事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小し個体数が減少するが、事業の実施が生息に与える影響は小さいと考えられる。また、直接改変以外の水の濁り等による本種の生息環境の変化は小さいと考えられる。したがって、事業の実施が本種の生息に与える影響は小さいと考えられる。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="400 913 528 1585">評価書 (p.331)</td> <td data-bbox="528 913 1386 1585"> <p><b>j コオイムシ</b>                      平成 14 年度から平成 15 年度までの調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8.6.2-7 に示した。                      調査の結果、干拓地における本種の生息地は、局所的であり、<u>成虫が確認された事業実施区域内の水溜り及び事業実施区域外の水路であると推定される。</u></p> <p><b>7 直接改変</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息環境として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外に<u>本種の生息地が存在することから</u>、個体数は減少するが本種の生息は維持されると考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b>                      主に事業実施区域外の水路に生息する本種の生息環境は、事業の実施による水の濁りと、その結果生じる底質の変化による影響を受けることが懸念される。しかし、適切な沈砂池の配置及び維持管理により、<u>水質に及ぼす影響は低減できることから</u>、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>ウ まとめ</b>                      本種は事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小し個体数が減少するが、<u>事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外に生息環境が維持されることから</u>、事業の実施が本種の生息に与える影響は小さいと考えられる。また、直接改変以外の水の濁り等による本種の生息環境の変化は小さいと考えられる。したがって、事業の実施が本種の生息に与える影響は小さいと考えられる。</p> </td> </tr> </table>	準備書	<p><b>i コオイムシ</b>                      調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8.6.2-6 に示した。                      調査の結果、干拓地における本種の生息地は、局所的であり、成虫が確認された干拓地の水路 6 地点及び小さな水溜り 1 地点の計 6 箇所であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息環境として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外に生息環境が維持されることから、個体数は減少するが本種の生息は維持されると考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b>                      主に事業実施区域外の水路に生息するこれらの種の生息環境は、事業の実施による水の濁りと、その結果生じる底質の変化による影響を受けることが懸念される。しかし、適切な沈砂池の配置及び維持管理により、降雨時においても現況と同程度の水質で放流することから影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>ウ まとめ</b>                      本種は事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小し個体数が減少するが、事業の実施が生息に与える影響は小さいと考えられる。また、直接改変以外の水の濁り等による本種の生息環境の変化は小さいと考えられる。したがって、事業の実施が本種の生息に与える影響は小さいと考えられる。</p>	評価書 (p.331)	<p><b>j コオイムシ</b>                      平成 14 年度から平成 15 年度までの調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8.6.2-7 に示した。                      調査の結果、干拓地における本種の生息地は、局所的であり、<u>成虫が確認された事業実施区域内の水溜り及び事業実施区域外の水路であると推定される。</u></p> <p><b>7 直接改変</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息環境として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外に<u>本種の生息地が存在することから</u>、個体数は減少するが本種の生息は維持されると考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b>                      主に事業実施区域外の水路に生息する本種の生息環境は、事業の実施による水の濁りと、その結果生じる底質の変化による影響を受けることが懸念される。しかし、適切な沈砂池の配置及び維持管理により、<u>水質に及ぼす影響は低減できることから</u>、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>ウ まとめ</b>                      本種は事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小し個体数が減少するが、<u>事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外に生息環境が維持されることから</u>、事業の実施が本種の生息に与える影響は小さいと考えられる。また、直接改変以外の水の濁り等による本種の生息環境の変化は小さいと考えられる。したがって、事業の実施が本種の生息に与える影響は小さいと考えられる。</p>
準備書	<p><b>i コオイムシ</b>                      調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8.6.2-6 に示した。                      調査の結果、干拓地における本種の生息地は、局所的であり、成虫が確認された干拓地の水路 6 地点及び小さな水溜り 1 地点の計 6 箇所であると推定される。</p> <p><b>7 直接改変</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息環境として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外に生息環境が維持されることから、個体数は減少するが本種の生息は維持されると考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b>                      主に事業実施区域外の水路に生息するこれらの種の生息環境は、事業の実施による水の濁りと、その結果生じる底質の変化による影響を受けることが懸念される。しかし、適切な沈砂池の配置及び維持管理により、降雨時においても現況と同程度の水質で放流することから影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>ウ まとめ</b>                      本種は事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小し個体数が減少するが、事業の実施が生息に与える影響は小さいと考えられる。また、直接改変以外の水の濁り等による本種の生息環境の変化は小さいと考えられる。したがって、事業の実施が本種の生息に与える影響は小さいと考えられる。</p>					
評価書 (p.331)	<p><b>j コオイムシ</b>                      平成 14 年度から平成 15 年度までの調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を図 8.6.2-7 に示した。                      調査の結果、干拓地における本種の生息地は、局所的であり、<u>成虫が確認された事業実施区域内の水溜り及び事業実施区域外の水路であると推定される。</u></p> <p><b>7 直接改変</b>                      事業の実施に伴う地形の改変により、事業実施区域は本種の生息環境として適さなくなる。しかし、事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外に<u>本種の生息地が存在することから</u>、個体数は減少するが本種の生息は維持されると考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b>                      主に事業実施区域外の水路に生息する本種の生息環境は、事業の実施による水の濁りと、その結果生じる底質の変化による影響を受けることが懸念される。しかし、適切な沈砂池の配置及び維持管理により、<u>水質に及ぼす影響は低減できることから</u>、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>ウ まとめ</b>                      本種は事業の実施に伴う地形の改変により、生息地が縮小し個体数が減少するが、<u>事業実施区域内の直接改変を受けない場所及び事業実施区域外に生息環境が維持されることから</u>、事業の実施が本種の生息に与える影響は小さいと考えられる。また、直接改変以外の水の濁り等による本種の生息環境の変化は小さいと考えられる。したがって、事業の実施が本種の生息に与える影響は小さいと考えられる。</p>					

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (54)

頁	区 分	変更の概要及び理由
-	追 記	<p>陸生動物に関し、ハイロチュウヒのねぐらを予測対象とする注目すべき生息地として追加したため、これについて予測を行い、以下のとおり文章を追記した。</p> <p>「6.2.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用(5) 予測結果」に文章を追記(評価書 p.334)</p> <p><b>3) 注目すべき生息地</b>  <b>a ハイロチュウヒ</b>            平成 14 年度から平成 15 年度までの調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を表 8.6.2-3 に示した。            調査の結果、本種は主に干拓地の南側の草地をねぐらとしていた。確認されたねぐらは合計 45 箇所、事業実施区域内において 3 箇所、事業実施区域外において 42 箇所が確認された。</p> <p><b>7 直接改変</b>            事業の実施に伴う地形の改変により、確認された 45 箇所のねぐらのうち 3 箇所は、本種のねぐらとして適さなくなる。しかし、本種のねぐらは主に事業実施区域外に分布していることから、事業の実施に伴う直接改変の影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b>            事業実施区域外の本種のねぐらは、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の区域であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>ウ まとめ</b>            本種のねぐらは事業の実施に伴う地形の改変により、ねぐらとして利用している環境が縮小するが、本種のねぐらは主に事業実施区域外に分布していることから、事業の実施が本種のねぐらに与える影響は小さいと考えられる。また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、事業の実施後も本種のねぐらは維持されると考えられる。            なお、種の保全の観点からねぐらの正確な確認位置は示していない。</p>
-	追 記	<p>陸生動物に関し、チュウヒのねぐらを予測対象とする注目すべき生息地として追加したため、これについて予測を行い、以下の文章を追記した。</p> <p>「6.2.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用(5) 予測結果」に文章を追記(評価書 p.334~335)</p> <p><b>b チュウヒ</b>            平成 14 年度から平成 15 年度までの調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を表 8.6.2-3 に示した。            調査の結果、本種は主に干拓地の南側の草地をねぐらとしていた。確認されたねぐらは合計 75 箇所、事業実施区域内において 8 箇所、事業実施区域外において 67 箇所が確認された。</p> <p><b>7 直接改変</b>            事業の実施に伴う地形の改変により、確認された 75 箇所のねぐらのうち 8 箇所は、本種のねぐらとして適さなくなる。しかし、本種のねぐらは主に事業実施区域外に分布していることから、事業の実施に伴う直接改変の影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b>            事業実施区域外の本種のねぐらは、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の区域であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>ウ まとめ</b>            本種のねぐらは事業の実施に伴う地形の改変により、ねぐらとして利用している環境が縮小するが、本種のねぐらは主に事業実施区域外に分布していることから、事業の実施が本種のねぐらに与える影響は小さいと考えられる。また、直接改変以外による影響は小さいと予測されるため、事業の実施後も本種のねぐらは維持されると考えられる。            なお、種の保全の観点からねぐらの正確な確認位置は示していない。</p>

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (55)

頁	区分	変更の概要及び理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
-	追記	<p>陸生動物に関し、コチョウゲンボウのねぐらを予測対象とする注目すべき生息地として追加したため、これについて予測を行い、以下の文章を追記した。</p> <p>「6.2.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用(5) 予測結果」に文章を追記 (評価書 p. 335)</p> <p><b>c コチョウゲンボウ</b></p> <p>平成 14 年度から平成 15 年度までの調査結果と事業計画との重ね合わせ結果を表 8.6.2-3 に示した。</p> <p>調査の結果、本種は主に干拓地の北側の電柱等をねぐらとしていた。確認されたねぐらは合計 34 箇所、事業実施区域内において 29 箇所、事業実施区域外において 5 箇所が確認された。</p> <p><b>ア 直接改変</b></p> <p>事業の実施に伴う地形の改変により、確認された 34 箇所のねぐらのうち 29 箇所は、本種のねぐらとして適さなくなる。</p> <p><b>イ 直接改変以外</b></p> <p>事業実施区域外の本種のねぐらは、事業の実施による事業区域への人や車両の立ち入りによる騒音等の影響が懸念される。しかし、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の区域であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p><b>ウ まとめ</b></p> <p>本種のねぐらは事業の実施に伴う地形の改変による影響を受け、ねぐらとして利用している環境の多くが消失する。</p> <p>直接改変以外による影響は、大きな騒音を発生するような工事や施設の建設はないことから、影響を受ける範囲は事業実施区域に隣接する一部の区域であると予測され、影響は小さいと考えられる。</p> <p>なお、種の保全の観点からねぐらの正確な確認位置は示していない。</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
-	追記	<p>陸生動物に関し、ハイロチュウヒ、チュウヒ及びコチョウゲンボウのねぐらを予測対象とする注目すべき生息地として追加したため、これらについて事業計画との重ね合わせを新たに行い、以下の表を追記した。</p> <p>「6.2.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用(5) 予測結果」に表を追記 (評価書 p. 336)</p> <p>表 8.6.2-3 注目すべき生息地(ハイロチュウヒ、チュウヒ、コチョウゲンボウのねぐら)と事業計画の重ね合わせ結果</p> <table border="1" data-bbox="422 1153 1364 1422"> <thead> <tr> <th rowspan="2">月</th> <th rowspan="2">場所</th> <th colspan="4">平成14年1月</th> <th colspan="4">平成14年2月</th> <th colspan="4">平成14年3月</th> <th colspan="4">平成14年4月</th> <th colspan="4">平成14年5月</th> <th colspan="4">平成14年6月</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>北</th><th>中</th><th>南</th><th>改変区域外</th> <th>北</th><th>中</th><th>南</th><th>改変区域外</th> <th>北</th><th>中</th><th>南</th><th>改変区域外</th> <th>北</th><th>中</th><th>南</th><th>改変区域外</th> <th>北</th><th>中</th><th>南</th><th>改変区域外</th> <th>北</th><th>中</th><th>南</th><th>改変区域外</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ハイロチュウヒ</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>チュウヒ</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>コチョウゲンボウ</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ハイロチュウヒ</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>チュウヒ</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>コチョウゲンボウ</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ハイロチュウヒ</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>チュウヒ</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>コチョウゲンボウ</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ハイロチュウヒ</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>チュウヒ</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>コチョウゲンボウ</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ハイロチュウヒ</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>チュウヒ</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>コチョウゲンボウ</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ハイロチュウヒ</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>チュウヒ</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>コチョウゲンボウ</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 1. 北：伊勢湾岸自動車道より北側の事業実施区域          中：伊勢湾岸自動車道と中央水路で挟まれた区域          改変区域：事業実施区域のうち、改変される区域          改変区域外：事業実施区域のうち、改変されない区域          南：中央水路より南側の区域          2. グラフの横の数字は確認個体数を示す。          3. 本表は種の保全の観点から、ねぐらの正確な確認位置は示していない。</p>	月	場所	平成14年1月				平成14年2月				平成14年3月				平成14年4月				平成14年5月				平成14年6月				合計	北	中	南	改変区域外	北	中	南	改変区域外	北	中	南	改変区域外	北	中	南	改変区域外	北	中	南	改変区域外	北	中	南	改変区域外	1	ハイロチュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	チュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	コチョウゲンボウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	ハイロチュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	チュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	コチョウゲンボウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	ハイロチュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	チュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	コチョウゲンボウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	ハイロチュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	チュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	コチョウゲンボウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	ハイロチュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	チュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	コチョウゲンボウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	ハイロチュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	チュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	コチョウゲンボウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月	場所	平成14年1月				平成14年2月				平成14年3月				平成14年4月				平成14年5月				平成14年6月				合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
		北	中	南	改変区域外	北	中	南	改変区域外	北	中	南	改変区域外	北	中	南	改変区域外	北	中	南	改変区域外	北	中	南	改変区域外																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
1	ハイロチュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
1	チュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
1	コチョウゲンボウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
2	ハイロチュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
2	チュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
2	コチョウゲンボウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
3	ハイロチュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
3	チュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
3	コチョウゲンボウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
4	ハイロチュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
4	チュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
4	コチョウゲンボウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
5	ハイロチュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
5	チュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
5	コチョウゲンボウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
6	ハイロチュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
6	チュウヒ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
6	コチョウゲンボウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (56)

頁	区 分	変更の概要及び理由				
306	改 訂	<p>影響があると予測された重要な種及び注目すべき生息地が追加されたため、これらについても環境保全措置の検討を行うこととし、以下のとおり文章を改訂した。</p> <p>準備書 p. 306 「6. 3. 1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用(1)環境保全措置」の文章を改訂 (下線：改訂)</p> <table border="1" data-bbox="400 309 1380 853"> <tr> <td data-bbox="400 376 528 562">準備書</td> <td data-bbox="528 376 1380 562"> <p>1) 環境保全措置の検討</p> <p>予測結果から、鳥類の重要な種のうち、チュウヒについて環境保全措置の検討を行うこととした。</p> <p>改変によりチュウヒが営巣地及び餌場として利用している環境の一部が消失し、工事の実施中はチュウヒの繁殖活動に影響が及ぶおそれがある。このため、これらの影響に対する環境保全措置について検討を行った。検討結果を表 8. 6. 3-1 に示した。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="400 562 528 853">評価書 (p. 337)</td> <td data-bbox="528 562 1380 853"> <p>1) 環境保全措置の検討</p> <p>予測結果から、<u>カヤネズミについては、生息環境が狭小化しつつあり、狭小化の進行が加速されることが懸念された。</u>チュウヒについては、<u>営巣地及び主要な採餌場として利用している環境の一部が消失し、繁殖活動に影響が及ぶおそれがあると考えられた。</u>オオヨシキリについては、<u>個体数が少なく、すでに個体群が矮小化している。そのため、さらなる個体群の矮小化が懸念された。</u>コチョウゲンボウのねぐらについては、<u>利用している環境の多くが消失すると考えられた。</u></p> <p>このため、これらの影響に対する環境保全措置について検討を行った。検討結果を表 8. 6. 3-1(1)～(2)に示した。</p> </td> </tr> </table>	準備書	<p>1) 環境保全措置の検討</p> <p>予測結果から、鳥類の重要な種のうち、チュウヒについて環境保全措置の検討を行うこととした。</p> <p>改変によりチュウヒが営巣地及び餌場として利用している環境の一部が消失し、工事の実施中はチュウヒの繁殖活動に影響が及ぶおそれがある。このため、これらの影響に対する環境保全措置について検討を行った。検討結果を表 8. 6. 3-1 に示した。</p>	評価書 (p. 337)	<p>1) 環境保全措置の検討</p> <p>予測結果から、<u>カヤネズミについては、生息環境が狭小化しつつあり、狭小化の進行が加速されることが懸念された。</u>チュウヒについては、<u>営巣地及び主要な採餌場として利用している環境の一部が消失し、繁殖活動に影響が及ぶおそれがあると考えられた。</u>オオヨシキリについては、<u>個体数が少なく、すでに個体群が矮小化している。そのため、さらなる個体群の矮小化が懸念された。</u>コチョウゲンボウのねぐらについては、<u>利用している環境の多くが消失すると考えられた。</u></p> <p>このため、これらの影響に対する環境保全措置について検討を行った。検討結果を表 8. 6. 3-1(1)～(2)に示した。</p>
準備書	<p>1) 環境保全措置の検討</p> <p>予測結果から、鳥類の重要な種のうち、チュウヒについて環境保全措置の検討を行うこととした。</p> <p>改変によりチュウヒが営巣地及び餌場として利用している環境の一部が消失し、工事の実施中はチュウヒの繁殖活動に影響が及ぶおそれがある。このため、これらの影響に対する環境保全措置について検討を行った。検討結果を表 8. 6. 3-1 に示した。</p>					
評価書 (p. 337)	<p>1) 環境保全措置の検討</p> <p>予測結果から、<u>カヤネズミについては、生息環境が狭小化しつつあり、狭小化の進行が加速されることが懸念された。</u>チュウヒについては、<u>営巣地及び主要な採餌場として利用している環境の一部が消失し、繁殖活動に影響が及ぶおそれがあると考えられた。</u>オオヨシキリについては、<u>個体数が少なく、すでに個体群が矮小化している。そのため、さらなる個体群の矮小化が懸念された。</u>コチョウゲンボウのねぐらについては、<u>利用している環境の多くが消失すると考えられた。</u></p> <p>このため、これらの影響に対する環境保全措置について検討を行った。検討結果を表 8. 6. 3-1(1)～(2)に示した。</p>					

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (57)

頁	区 分	変更の概要及び理由																																																																												
306	改 訂	<p>影響があると予測された重要な種が追加されたため、これらについても環境保全措置の検討を行うこととし、以下のとおり表を改訂した。</p> <p>準備書 p.306 「6.3.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用 (1) 環境保全措置」の表を改訂 (下線: 改訂)</p> <p>準備書</p> <p style="text-align: center;"><b>表 8.6.3-1 環境保全措置の検討結果</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>種別*1</th> <th>区分</th> <th>影響の種類</th> <th>環境保全措置</th> <th>環境保全措置の効果</th> <th>実施に伴い生ずるおそれのある他の環境への影響</th> <th>実行性*2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">予測段階</td> <td>回避・低減</td> <td>生息地の消失、改変</td> <td>施設内容の見直し・変更</td> <td>営巣地及び餌場として利用されている環境を保全できる</td> <td>他の環境への影響はない</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>代償</td> <td>生息地の消失、改変</td> <td>保全区の整備</td> <td>営巣地及び餌場として利用されている環境を代償できる</td> <td>他の環境への影響はない</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>低減</td> <td>生息地の消失、改変</td> <td>チュウビの行動を観察しながらの工事の実施</td> <td>繁殖活動等への影響を低減できる</td> <td>他の環境への影響はない</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低減</td> <td>生息環境の変化</td> <td>工事工程等の配慮</td> <td>繁殖活動等への影響を低減できる</td> <td>騒音、振動、大気質等への影響が緩和される</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>低減</td> <td>生息環境の変化</td> <td>工事関係者の事業区域外への立入り制限</td> <td>繁殖活動等への影響を低減できる</td> <td>他の環境への影響はない</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1) 種別 予測段階: 当該項目において、予測の結果、検討を行った保全措置</p> <p>*2) 実行性 ○: 本事業で実施可能なもの ×: 本事業での実施が困難なもの</p> <p>評価書 (p.337)</p> <p style="text-align: center;"><b>表 8.6.3-1(1) 環境保全措置の検討結果(カヤネズミ、チュウビ、オオヨシキリ)</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>種別*1</th> <th>区分</th> <th>影響の種類</th> <th>環境保全措置</th> <th>環境保全措置の効果</th> <th>実施に伴い生ずるおそれのある他の環境への影響</th> <th>実行可能性*2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">予測段階</td> <td>回避・低減</td> <td>生息地の消失、改変</td> <td>施設内容の見直し・変更</td> <td>チュウビの営巣地及び主要な採餌場として利用されている環境、カヤネズミ、オオヨシキリの生息地を保全できる。</td> <td>他の環境への影響はない</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>代償</td> <td>生息地の消失、改変</td> <td>保全区の整備(現在の乾性草原にヨシ原を主体とし、併せてカヤネズミ、オオヨシキリについても、改変により消失する生息地を整備する)。</td> <td>チュウビの営巣地及び主要な採餌場として利用されている環境を代償できる。また、主に乾性草原に生息する生物の生息環境が減少する。</td> <td>他の環境への影響はない</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>低減</td> <td>生息地の消失、改変</td> <td>チュウビの行動を適宜観察しながらの工事の実施</td> <td>チュウビの繁殖活動等への影響を低減できる</td> <td>他の環境への影響はない</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>低減</td> <td>生息環境の変化</td> <td>チュウビの繁殖活動に配慮した工事工程の採用</td> <td>チュウビの繁殖活動等への影響を低減できる</td> <td>騒音、振動、大気質等への影響が緩和される</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>低減</td> <td>生息環境の変化</td> <td>工事関係者等の事業区域外への立入り制限</td> <td>カヤネズミ、チュウビ、オオヨシキリの繁殖活動等への影響を低減できる</td> <td>他の環境への影響はない</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1) 種別 予測段階: 当該項目において、予測の結果、検討を行った保全措置</p> <p>*2) 実行可能性 ○: 本事業で実施可能なもの ×: 本事業での実施が困難なもの</p>	種別*1	区分	影響の種類	環境保全措置	環境保全措置の効果	実施に伴い生ずるおそれのある他の環境への影響	実行性*2	予測段階	回避・低減	生息地の消失、改変	施設内容の見直し・変更	営巣地及び餌場として利用されている環境を保全できる	他の環境への影響はない	×	代償	生息地の消失、改変	保全区の整備	営巣地及び餌場として利用されている環境を代償できる	他の環境への影響はない	○	低減	生息地の消失、改変	チュウビの行動を観察しながらの工事の実施	繁殖活動等への影響を低減できる	他の環境への影響はない	×	低減	生息環境の変化	工事工程等の配慮	繁殖活動等への影響を低減できる	騒音、振動、大気質等への影響が緩和される	○	低減	生息環境の変化	工事関係者の事業区域外への立入り制限	繁殖活動等への影響を低減できる	他の環境への影響はない	○	種別*1	区分	影響の種類	環境保全措置	環境保全措置の効果	実施に伴い生ずるおそれのある他の環境への影響	実行可能性*2	予測段階	回避・低減	生息地の消失、改変	施設内容の見直し・変更	チュウビの営巣地及び主要な採餌場として利用されている環境、カヤネズミ、オオヨシキリの生息地を保全できる。	他の環境への影響はない	×	代償	生息地の消失、改変	保全区の整備(現在の乾性草原にヨシ原を主体とし、併せてカヤネズミ、オオヨシキリについても、改変により消失する生息地を整備する)。	チュウビの営巣地及び主要な採餌場として利用されている環境を代償できる。また、主に乾性草原に生息する生物の生息環境が減少する。	他の環境への影響はない	○	低減	生息地の消失、改変	チュウビの行動を適宜観察しながらの工事の実施	チュウビの繁殖活動等への影響を低減できる	他の環境への影響はない	○	低減	生息環境の変化	チュウビの繁殖活動に配慮した工事工程の採用	チュウビの繁殖活動等への影響を低減できる	騒音、振動、大気質等への影響が緩和される	○	低減	生息環境の変化	工事関係者等の事業区域外への立入り制限	カヤネズミ、チュウビ、オオヨシキリの繁殖活動等への影響を低減できる	他の環境への影響はない	○
種別*1	区分	影響の種類	環境保全措置	環境保全措置の効果	実施に伴い生ずるおそれのある他の環境への影響	実行性*2																																																																								
予測段階	回避・低減	生息地の消失、改変	施設内容の見直し・変更	営巣地及び餌場として利用されている環境を保全できる	他の環境への影響はない	×																																																																								
	代償	生息地の消失、改変	保全区の整備	営巣地及び餌場として利用されている環境を代償できる	他の環境への影響はない	○																																																																								
	低減	生息地の消失、改変	チュウビの行動を観察しながらの工事の実施	繁殖活動等への影響を低減できる	他の環境への影響はない	×																																																																								
	低減	生息環境の変化	工事工程等の配慮	繁殖活動等への影響を低減できる	騒音、振動、大気質等への影響が緩和される	○																																																																								
	低減	生息環境の変化	工事関係者の事業区域外への立入り制限	繁殖活動等への影響を低減できる	他の環境への影響はない	○																																																																								
種別*1	区分	影響の種類	環境保全措置	環境保全措置の効果	実施に伴い生ずるおそれのある他の環境への影響	実行可能性*2																																																																								
予測段階	回避・低減	生息地の消失、改変	施設内容の見直し・変更	チュウビの営巣地及び主要な採餌場として利用されている環境、カヤネズミ、オオヨシキリの生息地を保全できる。	他の環境への影響はない	×																																																																								
	代償	生息地の消失、改変	保全区の整備(現在の乾性草原にヨシ原を主体とし、併せてカヤネズミ、オオヨシキリについても、改変により消失する生息地を整備する)。	チュウビの営巣地及び主要な採餌場として利用されている環境を代償できる。また、主に乾性草原に生息する生物の生息環境が減少する。	他の環境への影響はない	○																																																																								
	低減	生息地の消失、改変	チュウビの行動を適宜観察しながらの工事の実施	チュウビの繁殖活動等への影響を低減できる	他の環境への影響はない	○																																																																								
	低減	生息環境の変化	チュウビの繁殖活動に配慮した工事工程の採用	チュウビの繁殖活動等への影響を低減できる	騒音、振動、大気質等への影響が緩和される	○																																																																								
	低減	生息環境の変化	工事関係者等の事業区域外への立入り制限	カヤネズミ、チュウビ、オオヨシキリの繁殖活動等への影響を低減できる	他の環境への影響はない	○																																																																								
-	追 記	<p>影響があると予測された注目すべき生息地が追加されたため、これについても環境保全措置の検討を行い、以下のとおり表を追記した。</p> <p>「6.3.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用 (1) 環境保全措置」に表を追記 (評価書 p.338)</p> <p style="text-align: center;"><b>表 8.6.3-1(2) 環境保全措置の検討結果(コチョウゲンボウのねぐら)</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>種別*1</th> <th>区分</th> <th>影響の種類</th> <th>環境保全措置</th> <th>環境保全措置の効果</th> <th>実施に伴い生ずるおそれのある他の環境への影響</th> <th>実行可能性*2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">予測段階</td> <td>回避・低減</td> <td>ねぐらの消失、改変</td> <td>施設内容の見直し・変更</td> <td>ねぐらとして利用している環境を保全できる</td> <td>他の環境への影響はない</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>代償</td> <td>ねぐらの消失、改変</td> <td>保全区の整備(代替のねぐらとなる木の植樹)</td> <td>ねぐらとして利用している環境を代償できる</td> <td>他の環境への影響はない</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>低減</td> <td>生息環境の変化</td> <td>工事関係者等の事業区域外への立入り制限</td> <td>ねぐら等への影響を低減できる</td> <td>他の環境への影響はない</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1) 種別 予測段階: 当該項目において、予測の結果、検討を行った保全措置</p> <p>*2) 実行可能性 ○: 本事業で実施可能なもの ×: 本事業での実施が困難なもの</p>	種別*1	区分	影響の種類	環境保全措置	環境保全措置の効果	実施に伴い生ずるおそれのある他の環境への影響	実行可能性*2	予測段階	回避・低減	ねぐらの消失、改変	施設内容の見直し・変更	ねぐらとして利用している環境を保全できる	他の環境への影響はない	×	代償	ねぐらの消失、改変	保全区の整備(代替のねぐらとなる木の植樹)	ねぐらとして利用している環境を代償できる	他の環境への影響はない	○	低減	生息環境の変化	工事関係者等の事業区域外への立入り制限	ねぐら等への影響を低減できる	他の環境への影響はない	○																																																		
種別*1	区分	影響の種類	環境保全措置	環境保全措置の効果	実施に伴い生ずるおそれのある他の環境への影響	実行可能性*2																																																																								
予測段階	回避・低減	ねぐらの消失、改変	施設内容の見直し・変更	ねぐらとして利用している環境を保全できる	他の環境への影響はない	×																																																																								
	代償	ねぐらの消失、改変	保全区の整備(代替のねぐらとなる木の植樹)	ねぐらとして利用している環境を代償できる	他の環境への影響はない	○																																																																								
	低減	生息環境の変化	工事関係者等の事業区域外への立入り制限	ねぐら等への影響を低減できる	他の環境への影響はない	○																																																																								

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (58)

頁	区 分	変更の概要及び理由																							
307	改 訂	<p>影響があると予測された重要な種が追加されたため、これらについても環境保全措置の検討を行うこととし、以下のとおり表を改訂した。</p> <p>準備書 p.307 「6.3.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用(1)環境保全措置」の表を改訂(下線:改訂、取消線:削除)</p> <p>準備書</p> <p style="text-align: center;">表 8.6.3-2 環境保全措置の検討結果の検証</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3" style="text-align: center;">検 討 内 容</th> <th rowspan="2" style="text-align: center;">検 討 結 果 の 経 緯 等</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">種別*1</th> <th style="text-align: center;">区分</th> <th style="text-align: center;">環境保全措置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5" style="text-align: center; vertical-align: middle;">予測 段階</td> <td style="text-align: center;">回避</td> <td style="text-align: center;">施設内容の見直し・変更</td> <td>                     変更場所を変更して営業地を保全する案についても検討したが、営業地の確認位置が変更区域の真ん中にあり、土地利用の関係上、変更区域の変更による回避は、困難であると判断した。                 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">代償</td> <td style="text-align: center;">保全区の整備</td> <td>                     施設内容の見直し・変更による保全が無理なため、干拓地内に保全区を設置し、チュウヒの営業地及び餌場としての機能を高める代償措置を実施することで、現在確認されている3つがいの営業を目指すものとし、日本におけるチュウヒの生息地として有名な河北潟の事例、アドバイザーの意見等を踏まえて、位置、面積等を検討した。                 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">低減</td> <td style="text-align: center;">工事工程等の配慮</td> <td>                     保全区として機能するまでの期間、事業実施区域内の営業地における繁殖活動に配慮するために、繁殖期は営業地から離れた箇所、非繁殖期に営業地の近傍を施工できるようチュウヒの生活サイクルにあわせ工事工程の調整を図ることとした。                 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">低減</td> <td style="text-align: center;">チュウヒの行動を観察しながらの工事の実施</td> <td>                     チュウヒの繁殖に対する影響を軽減するために、繁殖期に常時、専門の調査員により、チュウヒの工事に対する反応を観察し、危険な兆候がみられた場合は工事の中断を行う方法の検討を行ったが、工事中止の判断基準の設定や工事との円滑な連携は現実的に困難であり、併せて不規則な工事の中断は費用面からも問題があるため、工事工程の配慮による保全を図ることとした。                 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">低減</td> <td style="text-align: center;">工事関係者の事業区域外への立ち入り制限</td> <td>                     工事関係者が事業区域外へ立ち入ることにより、事業実施区域外の営業地にも影響を及ぼす可能性があるため、事業区域外への立ち入り制限により、営業地の保全を図ることとした。                 </td> </tr> </tbody> </table> <p>*1) 種別 予測段階: 当該項目において、予測の結果、検討を行った保全措置</p>	検 討 内 容			検 討 結 果 の 経 緯 等	種別*1	区分	環境保全措置	予測 段階	回避	施設内容の見直し・変更	変更場所を変更して営業地を保全する案についても検討したが、営業地の確認位置が変更区域の真ん中にあり、土地利用の関係上、変更区域の変更による回避は、困難であると判断した。	代償	保全区の整備	施設内容の見直し・変更による保全が無理なため、干拓地内に保全区を設置し、チュウヒの営業地及び餌場としての機能を高める代償措置を実施することで、現在確認されている3つがいの営業を目指すものとし、日本におけるチュウヒの生息地として有名な河北潟の事例、アドバイザーの意見等を踏まえて、位置、面積等を検討した。	低減	工事工程等の配慮	保全区として機能するまでの期間、事業実施区域内の営業地における繁殖活動に配慮するために、繁殖期は営業地から離れた箇所、非繁殖期に営業地の近傍を施工できるようチュウヒの生活サイクルにあわせ工事工程の調整を図ることとした。	低減	チュウヒの行動を観察しながらの工事の実施	チュウヒの繁殖に対する影響を軽減するために、繁殖期に常時、専門の調査員により、チュウヒの工事に対する反応を観察し、危険な兆候がみられた場合は工事の中断を行う方法の検討を行ったが、工事中止の判断基準の設定や工事との円滑な連携は現実的に困難であり、併せて不規則な工事の中断は費用面からも問題があるため、工事工程の配慮による保全を図ることとした。	低減	工事関係者の事業区域外への立ち入り制限	工事関係者が事業区域外へ立ち入ることにより、事業実施区域外の営業地にも影響を及ぼす可能性があるため、事業区域外への立ち入り制限により、営業地の保全を図ることとした。
検 討 内 容			検 討 結 果 の 経 緯 等																						
種別*1	区分	環境保全措置																							
予測 段階	回避	施設内容の見直し・変更	変更場所を変更して営業地を保全する案についても検討したが、営業地の確認位置が変更区域の真ん中にあり、土地利用の関係上、変更区域の変更による回避は、困難であると判断した。																						
	代償	保全区の整備	施設内容の見直し・変更による保全が無理なため、干拓地内に保全区を設置し、チュウヒの営業地及び餌場としての機能を高める代償措置を実施することで、現在確認されている3つがいの営業を目指すものとし、日本におけるチュウヒの生息地として有名な河北潟の事例、アドバイザーの意見等を踏まえて、位置、面積等を検討した。																						
	低減	工事工程等の配慮	保全区として機能するまでの期間、事業実施区域内の営業地における繁殖活動に配慮するために、繁殖期は営業地から離れた箇所、非繁殖期に営業地の近傍を施工できるようチュウヒの生活サイクルにあわせ工事工程の調整を図ることとした。																						
	低減	チュウヒの行動を観察しながらの工事の実施	チュウヒの繁殖に対する影響を軽減するために、繁殖期に常時、専門の調査員により、チュウヒの工事に対する反応を観察し、危険な兆候がみられた場合は工事の中断を行う方法の検討を行ったが、工事中止の判断基準の設定や工事との円滑な連携は現実的に困難であり、併せて不規則な工事の中断は費用面からも問題があるため、工事工程の配慮による保全を図ることとした。																						
	低減	工事関係者の事業区域外への立ち入り制限	工事関係者が事業区域外へ立ち入ることにより、事業実施区域外の営業地にも影響を及ぼす可能性があるため、事業区域外への立ち入り制限により、営業地の保全を図ることとした。																						
	評価書 (p.339)	<p style="text-align: center;">表 8.6.3-2(1) 環境保全措置の検討結果の検証(カヤネズミ、チュウヒ、オオヨシキリ)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="3" style="text-align: center;">検 討 内 容</th> <th rowspan="2" style="text-align: center;">検 討 結 果 の 経 緯 等*</th></tr></thead></table>	検 討 内 容			検 討 結 果 の 経 緯 等*																			
検 討 内 容			検 討 結 果 の 経 緯 等*																						
種別*1	区分	環境保全措置																							
予測 段階	回避・ 低減	施設内容の見直し・変更	変更場所を変更してカヤネズミ、オオヨシキリの生息地及びチュウヒの営業地を保全する案についても検討したが、これらの確認位置が変更区域の真ん中にあり、土地利用の関係上、変更区域の変更による回避は、困難であると判断した。																						
	代償	保全区の整備(現在の乾性は年度によって異なっていたため、3つがいの営業を目標とし草原にヨシ原を主体とした)、日本における他の繁殖地の事例、アドバイザーの意見等を踏まえて、位置、面積、整備内容等を検討した。	施設内容の見直し・変更による環境保全措置が困難なため、干拓地内に保全区を設置し、チュウヒの営業地及び主要な採餌場の機能を高める措置を実施することで、現在確認されている3つがいの営業を目指すものとし、(繁殖に成功したつがいの数を踏まえて、位置、面積、整備内容等を検討した。 また、保全区の設定により、併せて典型性の注目種でもあるカヤネズミ、オオヨシキリについても生息地の機能向上を目指すことで、変更により消失する生息地の代償となりうると考えられることから実施することとした。																						
	低減	チュウヒの行動を適宜観察しながらの工事の実施	チュウヒの繁殖に対する影響を低減するために、繁殖期に適宜、専門の調査員により、チュウヒの工事に対する反応を観察しつつ工事を行うこととした。																						
	低減	チュウヒの繁殖活動に配慮した工事工程の採用	保全区として機能するまでの期間、事業実施区域内のチュウヒの営業地における繁殖活動に配慮するために、繁殖期は営業地から離れた箇所、非繁殖期に営業地の近傍を施工できるようチュウヒの生活サイクルにあわせ工事工程の調整を図ることとした。																						
	低減	工事関係者等の事業区域外への立ち入り制限	工事関係者等が事業区域外へ立ち入ることにより、事業実施区域外のカヤネズミ、オオヨシキリの生息地及びチュウヒの営業地にも影響を及ぼす可能性があるため、事業区域外への立ち入り制限により、営業地の保全を図ることとした。																						

\*1) 種別  
予測段階: 当該項目において、予測の結果、検討を行った保全措置

\*2) 検討結果の経緯等  
保全区の検討経緯や整備内容等については、後述する「保全区について」の項で詳細に記載した。

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (59)

頁	区 分	変更の概要及び理由															
-	追 記	<p>影響があると予測された注目すべき生息地が追加されたため、これについても環境保全措置の検討を行うこととし、以下のとおり表を追記した。</p> <p>「6.3.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用(1)環境保全措置」に表を追記 (評価書 p.340)</p> <p style="text-align: center;"><b>表 8.6.3-2(2) 環境保全措置の検討結果の検証(コチョウゲンボウのねぐら)</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">検 討 内 容</th> <th rowspan="2" style="text-align: center;">検討結果の経緯等</th> </tr> <tr> <th style="text-align: center;">種別*1</th> <th style="text-align: center;">区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center; vertical-align: middle;">予測 段階</td> <td style="text-align: center;">回避・ 低減</td> <td style="text-align: center;">施設内容の見直し・変更</td> <td>                     変更場所を変更してコチョウゲンボウのねぐらを保全する案についても検討したが、ねぐらの確認位置が変更区域の真ん中にあり、土地利用の関係上、変更区域の変更による回避は、困難であると判断した。                 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">代償</td> <td style="text-align: center;">保全区の整備(代替のねぐらとなる木の植樹)</td> <td>                     コチョウゲンボウについては、施設内容の見直し・変更による環境保全措置が困難なため、干拓地内に設置する保全区に代替のねぐらとなる木を植樹することで、主に干拓地の北側をねぐら利用しているコチョウゲンボウの新たなねぐら場所の創出を目指すものとし、アドバイザーの意見等を踏まえて、位置及び整備内容等を検討した。                 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">低減</td> <td style="text-align: center;">工事関係者等の事業区域外への立入り制限</td> <td>                     工事関係者等が事業区域外へ立ち入ることより、ねぐらにも影響を及ぼす可能性があるため、事業区域外への立ち入り制限により、ねぐらの保全を図ることとした。                 </td> </tr> </tbody> </table> <p>*1) 種別 予測段階：当該項目において、予測の結果、検討を行った保全措置</p>	検 討 内 容		検討結果の経緯等	種別*1	区分	予測 段階	回避・ 低減	施設内容の見直し・変更	変更場所を変更してコチョウゲンボウのねぐらを保全する案についても検討したが、ねぐらの確認位置が変更区域の真ん中にあり、土地利用の関係上、変更区域の変更による回避は、困難であると判断した。	代償	保全区の整備(代替のねぐらとなる木の植樹)	コチョウゲンボウについては、施設内容の見直し・変更による環境保全措置が困難なため、干拓地内に設置する保全区に代替のねぐらとなる木を植樹することで、主に干拓地の北側をねぐら利用しているコチョウゲンボウの新たなねぐら場所の創出を目指すものとし、アドバイザーの意見等を踏まえて、位置及び整備内容等を検討した。	低減	工事関係者等の事業区域外への立入り制限	工事関係者等が事業区域外へ立ち入ることより、ねぐらにも影響を及ぼす可能性があるため、事業区域外への立ち入り制限により、ねぐらの保全を図ることとした。
検 討 内 容		検討結果の経緯等															
種別*1	区分																
予測 段階	回避・ 低減	施設内容の見直し・変更	変更場所を変更してコチョウゲンボウのねぐらを保全する案についても検討したが、ねぐらの確認位置が変更区域の真ん中にあり、土地利用の関係上、変更区域の変更による回避は、困難であると判断した。														
	代償	保全区の整備(代替のねぐらとなる木の植樹)	コチョウゲンボウについては、施設内容の見直し・変更による環境保全措置が困難なため、干拓地内に設置する保全区に代替のねぐらとなる木を植樹することで、主に干拓地の北側をねぐら利用しているコチョウゲンボウの新たなねぐら場所の創出を目指すものとし、アドバイザーの意見等を踏まえて、位置及び整備内容等を検討した。														
	低減	工事関係者等の事業区域外への立入り制限	工事関係者等が事業区域外へ立ち入ることより、ねぐらにも影響を及ぼす可能性があるため、事業区域外への立ち入り制限により、ねぐらの保全を図ることとした。														



表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要(60)

頁	区分	変更の概要及び理由																																																												
308	改訂	<p>影響があると予測された重要な種が追加されたため、これらについても環境保全措置の検討を行うとともに、検討結果を再度整理し直し、以下のとおり表を改訂した。</p> <p>準備書 p.308 「6.3.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用(1)環境保全措置」の表を改訂(下線:改訂、取消線:削除)</p>																																																												
	準備書	<p style="text-align: center;">表 8.6.3-3 環境保全措置の検討結果の整理(チュウヒ)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>環境影響</th> <th colspan="3">変更により、営業地及び餌場として利用されている環境の一部が消失する。</th> </tr> <tr> <th>環境保全措置</th> <th>保全区の整備</th> <th>工事工程の配慮</th> <th>工事関係者の事業区域外への立入り制限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種別</td> <td>代償</td> <td>低減</td> <td>低減</td> </tr> <tr> <td>実施主体</td> <td>事業者</td> <td>事業者</td> <td>事業者</td> </tr> <tr> <td>実施方法</td> <td>干拓地の南側に保全区を整備し、営業地及び餌場としての機能を高める</td> <td>繁殖期に営業箇所周辺で工事をおこなわないように工事箇所の調整を行う</td> <td>工事関係者に周知、徹底を図る</td> </tr> <tr> <td>期間、範囲、条件等</td> <td>・工事の開始前～供用後 ・干拓地の南側約 50ha ・保全区の整備は不明な点が多いため専門家の指導・助言を得ながら実施する</td> <td>事業実施区域の営業地が改変されるまでの工事の実施中</td> <td>工事の実施中</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置を講じた後の環境の状況の変化</td> <td>ヨシ原を主体とした環境が創出される</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果</td> <td>チュウヒが営業地及び餌場として利用する環境が代償され、現在確認されている 3 つがいの営業が期待される。</td> <td>繁殖活動への影響を軽減できる</td> <td>繁殖活動への影響を軽減できる</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果の不確実性の程度</td> <td>効果に係る知見が少なく、保全措置の効果の程度が不明である</td> <td>効果の不確実性の程度は小さいと考える</td> <td>効果の不確実性の程度は小さいと考える</td> </tr> <tr> <td>他の環境要素等への影響</td> <td>特になし</td> <td>特になし</td> <td>特になし</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置実施の課題</td> <td>目的とした機能が整うまである程度の期間を要する</td> <td>特になし</td> <td>特になし</td> </tr> <tr> <td>環境影響の回避・低減の検証</td> <td colspan="3">環境保全措置の実施により、事業の実施により影響を受ける生息確認個体について、影響は低減されると考えられる。 このことから、事業者の実施可能な範囲内でチュウヒへの影響ができる限り低減されていると考える。</td> </tr> </tbody> </table>	環境影響	変更により、営業地及び餌場として利用されている環境の一部が消失する。			環境保全措置	保全区の整備	工事工程の配慮	工事関係者の事業区域外への立入り制限	種別	代償	低減	低減	実施主体	事業者	事業者	事業者	実施方法	干拓地の南側に保全区を整備し、営業地及び餌場としての機能を高める	繁殖期に営業箇所周辺で工事をおこなわないように工事箇所の調整を行う	工事関係者に周知、徹底を図る	期間、範囲、条件等	・工事の開始前～供用後 ・干拓地の南側約 50ha ・保全区の整備は不明な点が多いため専門家の指導・助言を得ながら実施する	事業実施区域の営業地が改変されるまでの工事の実施中	工事の実施中	環境保全措置を講じた後の環境の状況の変化	ヨシ原を主体とした環境が創出される	—	—	環境保全措置の効果	チュウヒが営業地及び餌場として利用する環境が代償され、現在確認されている 3 つがいの営業が期待される。	繁殖活動への影響を軽減できる	繁殖活動への影響を軽減できる	環境保全措置の効果の不確実性の程度	効果に係る知見が少なく、保全措置の効果の程度が不明である	効果の不確実性の程度は小さいと考える	効果の不確実性の程度は小さいと考える	他の環境要素等への影響	特になし	特になし	特になし	環境保全措置実施の課題	目的とした機能が整うまである程度の期間を要する	特になし	特になし	環境影響の回避・低減の検証	環境保全措置の実施により、事業の実施により影響を受ける生息確認個体について、影響は低減されると考えられる。 このことから、事業者の実施可能な範囲内でチュウヒへの影響ができる限り低減されていると考える。														
環境影響	変更により、営業地及び餌場として利用されている環境の一部が消失する。																																																													
環境保全措置	保全区の整備	工事工程の配慮	工事関係者の事業区域外への立入り制限																																																											
種別	代償	低減	低減																																																											
実施主体	事業者	事業者	事業者																																																											
実施方法	干拓地の南側に保全区を整備し、営業地及び餌場としての機能を高める	繁殖期に営業箇所周辺で工事をおこなわないように工事箇所の調整を行う	工事関係者に周知、徹底を図る																																																											
期間、範囲、条件等	・工事の開始前～供用後 ・干拓地の南側約 50ha ・保全区の整備は不明な点が多いため専門家の指導・助言を得ながら実施する	事業実施区域の営業地が改変されるまでの工事の実施中	工事の実施中																																																											
環境保全措置を講じた後の環境の状況の変化	ヨシ原を主体とした環境が創出される	—	—																																																											
環境保全措置の効果	チュウヒが営業地及び餌場として利用する環境が代償され、現在確認されている 3 つがいの営業が期待される。	繁殖活動への影響を軽減できる	繁殖活動への影響を軽減できる																																																											
環境保全措置の効果の不確実性の程度	効果に係る知見が少なく、保全措置の効果の程度が不明である	効果の不確実性の程度は小さいと考える	効果の不確実性の程度は小さいと考える																																																											
他の環境要素等への影響	特になし	特になし	特になし																																																											
環境保全措置実施の課題	目的とした機能が整うまである程度の期間を要する	特になし	特になし																																																											
環境影響の回避・低減の検証	環境保全措置の実施により、事業の実施により影響を受ける生息確認個体について、影響は低減されると考えられる。 このことから、事業者の実施可能な範囲内でチュウヒへの影響ができる限り低減されていると考える。																																																													
	評価書 (p.341)	<p style="text-align: center;">表 8.6.3-3(1) 環境保全措置の検討結果の整理(カヤネズミ、チュウヒ、オオヨシキリ)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>環境影響</th> <th colspan="4">変更により、カヤネズミ、オオヨシキリの生息地、チュウヒの営業地及び主要な採餌場として利用されている環境の一部が消失する。</th> </tr> <tr> <th>環境保全措置</th> <th>保全区の整備 (現在の乾性草原にヨシ原を主体とした水辺環境を整備する)</th> <th>チュウヒの行動を適宜調整しながらの工事の実施</th> <th>チュウヒの繁殖活動に配慮した工事工程の採用</th> <th>工事関係者等の事業区域外への立入り制限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種別</td> <td>代償</td> <td>低減</td> <td>低減</td> <td>低減</td> </tr> <tr> <td>実施主体</td> <td>事業者</td> <td>事業者</td> <td>事業者</td> <td>事業者</td> </tr> <tr> <td>実施方法</td> <td>干拓地の南端部に保全区を整備し、チュウヒの営業地及び主要な採餌場としての機能を高める また、併せてカヤネズミ、オオヨシキリの生息地の機能向上を目指す</td> <td>チュウヒの繁殖期に工事に対する反応を観察しつつ工事を実施する</td> <td>チュウヒの繁殖期に営業箇所周辺で工事を行わないように工事箇所の調整を行う</td> <td>工事関係者等に周知、徹底を図る</td> </tr> <tr> <td>期間、範囲、条件等</td> <td>・工事の開始前～供用後 ・干拓地の南端部約 50ha<sup>1)</sup> ・保全区の整備は効果に係る知見が少ないため、専門家の指導・助言を得ながら実施する</td> <td>工事の実施中(チュウヒの繁殖期)</td> <td>工事の実施中</td> <td>工事の実施中</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置を講じた後の環境の状況の変化</td> <td>ヨシ原を主体とした水辺環境が創出される</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果</td> <td>チュウヒの営業地及び主要な採餌場として利用されている環境が代償され、現在確認されている 3 つがいの営業を確保できると考えられる また、併せてカヤネズミ、オオヨシキリの生息地を代償できる</td> <td>チュウヒの繁殖活動への影響が低減できる</td> <td>チュウヒの繁殖活動への影響を低減できる</td> <td>カヤネズミ、オオヨシキリの生息地及びチュウヒの繁殖活動への影響を低減できる</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果の不確実性の程度</td> <td>効果に係る知見が少なく、保全措置の効果には不確実性がある</td> <td>効果の不確実性の程度は小さいと考えられる</td> <td>効果の不確実性の程度は小さいと考える</td> <td>効果の不確実性の程度は小さいと考える</td> </tr> <tr> <td>他の環境要素等への影響</td> <td>主に乾性草原に生息する生物の生息環境が減少する</td> <td>特になし</td> <td>特になし</td> <td>特になし</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置実施の課題</td> <td>目的とした機能が整うまである程度の期間を要する</td> <td>特になし</td> <td>特になし</td> <td>特になし</td> </tr> <tr> <td>環境影響の回避・低減の検証</td> <td colspan="4">環境保全措置の実施により、事業の実施により影響を受ける生息確認個体について、影響は低減されると考えられる。 このことから、事業者の実施可能な範囲内でカヤネズミ、チュウヒ、オオヨシキリへの影響ができる限り低減されていると考える。</td> </tr> </tbody> </table> <p>*1) 保全区の面積の妥当性については、後述する「保全区について」の項で検討結果を記載した。</p>	環境影響	変更により、カヤネズミ、オオヨシキリの生息地、チュウヒの営業地及び主要な採餌場として利用されている環境の一部が消失する。				環境保全措置	保全区の整備 (現在の乾性草原にヨシ原を主体とした水辺環境を整備する)	チュウヒの行動を適宜調整しながらの工事の実施	チュウヒの繁殖活動に配慮した工事工程の採用	工事関係者等の事業区域外への立入り制限	種別	代償	低減	低減	低減	実施主体	事業者	事業者	事業者	事業者	実施方法	干拓地の南端部に保全区を整備し、チュウヒの営業地及び主要な採餌場としての機能を高める また、併せてカヤネズミ、オオヨシキリの生息地の機能向上を目指す	チュウヒの繁殖期に工事に対する反応を観察しつつ工事を実施する	チュウヒの繁殖期に営業箇所周辺で工事を行わないように工事箇所の調整を行う	工事関係者等に周知、徹底を図る	期間、範囲、条件等	・工事の開始前～供用後 ・干拓地の南端部約 50ha <sup>1)</sup> ・保全区の整備は効果に係る知見が少ないため、専門家の指導・助言を得ながら実施する	工事の実施中(チュウヒの繁殖期)	工事の実施中	工事の実施中	環境保全措置を講じた後の環境の状況の変化	ヨシ原を主体とした水辺環境が創出される	—	—	—	環境保全措置の効果	チュウヒの営業地及び主要な採餌場として利用されている環境が代償され、現在確認されている 3 つがいの営業を確保できると考えられる また、併せてカヤネズミ、オオヨシキリの生息地を代償できる	チュウヒの繁殖活動への影響が低減できる	チュウヒの繁殖活動への影響を低減できる	カヤネズミ、オオヨシキリの生息地及びチュウヒの繁殖活動への影響を低減できる	環境保全措置の効果の不確実性の程度	効果に係る知見が少なく、保全措置の効果には不確実性がある	効果の不確実性の程度は小さいと考えられる	効果の不確実性の程度は小さいと考える	効果の不確実性の程度は小さいと考える	他の環境要素等への影響	主に乾性草原に生息する生物の生息環境が減少する	特になし	特になし	特になし	環境保全措置実施の課題	目的とした機能が整うまである程度の期間を要する	特になし	特になし	特になし	環境影響の回避・低減の検証	環境保全措置の実施により、事業の実施により影響を受ける生息確認個体について、影響は低減されると考えられる。 このことから、事業者の実施可能な範囲内でカヤネズミ、チュウヒ、オオヨシキリへの影響ができる限り低減されていると考える。			
環境影響	変更により、カヤネズミ、オオヨシキリの生息地、チュウヒの営業地及び主要な採餌場として利用されている環境の一部が消失する。																																																													
環境保全措置	保全区の整備 (現在の乾性草原にヨシ原を主体とした水辺環境を整備する)	チュウヒの行動を適宜調整しながらの工事の実施	チュウヒの繁殖活動に配慮した工事工程の採用	工事関係者等の事業区域外への立入り制限																																																										
種別	代償	低減	低減	低減																																																										
実施主体	事業者	事業者	事業者	事業者																																																										
実施方法	干拓地の南端部に保全区を整備し、チュウヒの営業地及び主要な採餌場としての機能を高める また、併せてカヤネズミ、オオヨシキリの生息地の機能向上を目指す	チュウヒの繁殖期に工事に対する反応を観察しつつ工事を実施する	チュウヒの繁殖期に営業箇所周辺で工事を行わないように工事箇所の調整を行う	工事関係者等に周知、徹底を図る																																																										
期間、範囲、条件等	・工事の開始前～供用後 ・干拓地の南端部約 50ha <sup>1)</sup> ・保全区の整備は効果に係る知見が少ないため、専門家の指導・助言を得ながら実施する	工事の実施中(チュウヒの繁殖期)	工事の実施中	工事の実施中																																																										
環境保全措置を講じた後の環境の状況の変化	ヨシ原を主体とした水辺環境が創出される	—	—	—																																																										
環境保全措置の効果	チュウヒの営業地及び主要な採餌場として利用されている環境が代償され、現在確認されている 3 つがいの営業を確保できると考えられる また、併せてカヤネズミ、オオヨシキリの生息地を代償できる	チュウヒの繁殖活動への影響が低減できる	チュウヒの繁殖活動への影響を低減できる	カヤネズミ、オオヨシキリの生息地及びチュウヒの繁殖活動への影響を低減できる																																																										
環境保全措置の効果の不確実性の程度	効果に係る知見が少なく、保全措置の効果には不確実性がある	効果の不確実性の程度は小さいと考えられる	効果の不確実性の程度は小さいと考える	効果の不確実性の程度は小さいと考える																																																										
他の環境要素等への影響	主に乾性草原に生息する生物の生息環境が減少する	特になし	特になし	特になし																																																										
環境保全措置実施の課題	目的とした機能が整うまである程度の期間を要する	特になし	特になし	特になし																																																										
環境影響の回避・低減の検証	環境保全措置の実施により、事業の実施により影響を受ける生息確認個体について、影響は低減されると考えられる。 このことから、事業者の実施可能な範囲内でカヤネズミ、チュウヒ、オオヨシキリへの影響ができる限り低減されていると考える。																																																													

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要(61)

頁	区 分	変更の概要及び理由																																				
-	追 記	<p>影響があると予測された注目すべき生息地が追加されたため、これについても環境保全措置の検討を行うとともに、検討結果を整理し、以下のとおり表を追記した。</p> <p>「6.3.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用(1)環境保全措置」に表を追記（評価書 p.342）</p> <p style="text-align: center;"><b>表 8.6.3-3(2) 環境保全措置の検討結果の整理（コチョウゲンボウのねぐら）</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">環境影響</td> <td colspan="2">変更により、ねぐらとして利用されている環境の多くが消失する。</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置</td> <td style="text-align: center;">保全区の整備 (代替のねぐらとなる木の植樹)</td> <td style="text-align: center;">工事関係者等の事業区域外への立入り制限</td> </tr> <tr> <td>種別</td> <td style="text-align: center;">代償</td> <td style="text-align: center;">低減</td> </tr> <tr> <td>実施主体</td> <td style="text-align: center;">事業者</td> <td style="text-align: center;">事業者</td> </tr> <tr> <td>実施方法</td> <td>干拓地の南端部に整備する保全区に代替のねぐらとなる木を植樹し、新たなねぐら環境を創出する</td> <td>工事関係者等に周知、徹底を図る</td> </tr> <tr> <td>期間、範囲、条件等</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の開始前～供用後</li> <li>・保全区内</li> <li>・専門家の指導・助言を得ながら実施する</li> </ul> </td> <td>工事の実施中</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置を講じた後の環境の状況の変化</td> <td colspan="2">ねぐら環境が創出される</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果</td> <td>ねぐらとして利用している環境を代償できる</td> <td>ねぐらへの影響を低減できる</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置の効果の不確実性の程度</td> <td>効果に係る知見が少なく、保全措置の効果には不確実性がある</td> <td>効果の不確実性の程度は小さいと考える</td> </tr> <tr> <td>他の環境要素等への影響</td> <td>特になし</td> <td>特になし</td> </tr> <tr> <td>環境保全措置実施の課題</td> <td>特になし</td> <td>特になし</td> </tr> <tr> <td>環境影響の回避・低減の検証</td> <td colspan="2">環境保全措置の実施により、事業の実施により影響を受けるねぐらについて、影響は低減されることが考えられる。 このことから、事業者の実施可能な範囲内でコチョウゲンボウのねぐらへの影響ができる限り低減されていると考える。</td> </tr> </table>	環境影響	変更により、ねぐらとして利用されている環境の多くが消失する。		環境保全措置	保全区の整備 (代替のねぐらとなる木の植樹)	工事関係者等の事業区域外への立入り制限	種別	代償	低減	実施主体	事業者	事業者	実施方法	干拓地の南端部に整備する保全区に代替のねぐらとなる木を植樹し、新たなねぐら環境を創出する	工事関係者等に周知、徹底を図る	期間、範囲、条件等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の開始前～供用後</li> <li>・保全区内</li> <li>・専門家の指導・助言を得ながら実施する</li> </ul>	工事の実施中	環境保全措置を講じた後の環境の状況の変化	ねぐら環境が創出される		環境保全措置の効果	ねぐらとして利用している環境を代償できる	ねぐらへの影響を低減できる	環境保全措置の効果の不確実性の程度	効果に係る知見が少なく、保全措置の効果には不確実性がある	効果の不確実性の程度は小さいと考える	他の環境要素等への影響	特になし	特になし	環境保全措置実施の課題	特になし	特になし	環境影響の回避・低減の検証	環境保全措置の実施により、事業の実施により影響を受けるねぐらについて、影響は低減されることが考えられる。 このことから、事業者の実施可能な範囲内でコチョウゲンボウのねぐらへの影響ができる限り低減されていると考える。	
環境影響	変更により、ねぐらとして利用されている環境の多くが消失する。																																					
環境保全措置	保全区の整備 (代替のねぐらとなる木の植樹)	工事関係者等の事業区域外への立入り制限																																				
種別	代償	低減																																				
実施主体	事業者	事業者																																				
実施方法	干拓地の南端部に整備する保全区に代替のねぐらとなる木を植樹し、新たなねぐら環境を創出する	工事関係者等に周知、徹底を図る																																				
期間、範囲、条件等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事の開始前～供用後</li> <li>・保全区内</li> <li>・専門家の指導・助言を得ながら実施する</li> </ul>	工事の実施中																																				
環境保全措置を講じた後の環境の状況の変化	ねぐら環境が創出される																																					
環境保全措置の効果	ねぐらとして利用している環境を代償できる	ねぐらへの影響を低減できる																																				
環境保全措置の効果の不確実性の程度	効果に係る知見が少なく、保全措置の効果には不確実性がある	効果の不確実性の程度は小さいと考える																																				
他の環境要素等への影響	特になし	特になし																																				
環境保全措置実施の課題	特になし	特になし																																				
環境影響の回避・低減の検証	環境保全措置の実施により、事業の実施により影響を受けるねぐらについて、影響は低減されることが考えられる。 このことから、事業者の実施可能な範囲内でコチョウゲンボウのねぐらへの影響ができる限り低減されていると考える。																																					

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (62)

頁	区分	変更の概要及び理由
309	改訂	<p>環境保全措置として、保全区内に代替のねぐらとなる木を植樹するなど、保全区の整備について、より具体的に示すこととした。そのため、以下のとおり図を改訂した。</p> <p>準備書 p. 379 「9. 3. 1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用 (1) 環境保全措置」の図を改訂</p> <div data-bbox="400 360 1382 958"> <p>準備書</p> <p>図 8.9.3-1 保全区整備イメージ図 (干拓地南部において、水路で仕切られた保全区を設置し、ヒトを含めた4つ足動物の進入できない区域を設定する)</p> </div> <div data-bbox="400 965 1382 1585"> <p>評価書 (p. 343)</p> <p>図 8.9.3-1 保全区整備イメージ図 (干拓地南部において、水路で仕切られた保全区を設置し、人や天敵となる哺乳類の侵入できない区域を設定する)</p> </div>

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (63)

頁	区 分	変更の概要及び理由
-	追 記	<p>チュウヒの代償措置に関する科学的根拠の欠如を指摘されたため、約 50ha の保全区を整備することで、営巣地及び主要な採餌場を代償できる根拠について記述した。また、ヨシ原を主体とした水辺環境を整備することとした根拠についても記述し、以下のとおり文章を追記した。</p> <p>「6.3.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用(1)環境保全措置」に文章を追記(評価書 p.344~345)</p> <p>(2)保全区について</p> <p>1) 営巣地の代償措置</p> <p>平成 15 年度において、伊勢湾岸自動車道以南で 3 つがいのチュウヒが繁殖に成功しているが、事業の実施に伴う土地の改変により事業実施区域近傍の 1 つがいの営巣地への影響が懸念されることから、事業による営巣地への影響の代償措置として保全区を検討する必要性が生じた。そこで、保全区を干拓地の南端部に整備し、営巣地としての機能向上を図りつつ、ここに 3 つがいの営巣地を確保することとした。</p> <p>木曾岬干拓地におけるチュウヒの営巣地の植生は、ススキ、セイタカアワダチソウ、ヨシ等の高茎草本が主体であるが、その他の詳細な条件については不明である。そのため、保全区の内容については、他の繁殖地の事例を参考とし、検討した。その結果、石川県河北潟干拓地、青森県仏沼干拓地、愛知県の繁殖地等、他の繁殖地では、抽水状態のヨシ原をチュウヒが営巣地として利用している事例が多いことから、保全区においては、ヨシ原を主体とした水辺環境の整備を行うこととした。</p> <p>保全区の面積については、複数のつがいが繁殖している石川県河北潟干拓地の事例を参考とした。石川県河北潟干拓地では、チュウヒの平均的な巣間距離は約 300~400m である。その巣間距離を参考に、巣間距離約 350m で保全区的面積を検討した結果、3 つがいのチュウヒの営巣が可能な面積は約 50ha となった。</p> <p>2) 消失するおそれのある主要な採餌場に対する代償措置</p> <p>a 消失するおそれのある主要な採餌場の面積の検討</p> <p>3 つがいのチュウヒが繁殖に成功した平成 15 年度において、ペア別にそれぞれ区画メッシュ法*1(猛禽類保護の進め方(特にイヌワシ、クマタカ、オオタカについて) 1996 環境庁)により繁殖期における行動圏解析を行い、ペアごとに、「最大行動圏*2」、「95%行動圏*3」、「高利用域*4」を整理した。また、それぞれのペアの狩り行動のみで繁殖期の行動圏解析を行い「狩り行動の高利用域」を整理したところ、「高利用域」と「狩り行動の高利用域」はほぼ重なっていたため、「高利用域」を繁殖期における主要な採餌場と定義した。</p> <p>主要な採餌場の餌生物の現存量を推定し、チュウヒにとって必要な餌生物量を基準に保全区の餌場としての機能を検討・評価する方法と、主要な採餌場の面積を基準に保全区の餌場としての機能を検討・評価する方法があると考えられるが、餌生物量に関する考察は技術的な課題も多く、現段階では正確な結果を導くことは難しいため、今回は、主要な採餌場の面積を基準に保全区の餌場としての機能を検討・評価することとした。</p> <p>主要な採餌場と当該事業における改変区域を重ね合わせたところ、チュウヒ 3 つがいの主要な採餌場の面積に対して、約 50ha が消失するおそれがある(図 8.6.3-2)。そのため、保全区において、主要な採餌場としての機能向上を図り、消失するおそれがある約 50ha を代償する必要があると考えた。</p> <p>b 保全区により代償出来ると考えた理由</p> <p>木曾岬干拓地に生息するチュウヒは、主に鳥類を餌としている(p256 図 8.6.1-13 参照)。石川県河北潟干拓地、青森県仏沼干拓地、愛知県の繁殖地等でチュウヒの営巣環境となっているヨシ原を主体とした水辺環境を、現在乾燥化により、ヨシ等の水辺環境が減少している木曾岬干拓地に整備した場合のチュウヒの餌鳥類の増加の程度について、木曾川下流で実施された「平成 12 年度 河川水辺の国勢調査 鳥類調査」の結果を用いて検討した。その結果、図 8.6.3-3 に示したとおり、チュウヒの繁殖期であり、採餌量が増加する 6 月には、ヨシ原の餌鳥類の個体密度は乾性草原と比較して約 2 倍となっていた。また、鍋田干拓地(主に水田が広がっており、水辺環境と考えることができる)と木曾岬干拓地の餌鳥類の個体密度についても比較したところ、鍋田干拓地におけるチュウヒの餌鳥類の個体密度は、木曾岬干拓地と比較して約 2 倍となっていた(表 8.6.3-4)。</p> <p>以上より、保全区に石川県河北潟干拓地や木曾川下流にみられるような、良好なヨシ原を含む水辺環境を整備することで、現状の 2 倍程度の餌量の増加が見込まれる。したがって、事業実施に伴い消失するおそれがある主要な採餌場の面積約 50ha は代償でき、事業実施区域以外で、チュウヒ 3 つがいの主要な採餌場の面積は確保できるものと考えられる。なお、良好なヨシ原を含む水辺環境を整備する際には、既往の事例等を参考とする。</p>

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (64)

頁	区 分	変更の概要及び理由
-	追 記	<p>今回の事業における保全区の位置づけ、保全区の整備内容及び維持・管理についてその内容を明示することとし、以下のとおり文章を追記した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「6.3.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用(1)環境保全措置」に文章を追記(評価書 p.345~346)</p> <p><b>3) 保全区の整備、維持・管理について</b></p> <p><b>a 保全区の整備について</b></p> <p>木曾岬干拓地内は、雨水のみで涵養されている。雨水は外周水路に流れ込んでおり、外周水路の水位と木曾岬干拓地の地盤高の差は約 1m となっていることから、木曾岬干拓地の地下水位は非常に浅いと考えられる。したがって、保全区は掘削することにより、湿地の形成が可能であると考えられる。しかし、現在、干拓地内は乾燥化してきているため、掘削によって形成された湿地は、乾燥化の影響を受けて、将来干上がる可能性も考えられる。そのため、必要に応じて、湿地と干拓地の東西方向に走る水路を連結し保全区側に引き込むことで集水面積を広げ、保全区と外周水路を連結し保全区内に外周水路の水を引き込むこと等により、恒常的に湿地が維持されるよう努める。</p> <p>保全区の整備は、今回の事業と一体化して進めるものであり、伊勢湾岸自動車道より北側の区域の工事が完了するまでに、事後調査等によって湿地の効果を確かめながら段階的に実施し、保全区内に生息・生育する重要な種についても配慮する。保全区整備の実施工程(イメージ)と事後調査及び工事工程計画は、表 8.6.3-5 に示したとおりである。</p> <p>保全区にヨシ原を整備するにあたっては、ヨシ原の水位や塩分濃度、底質の状態等について十分に検討を行い、整備時期については、チュウヒの繁殖に影響を与えないよう、チュウヒの繁殖期を避けて行う。なお、具体的な掘削方針、水路やヨシ原等の配置や形状については、別途、専門家の指導・助言を受ける。</p> <p><b>b 保全区の維持・管理について</b></p> <p>保全区の水路については、適切に維持・管理を行う。</p> <p>かつて、チュウヒの繁殖が確認されたが、現在は繁殖を行っていない場所において、その原因を整理したところ、その多くが、ヨシ原の開発*5(滋賀県琵琶湖)や営巣地周辺での人の活動*6(新潟県佐潟)であった。また、多くの繁殖地ではチュウヒは抽水状態のヨシ原を営巣地として利用している。これは、抽水状態のヨシ原が人や天敵となる哺乳類の侵入が困難なことが考えられる。</p> <p>事業の実施により、これらの人為圧や天敵からの捕食圧の影響が高まることが懸念されるため、以上のことを踏まえて、工事中や供用時には以下の点に特に留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミの持ち帰りの徹底を促し、カラス類や野犬等の増加を抑制する。</li> <li>・事業実施区域南端にフェンスを設置し、工事関係者等の事業実施区域外への立ち入りを制限する等、事業実施区域外は原則立ち入り禁止とし、事業実施区域外への影響の低減を図る。</li> <li>・保全区の外周に柵及び水路を設け、事業実施区域外との連続性を遮断することにより、天敵となる哺乳類の侵入を防止する。</li> <li>・夜間の施錠により、人や天敵となる哺乳類の侵入を防止する。</li> </ul> </div>

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (65)

頁	区分	変更の概要及び理由
-	追記	<p>干拓地近傍におけるヨシ原再生の事例を追記することとした。また、消失するおそれのある主要な採餌場について模式図を用いて分かりやすく図示した。これにより、以下の写真及び図を追記した。</p> <p>「6.3.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用(1)環境保全措置」に写真を追記(評価書 p. 346~347)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>ヨシの苗づくりに励む長良川や揖斐川下流域の住民たち</p> <p>岐阜辞典ホームページより(平成17年12月16日現在)  <a href="http://www.jic-gifu.or.jp/np/newspaper/kikak">http://www.jic-gifu.or.jp/np/newspaper/kikak</a></p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ヨシ再生前                      ヨシ再生後</p> </div> </div> <p>地盤沈下等により失われた木曾三川河口部本来の多様な水辺環境を復元するため、水制工の設置等による、干潟やヨシ原の再生事業を推進【三重県桑名市長島町等】</p> <p>国土交通省中部地方整備局ホームページより(平成17年12月16日現在)  <a href="http://www.cbr.mlit.go.jp/16gaisan/0301.htm">http://www.cbr.mlit.go.jp/16gaisan/0301.htm</a></p> <p style="text-align: center;"><b>木曾三川におけるヨシ原の再生事業</b></p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 1; padding-left: 10px;"> <p><b>凡例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 事業実施区域</li> <li>○ 繁殖期の最大行動圏(平成15年度)</li> <li>● 繁殖期の採餌場(平成15年度)</li> <li>○ 繁殖期の主要な採餌場(高利用域)(平成15年度)</li> <li>○ 繁殖期の主要な採餌場(消失部分)</li> <li>● 保全区</li> <li>■ 改変区域(施設設置・盛土)</li> <li>— 改変区域(道路・遊歩道)</li> </ul> <p>注) 1. 高利用域：(猛禽類保護の進め方(特にイヌワシ、クマタカ、オオタカについて)1996 環境庁より)によると、オオタカの高利用域は、繁殖期の採餌場所、主要な飛行ルート、主要な戻り場所、主要な止まり場等を含む繁殖期に利用頻度が高い区域とされている。</p> <p>本解所では、それぞれのペアの「高利用域」と、「狩り行動の高利用域」を整理したところ、「高利用域」と「狩り行動の高利用域」はほぼ重なっていたため、「高利用域」を繁殖期の主要な採餌場と定義した。</p> <p>2. 本図面は種の保全の観点から、確認された3つがいの行動圏及び採餌場の概略を模式的に示したものである。</p> </div> </div> <p style="text-align: center;"><b>図 8.6.3-2 消失するおそれのある主要な採餌場と保全区(平成15年度)</b></p>

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要(66)

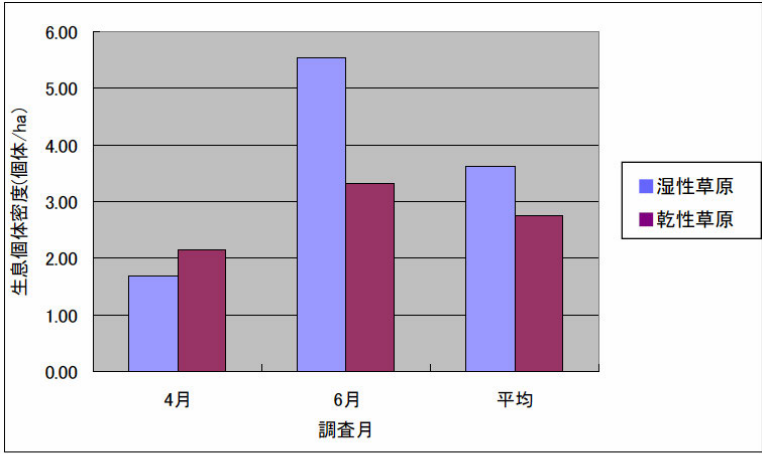
頁	区分	変更の概要及び理由																																																									
-	追記	<p>保全区にヨシ原を主体とした水辺環境を整備した場合の餌鳥類の増加の程度について、既往調査の結果を用いて示すこととし、以下のとおり図表を追記した。</p> <p>「6.3.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用(1)環境保全措置」に図を追記(評価書 p.348)</p> <div style="text-align: center;">  </div> <table border="1" data-bbox="515 875 1265 1003"> <thead> <tr> <th rowspan="2">環境</th> <th colspan="3">個体密度(個体/ha)</th> </tr> <tr> <th>4月</th> <th>6月</th> <th>平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>湿性草原*</td> <td>1.69</td> <td>5.54</td> <td>3.62</td> </tr> <tr> <td>乾性草原</td> <td>2.16</td> <td>3.32</td> <td>2.74</td> </tr> <tr> <td>個体密度比 (湿性草原/乾性草原)</td> <td>0.8</td> <td>1.7</td> <td>1.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>*ヨシ群落、セリクサヨシ群落、セイタカヨシ群落を湿性草原として、セイタカアワダチソウ群落、クズ群落等を乾性草原としてまとめ、個体密度を算出した。</p> <p style="text-align: center;"><b>図 8.6.3-3 環境別のチュウヒの餌鳥類の個体密度</b> (平成12年度 河川水辺の国勢調査(鳥類調査・木曾川下流)より作図)</p> <p><b>表 8.6.3-4 鍋田干拓地と木曾岬干拓地のチュウヒの餌鳥類の個体密度の比較</b></p> <table border="1" data-bbox="595 1227 1185 1570"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年月</th> <th colspan="2">個体密度*(個体/ha)</th> </tr> <tr> <th>木曾岬干拓地</th> <th>鍋田干拓地</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H14.4</td><td>3.5</td><td>16.6</td></tr> <tr><td>H14.5</td><td>4.3</td><td>7.6</td></tr> <tr><td>H14.6</td><td>7.0</td><td>2.6</td></tr> <tr><td>H14.7</td><td>7.9</td><td>6.2</td></tr> <tr><td>H14.8</td><td>13.8</td><td>8.9</td></tr> <tr><td>H15.4</td><td>2.9</td><td>7.6</td></tr> <tr><td>H15.5</td><td>2.7</td><td>7.8</td></tr> <tr><td>H15.6</td><td>4.3</td><td>8.4</td></tr> <tr><td>H15.7</td><td>6.0</td><td>20.2</td></tr> <tr><td>H15.8</td><td>10.9</td><td>41.9</td></tr> <tr><td>平均</td><td>6.3</td><td>12.8</td></tr> </tbody> </table> <p>*本表は、現地調査において確認されたチュウヒの餌鳥類(p256 図 8.6.1-13)の個体密度を比較したものである。個体密度は、平成14年4月～8月及び平成15年4月～8月の鳥類相(鳥類全般)調査のラインセンサス調査結果における平均値である。</p>	環境	個体密度(個体/ha)			4月	6月	平均	湿性草原*	1.69	5.54	3.62	乾性草原	2.16	3.32	2.74	個体密度比 (湿性草原/乾性草原)	0.8	1.7	1.3	年月	個体密度*(個体/ha)		木曾岬干拓地	鍋田干拓地	H14.4	3.5	16.6	H14.5	4.3	7.6	H14.6	7.0	2.6	H14.7	7.9	6.2	H14.8	13.8	8.9	H15.4	2.9	7.6	H15.5	2.7	7.8	H15.6	4.3	8.4	H15.7	6.0	20.2	H15.8	10.9	41.9	平均	6.3	12.8
環境	個体密度(個体/ha)																																																										
	4月	6月	平均																																																								
湿性草原*	1.69	5.54	3.62																																																								
乾性草原	2.16	3.32	2.74																																																								
個体密度比 (湿性草原/乾性草原)	0.8	1.7	1.3																																																								
年月	個体密度*(個体/ha)																																																										
	木曾岬干拓地	鍋田干拓地																																																									
H14.4	3.5	16.6																																																									
H14.5	4.3	7.6																																																									
H14.6	7.0	2.6																																																									
H14.7	7.9	6.2																																																									
H14.8	13.8	8.9																																																									
H15.4	2.9	7.6																																																									
H15.5	2.7	7.8																																																									
H15.6	4.3	8.4																																																									
H15.7	6.0	20.2																																																									
H15.8	10.9	41.9																																																									
平均	6.3	12.8																																																									

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (67)

頁	区分	変更の概要及び理由																																																																																																																																																																	
-	追記	<p>保全区の整備時期や整備内容を工事工程と併せて明示することとした。また、用語の意味が分かりにくいもの等について、その意味を記述することとし、以下の表及び注釈を追記した。</p> <p>「6.3.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用(1)環境保全措置」に表を追記 (評価書 p.349)</p> <p style="text-align: center;"><b>表 8.6.3-5 保全区整備の実施工程(イメージ)と事後調査及び工事工程計画</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">工種・事後調査の項目</th> <th colspan="2">年次</th> <th colspan="2">1</th> <th colspan="2">2</th> <th colspan="2">3</th> <th colspan="2">4</th> <th colspan="2">5</th> </tr> <tr> <th>4月</th> <th>3月</th> <th>4月</th> <th>3月</th> <th>4月</th> <th>3月</th> <th>4月</th> <th>3月</th> <th>4月</th> <th>3月</th> <th>4月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">保全区 の 整備</td> <td rowspan="2">水辺環境の整備</td> <td>西側半分</td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>東側半分</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">侵入防止対策</td> <td>西側半分</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>東側半分</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">事後 調査 の 項目</td> <td colspan="2">チュウヒ</td> <td>↔</td> <td></td> <td>↔</td> <td></td> <td>↔</td> <td></td> <td>↔</td> <td></td> <td>↔</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">餌環境</td> <td>↔</td> <td></td> <td>↔</td> <td></td> <td>↔</td> <td></td> <td>↔</td> <td></td> <td>↔</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">コチョウゲンボウのねぐら</td> <td></td> <td>↔</td> <td></td> <td>↔</td> <td></td> <td>↔</td> <td></td> <td>↔</td> <td></td> <td>↔</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">工事 工程</td> <td colspan="2">盛土工</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>→</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">施設 工事</td> <td>1号幹線道路</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>↔</td> <td>↔</td> </tr> <tr> <td>ストックヤード</td> <td colspan="10">-----</td> </tr> <tr> <td>わんぱく原っぱ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>↔</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">↔ : 工事及び事後調査期間 ----- : 供用期間</p> <p>注) 1. 保全区の整備の工種及び年次は、アドバイザーの指導・助言をもとに作成したものであり、実際の計画は、実施設計の段階で変更になる可能性がある。                  2. 各事後調査の手法等については、「6.4 事後調査」に記載した。                  3. 工事工程は、「第 2 章 3.5 対象事業の工事計画の概要」に示した表 2.3.5-1 に従い、保全区整備の実施工程(イメージ)内に行われる工事のみを記載した。                  4. 本表における工事工程の年次は、保全区の整備と工事工程でずれがあるため、表 2.3.5-1 の年次とは異なる。</p> <p>*1 区画メッシュ法： 調査対象地域を縦、横に等分割した線で区画し(区画されたそれぞれをメッシュという)、あるメッシュ内を対象となる猛禽類が通過したり、止まりの記録が1度あるごとに、そのメッシュに出現記録を1回重ねて、メッシュごとの出現回数を記録する方法。                  *2 最大行動圏： つがいの全ての飛翔軌跡や止まり場所を地図上に記入し、凹部がないようにメッシュの最外部を囲んだ範囲のこと。非出現部分も含まれる。                  *3 95%行動圏： 最大行動圏の中から、巣より遠方に位置し、相対的に出現回数が低いメッシュから5%を削除した範囲のこと。                  *4 高利用域： (猛禽類保護の進め方(特にイヌワシ、クマタカ、オオタカについて)1996 環境庁より)によると、オオタカの高利用域は、繁殖期の採餌場所、主要な飛行ルート、主要な旋回場所、主要な止まり場等を含む繁殖期に利用頻度が高い区域とされ、95%行動圏の1メッシュあたりの平均出現回数より、高い出現回数を示すメッシュの範囲とされている。                  本解析では、それぞれのペアの「高利用域」と「狩り行動の高利用域」を整理したところ、「高利用域」と「狩り行動の高利用域」はほぼ重なっていたため、「高利用域」を繁殖期における主要な採餌場と定義した。                  *5 滋賀県下におけるサンカノゴイ <i>Botaurus stellaris</i> の繁殖記録(岡田ら 1986)                  *6 有識者からの聴き取り</p>	工種・事後調査の項目		年次		1		2		3		4		5		4月	3月	4月	3月	4月	3月	4月	3月	4月	3月	4月	3月	保全区 の 整備	水辺環境の整備	西側半分	●		●									東側半分					●		●					侵入防止対策	西側半分								●				東側半分											●	事後 調査 の 項目	チュウヒ		↔		↔		↔		↔		↔		餌環境		↔		↔		↔		↔		↔		コチョウゲンボウのねぐら			↔		↔		↔		↔		↔	工事 工程	盛土工											→	施設 工事	1号幹線道路									↔	↔	ストックヤード	-----										わんぱく原っぱ										↔
工種・事後調査の項目		年次			1		2		3		4		5																																																																																																																																																						
		4月	3月	4月	3月	4月	3月	4月	3月	4月	3月	4月	3月																																																																																																																																																						
保全区 の 整備	水辺環境の整備	西側半分	●		●																																																																																																																																																														
		東側半分					●		●																																																																																																																																																										
	侵入防止対策	西側半分								●																																																																																																																																																									
		東側半分											●																																																																																																																																																						
事後 調査 の 項目	チュウヒ		↔		↔		↔		↔		↔																																																																																																																																																								
	餌環境		↔		↔		↔		↔		↔																																																																																																																																																								
	コチョウゲンボウのねぐら			↔		↔		↔		↔		↔																																																																																																																																																							
工事 工程	盛土工											→																																																																																																																																																							
	施設 工事	1号幹線道路									↔	↔																																																																																																																																																							
		ストックヤード	-----																																																																																																																																																																
		わんぱく原っぱ										↔																																																																																																																																																							



表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (68)

頁	区分	変更の概要及び理由				
310	改訂	<p>予測結果及び環境保全措置の検討結果の改訂により、以下のとおり文章を改訂した。</p> <p>準備書 p.310 「6.3.1 工事の実施・土地又は工作物の存在及び供用(3)評価」の文章を改訂(下線：改訂)</p> <table border="1" data-bbox="400 338 1382 1973"> <tr> <td data-bbox="400 338 528 853">準備書</td> <td data-bbox="528 338 1382 853"> <p>陸生動物については、陸生動物相及びそれらの生息地並びに重要な種について調査、予測を実施した。その結果、直接改変を受けない場所に生息環境が維持されること、大きな騒音を発生する工事や施設はなく、適切な沈砂池の配置及び維持管理により、水質に対する影響を小さくすることが出来ることから、動物相は著しく変化することはないと予測された。</p> <p>チュウヒについては、採餌や繁殖の場として利用されている生息地が一部消失するため、現状の3つがいが営巣することは困難であり、影響があると予測された。その結果を踏まえ、チュウヒに対する環境保全措置の検討を行った。</p> <p>この結果、工事中には騒音、振動を抑制する措置及び工事関係者の事業区域外への立ち入りを制限する措置を実施するとともに、チュウヒの繁殖活動に対して工事工程の配慮を行うこと、また、営巣地及び餌場として利用されていると考えられる環境が一部消失することに対しては、代償措置として干拓地の南側に保全区を整備し、営巣地及び餌場としての機能を高める措置を実施するとともに、事業実施区域の南端部に進入防止用の柵を設置することから、現在確認されている3つがいの営巣が期待される。</p> <p>以上のことから、陸生動物に係る環境影響が事業者の実行可能な範囲内でできる限り低減されていると評価する。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="400 853 528 1973">評価書 (p.350)</td> <td data-bbox="528 853 1382 1973"> <p>陸生動物については、陸生動物相及びそれらの生息環境、重要な種について調査、予測を実施した。その結果、直接改変を受けない場所に生息環境が維持されること、大きな騒音を発生する工事や施設の建設はなく、適切な沈砂池の配置及び維持管理により、水質に対する影響を小さくすることが出来ることから、動物相及びそれらの生息環境は著しく変化することはないと予測された。重要な種については、カヤネズミ、チュウヒ、オオヨシキリ以外の重要な種は、生息環境が縮小するが生息は維持されると予測された。また、注目すべき生息地として選定したハイロチュウヒ、チュウヒのねぐらについては、ねぐらの一部が消失するがその多くが維持されると予測された。</p> <p>影響があると予測された重要な種及び注目すべき生息地のうち、カヤネズミについては、干拓地内全域に生息するが、現状でも生息環境が悪化しつつあり、生息環境が狭小化しつつあると考えられ、この傾向が加速し、影響があると予測された。オオヨシキリについては、現状においてすでに生息個体数が比較的少ないと考えられたため、個体群のさらなる矮小化が懸念され、影響があると予測された。チュウヒについては、主要な採餌場や繁殖の場として利用されている生息地が一部消失するため、現状の3つがいが繁殖することは困難であり、影響があると予測された。コチョウゲンボウのねぐらについては、ねぐらとして利用している場所の多くが消失するため、影響があると予測された。その結果を踏まえ、カヤネズミ、チュウヒ、オオヨシキリ及びコチョウゲンボウのねぐらに対する環境保全措置の検討を行った。</p> <p>この結果、生息環境の狭小化が懸念されたカヤネズミ、個体群の矮小化が懸念されたオオヨシキリについては、干拓地の南端部に保全区を設け、ヨシ原を主体とする水辺環境を整備することで、乾燥化に伴うセイタカアワダチソウの侵入が防止され、イネ科の高茎草本を含むヨシ原等湿性草原の面積が増加するため、生息環境は維持されると考えられた。チュウヒについては、工事中には繁殖期における行動を適宜観察し、騒音、振動を抑制する措置及び工事関係者等の事業区域外への立ち入りを制限する措置を実施するとともに、繁殖活動に対して工事工程の配慮を行うこと、また、営巣地及び主要な採餌場として利用されていると考えられる環境が一部消失することに対しては、代償措置として干拓地の南端部に保全区を整備し、営巣地及び主要な採餌場としての機能を高める措置を実施するとともに、事業実施区域の南端部に侵入防止用の柵を設置することから、現在確認されている3つがいの営巣を確保できると考えられた。なお、保全区内にはハイロチュウヒ、チュウヒの多くのねぐらが含まれていることから、これらの種のねぐらも確保される。コチョウゲンボウのねぐらに対しては代償措置として干拓地の南端部に整備する保全区に代替のねぐらとなる木を植樹することから、干拓地内を継続的にねぐらとして利用すると考えられた。</p> <p>以上のことから、陸生動物に係る環境影響が事業者の実行可能な範囲内でできる限り低減されていると評価する。</p> </td> </tr> </table>	準備書	<p>陸生動物については、陸生動物相及びそれらの生息地並びに重要な種について調査、予測を実施した。その結果、直接改変を受けない場所に生息環境が維持されること、大きな騒音を発生する工事や施設はなく、適切な沈砂池の配置及び維持管理により、水質に対する影響を小さくすることが出来ることから、動物相は著しく変化することはないと予測された。</p> <p>チュウヒについては、採餌や繁殖の場として利用されている生息地が一部消失するため、現状の3つがいが営巣することは困難であり、影響があると予測された。その結果を踏まえ、チュウヒに対する環境保全措置の検討を行った。</p> <p>この結果、工事中には騒音、振動を抑制する措置及び工事関係者の事業区域外への立ち入りを制限する措置を実施するとともに、チュウヒの繁殖活動に対して工事工程の配慮を行うこと、また、営巣地及び餌場として利用されていると考えられる環境が一部消失することに対しては、代償措置として干拓地の南側に保全区を整備し、営巣地及び餌場としての機能を高める措置を実施するとともに、事業実施区域の南端部に進入防止用の柵を設置することから、現在確認されている3つがいの営巣が期待される。</p> <p>以上のことから、陸生動物に係る環境影響が事業者の実行可能な範囲内でできる限り低減されていると評価する。</p>	評価書 (p.350)	<p>陸生動物については、陸生動物相及びそれらの生息環境、重要な種について調査、予測を実施した。その結果、直接改変を受けない場所に生息環境が維持されること、大きな騒音を発生する工事や施設の建設はなく、適切な沈砂池の配置及び維持管理により、水質に対する影響を小さくすることが出来ることから、動物相及びそれらの生息環境は著しく変化することはないと予測された。重要な種については、カヤネズミ、チュウヒ、オオヨシキリ以外の重要な種は、生息環境が縮小するが生息は維持されると予測された。また、注目すべき生息地として選定したハイロチュウヒ、チュウヒのねぐらについては、ねぐらの一部が消失するがその多くが維持されると予測された。</p> <p>影響があると予測された重要な種及び注目すべき生息地のうち、カヤネズミについては、干拓地内全域に生息するが、現状でも生息環境が悪化しつつあり、生息環境が狭小化しつつあると考えられ、この傾向が加速し、影響があると予測された。オオヨシキリについては、現状においてすでに生息個体数が比較的少ないと考えられたため、個体群のさらなる矮小化が懸念され、影響があると予測された。チュウヒについては、主要な採餌場や繁殖の場として利用されている生息地が一部消失するため、現状の3つがいが繁殖することは困難であり、影響があると予測された。コチョウゲンボウのねぐらについては、ねぐらとして利用している場所の多くが消失するため、影響があると予測された。その結果を踏まえ、カヤネズミ、チュウヒ、オオヨシキリ及びコチョウゲンボウのねぐらに対する環境保全措置の検討を行った。</p> <p>この結果、生息環境の狭小化が懸念されたカヤネズミ、個体群の矮小化が懸念されたオオヨシキリについては、干拓地の南端部に保全区を設け、ヨシ原を主体とする水辺環境を整備することで、乾燥化に伴うセイタカアワダチソウの侵入が防止され、イネ科の高茎草本を含むヨシ原等湿性草原の面積が増加するため、生息環境は維持されると考えられた。チュウヒについては、工事中には繁殖期における行動を適宜観察し、騒音、振動を抑制する措置及び工事関係者等の事業区域外への立ち入りを制限する措置を実施するとともに、繁殖活動に対して工事工程の配慮を行うこと、また、営巣地及び主要な採餌場として利用されていると考えられる環境が一部消失することに対しては、代償措置として干拓地の南端部に保全区を整備し、営巣地及び主要な採餌場としての機能を高める措置を実施するとともに、事業実施区域の南端部に侵入防止用の柵を設置することから、現在確認されている3つがいの営巣を確保できると考えられた。なお、保全区内にはハイロチュウヒ、チュウヒの多くのねぐらが含まれていることから、これらの種のねぐらも確保される。コチョウゲンボウのねぐらに対しては代償措置として干拓地の南端部に整備する保全区に代替のねぐらとなる木を植樹することから、干拓地内を継続的にねぐらとして利用すると考えられた。</p> <p>以上のことから、陸生動物に係る環境影響が事業者の実行可能な範囲内でできる限り低減されていると評価する。</p>
準備書	<p>陸生動物については、陸生動物相及びそれらの生息地並びに重要な種について調査、予測を実施した。その結果、直接改変を受けない場所に生息環境が維持されること、大きな騒音を発生する工事や施設はなく、適切な沈砂池の配置及び維持管理により、水質に対する影響を小さくすることが出来ることから、動物相は著しく変化することはないと予測された。</p> <p>チュウヒについては、採餌や繁殖の場として利用されている生息地が一部消失するため、現状の3つがいが営巣することは困難であり、影響があると予測された。その結果を踏まえ、チュウヒに対する環境保全措置の検討を行った。</p> <p>この結果、工事中には騒音、振動を抑制する措置及び工事関係者の事業区域外への立ち入りを制限する措置を実施するとともに、チュウヒの繁殖活動に対して工事工程の配慮を行うこと、また、営巣地及び餌場として利用されていると考えられる環境が一部消失することに対しては、代償措置として干拓地の南側に保全区を整備し、営巣地及び餌場としての機能を高める措置を実施するとともに、事業実施区域の南端部に進入防止用の柵を設置することから、現在確認されている3つがいの営巣が期待される。</p> <p>以上のことから、陸生動物に係る環境影響が事業者の実行可能な範囲内でできる限り低減されていると評価する。</p>					
評価書 (p.350)	<p>陸生動物については、陸生動物相及びそれらの生息環境、重要な種について調査、予測を実施した。その結果、直接改変を受けない場所に生息環境が維持されること、大きな騒音を発生する工事や施設の建設はなく、適切な沈砂池の配置及び維持管理により、水質に対する影響を小さくすることが出来ることから、動物相及びそれらの生息環境は著しく変化することはないと予測された。重要な種については、カヤネズミ、チュウヒ、オオヨシキリ以外の重要な種は、生息環境が縮小するが生息は維持されると予測された。また、注目すべき生息地として選定したハイロチュウヒ、チュウヒのねぐらについては、ねぐらの一部が消失するがその多くが維持されると予測された。</p> <p>影響があると予測された重要な種及び注目すべき生息地のうち、カヤネズミについては、干拓地内全域に生息するが、現状でも生息環境が悪化しつつあり、生息環境が狭小化しつつあると考えられ、この傾向が加速し、影響があると予測された。オオヨシキリについては、現状においてすでに生息個体数が比較的少ないと考えられたため、個体群のさらなる矮小化が懸念され、影響があると予測された。チュウヒについては、主要な採餌場や繁殖の場として利用されている生息地が一部消失するため、現状の3つがいが繁殖することは困難であり、影響があると予測された。コチョウゲンボウのねぐらについては、ねぐらとして利用している場所の多くが消失するため、影響があると予測された。その結果を踏まえ、カヤネズミ、チュウヒ、オオヨシキリ及びコチョウゲンボウのねぐらに対する環境保全措置の検討を行った。</p> <p>この結果、生息環境の狭小化が懸念されたカヤネズミ、個体群の矮小化が懸念されたオオヨシキリについては、干拓地の南端部に保全区を設け、ヨシ原を主体とする水辺環境を整備することで、乾燥化に伴うセイタカアワダチソウの侵入が防止され、イネ科の高茎草本を含むヨシ原等湿性草原の面積が増加するため、生息環境は維持されると考えられた。チュウヒについては、工事中には繁殖期における行動を適宜観察し、騒音、振動を抑制する措置及び工事関係者等の事業区域外への立ち入りを制限する措置を実施するとともに、繁殖活動に対して工事工程の配慮を行うこと、また、営巣地及び主要な採餌場として利用されていると考えられる環境が一部消失することに対しては、代償措置として干拓地の南端部に保全区を整備し、営巣地及び主要な採餌場としての機能を高める措置を実施するとともに、事業実施区域の南端部に侵入防止用の柵を設置することから、現在確認されている3つがいの営巣を確保できると考えられた。なお、保全区内にはハイロチュウヒ、チュウヒの多くのねぐらが含まれていることから、これらの種のねぐらも確保される。コチョウゲンボウのねぐらに対しては代償措置として干拓地の南端部に整備する保全区に代替のねぐらとなる木を植樹することから、干拓地内を継続的にねぐらとして利用すると考えられた。</p> <p>以上のことから、陸生動物に係る環境影響が事業者の実行可能な範囲内でできる限り低減されていると評価する。</p>					

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (69)

頁	区分	変更の概要及び理由																																														
310	改訂	<p>調査時期等の修正により、以下のとおり表を改訂した。</p> <p>準備書 p.310 「6.4 事後調査」の表を改訂（下線：改訂、取消線：削除）</p> <table border="1" data-bbox="400 331 1383 869"> <caption>表 8.6.4-1 事後調査の項目及び手法等</caption> <thead> <tr> <th data-bbox="547 360 595 383">項目</th> <th colspan="3" data-bbox="1002 360 1086 383">手法等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="563 533 587 678" rowspan="2">陸生動物の重要な種 チュウヒ</td> <td colspan="3" data-bbox="735 387 1347 539">                     1. 行うこととした理由                      予測結果は、科学的知見に基づいた一般的な手法によるものであり、不確実性の程度は小さいと考えるが、環境保全措置の効果に係る知見が不十分であり、環境影響の程度が著しいものとなるおそれがある。                      2. 手法                      調査時期は工事の実施中及び施設の供用開始後とし、調査計画は、以下の表に示すとおりとする。                 </td> </tr> <tr> <td colspan="3" data-bbox="762 562 1310 741"> <table border="1"> <caption>事後調査の調査計画</caption> <thead> <tr> <th data-bbox="767 577 815 600">項目</th> <th data-bbox="842 577 927 600">調査方法</th> <th data-bbox="943 577 1027 600">調査地点</th> <th data-bbox="1102 577 1305 600">調査頻度・時期等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="767 651 815 674">チュウヒ</td> <td data-bbox="842 651 927 674">定点観察法</td> <td data-bbox="943 651 1027 674">事業実施区域 周辺 6 地点</td> <td data-bbox="1050 600 1305 741"> <b>【工事中】</b>                      毎年 5 月～8 月に 2 日連続で各月 1 回実施  <b>【供用開始後】</b>                      全ての施設が供用開始後 2 年間 (2 繁殖期)、毎年 5 月～8 月に 2 日連続で各月 1 回実施                 </td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td colspan="4" data-bbox="735 763 1347 824">                     3. 環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合の対応の方針                      保全対象個体の生育に問題が生じそうな場合において、専門家の指導・助言を得ながら、その時点での状況に応じ検討する。                 </td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="400 875 1383 1391"> <caption>表 8.6.4-1 (1) 事後調査の項目及び手法等 (チュウヒ)</caption> <thead> <tr> <th data-bbox="547 904 595 927">項目</th> <th colspan="3" data-bbox="1002 904 1086 927">手法等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="563 1077 587 1223" rowspan="2">陸生動物の重要な種 チュウヒ</td> <td colspan="3" data-bbox="735 931 1347 1084">                     1. 行うこととした理由                      予測結果は、科学的知見に基づいた一般的な手法によるものであり、不確実性の程度は小さいと考えるが、環境保全措置の効果に係る知見が不十分であり、環境影響の程度が著しいものとなるおそれがあるため、<u>事後調査を実施する。</u>                      2. 手法                      調査時期は工事の実施中及び施設の供用開始後とし、調査計画は、以下の表に示すとおりとする。                 </td> </tr> <tr> <td colspan="3" data-bbox="762 1106 1310 1285"> <table border="1"> <caption>事後調査の調査計画</caption> <thead> <tr> <th data-bbox="767 1122 815 1144">項目</th> <th data-bbox="842 1122 927 1144">調査方法</th> <th data-bbox="943 1122 1027 1144">調査地点</th> <th data-bbox="1102 1122 1305 1144">調査頻度・時期等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="767 1196 815 1218">チュウヒ</td> <td data-bbox="842 1196 927 1218">定点観察法</td> <td data-bbox="943 1196 1027 1218">事業実施区域 周辺 6 地点</td> <td data-bbox="1050 1144 1305 1285"> <b>【工事中】</b>                      毎年 4 月～8 月に 2 日連続で各月 1 回実施  <b>【供用開始後】</b>                      全ての施設が供用開始後 2 年間 (2 繁殖期)、毎年 4 月～8 月に 2 日連続で各月 1 回実施                 </td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td colspan="4" data-bbox="735 1308 1347 1368">                     3. 環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合の対応の方針                      チュウヒの生息に問題が生じそうな場合において、専門家の指導・助言を得ながら、その時点での状況に応じ<u>必要な措置を講ずる。</u> </td> </tr> </tbody> </table>	項目	手法等			陸生動物の重要な種 チュウヒ	1. 行うこととした理由 予測結果は、科学的知見に基づいた一般的な手法によるものであり、不確実性の程度は小さいと考えるが、環境保全措置の効果に係る知見が不十分であり、環境影響の程度が著しいものとなるおそれがある。 2. 手法 調査時期は工事の実施中及び施設の供用開始後とし、調査計画は、以下の表に示すとおりとする。			<table border="1"> <caption>事後調査の調査計画</caption> <thead> <tr> <th data-bbox="767 577 815 600">項目</th> <th data-bbox="842 577 927 600">調査方法</th> <th data-bbox="943 577 1027 600">調査地点</th> <th data-bbox="1102 577 1305 600">調査頻度・時期等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="767 651 815 674">チュウヒ</td> <td data-bbox="842 651 927 674">定点観察法</td> <td data-bbox="943 651 1027 674">事業実施区域 周辺 6 地点</td> <td data-bbox="1050 600 1305 741"> <b>【工事中】</b>                      毎年 5 月～8 月に 2 日連続で各月 1 回実施  <b>【供用開始後】</b>                      全ての施設が供用開始後 2 年間 (2 繁殖期)、毎年 5 月～8 月に 2 日連続で各月 1 回実施                 </td> </tr> </tbody> </table>			項目	調査方法	調査地点	調査頻度・時期等	チュウヒ	定点観察法	事業実施区域 周辺 6 地点	<b>【工事中】</b> 毎年 5 月～8 月に 2 日連続で各月 1 回実施 <b>【供用開始後】</b> 全ての施設が供用開始後 2 年間 (2 繁殖期)、毎年 5 月～8 月に 2 日連続で各月 1 回実施	3. 環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合の対応の方針 保全対象個体の生育に問題が生じそうな場合において、専門家の指導・助言を得ながら、その時点での状況に応じ検討する。				項目	手法等			陸生動物の重要な種 チュウヒ	1. 行うこととした理由 予測結果は、科学的知見に基づいた一般的な手法によるものであり、不確実性の程度は小さいと考えるが、環境保全措置の効果に係る知見が不十分であり、環境影響の程度が著しいものとなるおそれがあるため、 <u>事後調査を実施する。</u> 2. 手法 調査時期は工事の実施中及び施設の供用開始後とし、調査計画は、以下の表に示すとおりとする。			<table border="1"> <caption>事後調査の調査計画</caption> <thead> <tr> <th data-bbox="767 1122 815 1144">項目</th> <th data-bbox="842 1122 927 1144">調査方法</th> <th data-bbox="943 1122 1027 1144">調査地点</th> <th data-bbox="1102 1122 1305 1144">調査頻度・時期等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="767 1196 815 1218">チュウヒ</td> <td data-bbox="842 1196 927 1218">定点観察法</td> <td data-bbox="943 1196 1027 1218">事業実施区域 周辺 6 地点</td> <td data-bbox="1050 1144 1305 1285"> <b>【工事中】</b>                      毎年 4 月～8 月に 2 日連続で各月 1 回実施  <b>【供用開始後】</b>                      全ての施設が供用開始後 2 年間 (2 繁殖期)、毎年 4 月～8 月に 2 日連続で各月 1 回実施                 </td> </tr> </tbody> </table>			項目	調査方法	調査地点	調査頻度・時期等	チュウヒ	定点観察法	事業実施区域 周辺 6 地点	<b>【工事中】</b> 毎年 4 月～8 月に 2 日連続で各月 1 回実施 <b>【供用開始後】</b> 全ての施設が供用開始後 2 年間 (2 繁殖期)、毎年 4 月～8 月に 2 日連続で各月 1 回実施	3. 環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合の対応の方針 チュウヒの生息に問題が生じそうな場合において、専門家の指導・助言を得ながら、その時点での状況に応じ <u>必要な措置を講ずる。</u>			
項目	手法等																																															
陸生動物の重要な種 チュウヒ	1. 行うこととした理由 予測結果は、科学的知見に基づいた一般的な手法によるものであり、不確実性の程度は小さいと考えるが、環境保全措置の効果に係る知見が不十分であり、環境影響の程度が著しいものとなるおそれがある。 2. 手法 調査時期は工事の実施中及び施設の供用開始後とし、調査計画は、以下の表に示すとおりとする。																																															
	<table border="1"> <caption>事後調査の調査計画</caption> <thead> <tr> <th data-bbox="767 577 815 600">項目</th> <th data-bbox="842 577 927 600">調査方法</th> <th data-bbox="943 577 1027 600">調査地点</th> <th data-bbox="1102 577 1305 600">調査頻度・時期等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="767 651 815 674">チュウヒ</td> <td data-bbox="842 651 927 674">定点観察法</td> <td data-bbox="943 651 1027 674">事業実施区域 周辺 6 地点</td> <td data-bbox="1050 600 1305 741"> <b>【工事中】</b>                      毎年 5 月～8 月に 2 日連続で各月 1 回実施  <b>【供用開始後】</b>                      全ての施設が供用開始後 2 年間 (2 繁殖期)、毎年 5 月～8 月に 2 日連続で各月 1 回実施                 </td> </tr> </tbody> </table>			項目	調査方法	調査地点	調査頻度・時期等	チュウヒ	定点観察法	事業実施区域 周辺 6 地点	<b>【工事中】</b> 毎年 5 月～8 月に 2 日連続で各月 1 回実施 <b>【供用開始後】</b> 全ての施設が供用開始後 2 年間 (2 繁殖期)、毎年 5 月～8 月に 2 日連続で各月 1 回実施																																					
項目	調査方法	調査地点	調査頻度・時期等																																													
チュウヒ	定点観察法	事業実施区域 周辺 6 地点	<b>【工事中】</b> 毎年 5 月～8 月に 2 日連続で各月 1 回実施 <b>【供用開始後】</b> 全ての施設が供用開始後 2 年間 (2 繁殖期)、毎年 5 月～8 月に 2 日連続で各月 1 回実施																																													
3. 環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合の対応の方針 保全対象個体の生育に問題が生じそうな場合において、専門家の指導・助言を得ながら、その時点での状況に応じ検討する。																																																
項目	手法等																																															
陸生動物の重要な種 チュウヒ	1. 行うこととした理由 予測結果は、科学的知見に基づいた一般的な手法によるものであり、不確実性の程度は小さいと考えるが、環境保全措置の効果に係る知見が不十分であり、環境影響の程度が著しいものとなるおそれがあるため、 <u>事後調査を実施する。</u> 2. 手法 調査時期は工事の実施中及び施設の供用開始後とし、調査計画は、以下の表に示すとおりとする。																																															
	<table border="1"> <caption>事後調査の調査計画</caption> <thead> <tr> <th data-bbox="767 1122 815 1144">項目</th> <th data-bbox="842 1122 927 1144">調査方法</th> <th data-bbox="943 1122 1027 1144">調査地点</th> <th data-bbox="1102 1122 1305 1144">調査頻度・時期等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="767 1196 815 1218">チュウヒ</td> <td data-bbox="842 1196 927 1218">定点観察法</td> <td data-bbox="943 1196 1027 1218">事業実施区域 周辺 6 地点</td> <td data-bbox="1050 1144 1305 1285"> <b>【工事中】</b>                      毎年 4 月～8 月に 2 日連続で各月 1 回実施  <b>【供用開始後】</b>                      全ての施設が供用開始後 2 年間 (2 繁殖期)、毎年 4 月～8 月に 2 日連続で各月 1 回実施                 </td> </tr> </tbody> </table>			項目	調査方法	調査地点	調査頻度・時期等	チュウヒ	定点観察法	事業実施区域 周辺 6 地点	<b>【工事中】</b> 毎年 4 月～8 月に 2 日連続で各月 1 回実施 <b>【供用開始後】</b> 全ての施設が供用開始後 2 年間 (2 繁殖期)、毎年 4 月～8 月に 2 日連続で各月 1 回実施																																					
項目	調査方法	調査地点	調査頻度・時期等																																													
チュウヒ	定点観察法	事業実施区域 周辺 6 地点	<b>【工事中】</b> 毎年 4 月～8 月に 2 日連続で各月 1 回実施 <b>【供用開始後】</b> 全ての施設が供用開始後 2 年間 (2 繁殖期)、毎年 4 月～8 月に 2 日連続で各月 1 回実施																																													
3. 環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合の対応の方針 チュウヒの生息に問題が生じそうな場合において、専門家の指導・助言を得ながら、その時点での状況に応じ <u>必要な措置を講ずる。</u>																																																

表 5-6 「第 8 章 環境影響評価の結果 6 陸生動物」に係る変更の概要 (70)

頁	区 分	変更の概要及び理由																
-	追 記	<p>保全措置の効果には予測に不確実性があることから、事後調査を行うこととし、以下の表を追記した。 「6.4 事後調査」に表を追記（評価書 p. 351）</p> <p style="text-align: center;"><b>表 8.6.4-1 (2) 事後調査の項目及び手法等（餌環境）</b></p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">項 目</th> <th colspan="3">手 法 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">陸生動物 陸生動物（代償措置の効果）</td> <td colspan="3"> <p>1. 行うこととした理由 予測結果は、科学的知見に基づいた一般的な手法によるものであり、不確実性の程度は小さいと考えるが、環境保全措置の効果に係る知見が不十分であり、環境影響の程度が著しいものとなるおそれがあるため、事後調査を実施する。</p> <p>2. 手法 調査時期は工事の実施中及び施設の供用開始後とし、調査計画は、以下の表に示すとおりとする。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <caption>事後調査の調査計画</caption> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>調査方法</th> <th>調査地点</th> <th>調査頻度・時期等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">餌環境</td> <td style="text-align: center;">ラインセンサス法</td> <td style="text-align: center;">保全区予定地、事業実施区域外、鍋田干拓地の3箇所</td> <td style="text-align: center;">【工事中】 毎年4月～8月に各1日（午前1回、午後1回）実施 【供用開始後】 全ての施設が供用開始後2年間、毎年4月～8月に各1日（午前1回、午後1回）実施</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合の対応の方針 餌環境に問題が生じそうな場合において、専門家の指導・助言を得ながら、その時点での状況に応じた必要な措置を講ずる。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	項 目	手 法 等			陸生動物 陸生動物（代償措置の効果）	<p>1. 行うこととした理由 予測結果は、科学的知見に基づいた一般的な手法によるものであり、不確実性の程度は小さいと考えるが、環境保全措置の効果に係る知見が不十分であり、環境影響の程度が著しいものとなるおそれがあるため、事後調査を実施する。</p> <p>2. 手法 調査時期は工事の実施中及び施設の供用開始後とし、調査計画は、以下の表に示すとおりとする。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <caption>事後調査の調査計画</caption> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>調査方法</th> <th>調査地点</th> <th>調査頻度・時期等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">餌環境</td> <td style="text-align: center;">ラインセンサス法</td> <td style="text-align: center;">保全区予定地、事業実施区域外、鍋田干拓地の3箇所</td> <td style="text-align: center;">【工事中】 毎年4月～8月に各1日（午前1回、午後1回）実施 【供用開始後】 全ての施設が供用開始後2年間、毎年4月～8月に各1日（午前1回、午後1回）実施</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合の対応の方針 餌環境に問題が生じそうな場合において、専門家の指導・助言を得ながら、その時点での状況に応じた必要な措置を講ずる。</p>			項 目	調査方法	調査地点	調査頻度・時期等	餌環境	ラインセンサス法	保全区予定地、事業実施区域外、鍋田干拓地の3箇所	【工事中】 毎年4月～8月に各1日（午前1回、午後1回）実施 【供用開始後】 全ての施設が供用開始後2年間、毎年4月～8月に各1日（午前1回、午後1回）実施
項 目	手 法 等																	
陸生動物 陸生動物（代償措置の効果）	<p>1. 行うこととした理由 予測結果は、科学的知見に基づいた一般的な手法によるものであり、不確実性の程度は小さいと考えるが、環境保全措置の効果に係る知見が不十分であり、環境影響の程度が著しいものとなるおそれがあるため、事後調査を実施する。</p> <p>2. 手法 調査時期は工事の実施中及び施設の供用開始後とし、調査計画は、以下の表に示すとおりとする。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <caption>事後調査の調査計画</caption> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>調査方法</th> <th>調査地点</th> <th>調査頻度・時期等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">餌環境</td> <td style="text-align: center;">ラインセンサス法</td> <td style="text-align: center;">保全区予定地、事業実施区域外、鍋田干拓地の3箇所</td> <td style="text-align: center;">【工事中】 毎年4月～8月に各1日（午前1回、午後1回）実施 【供用開始後】 全ての施設が供用開始後2年間、毎年4月～8月に各1日（午前1回、午後1回）実施</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合の対応の方針 餌環境に問題が生じそうな場合において、専門家の指導・助言を得ながら、その時点での状況に応じた必要な措置を講ずる。</p>			項 目	調査方法	調査地点	調査頻度・時期等	餌環境	ラインセンサス法	保全区予定地、事業実施区域外、鍋田干拓地の3箇所	【工事中】 毎年4月～8月に各1日（午前1回、午後1回）実施 【供用開始後】 全ての施設が供用開始後2年間、毎年4月～8月に各1日（午前1回、午後1回）実施							
項 目	調査方法	調査地点	調査頻度・時期等															
餌環境	ラインセンサス法	保全区予定地、事業実施区域外、鍋田干拓地の3箇所	【工事中】 毎年4月～8月に各1日（午前1回、午後1回）実施 【供用開始後】 全ての施設が供用開始後2年間、毎年4月～8月に各1日（午前1回、午後1回）実施															
-	追 記	<p>保全措置の効果には予測に不確実性があることから、事後調査を行うこととし、以下の表を追記した。 「6.4 事後調査」に表を追記（評価書 p. 352）</p> <p style="text-align: center;"><b>表 8.6.4-1 (3) 事後調査の項目及び手法等（コチョウゲンボウのねぐら）</b></p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">項 目</th> <th colspan="3">手 法 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">陸生動物の注目すべき生息地 コチョウゲンボウのねぐら</td> <td colspan="3"> <p>1. 行うこととした理由 予測結果は、科学的知見に基づいた一般的な手法によるものであり、不確実性の程度は小さいと考えるが、環境保全措置の効果に係る知見が不十分であり、環境影響の程度が著しいものとなるおそれがあるため、事後調査を実施する。</p> <p>2. 手法 調査時期は工事の実施中及び施設の供用開始後とし、調査計画は、以下の表に示すとおりとする。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <caption>事後調査の調査計画</caption> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>調査方法</th> <th>調査地点</th> <th>調査頻度・時期等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">コチョウゲンボウのねぐら</td> <td style="text-align: center;">定点観察法</td> <td style="text-align: center;">事業実施区域周辺6地点</td> <td style="text-align: center;">【工事中】 毎年11月～3月に各1日実施 【供用開始後】 全ての施設が供用開始後2年間、毎年11月～3月に各1日実施</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合の対応の方針 コチョウゲンボウのねぐらに問題が生じそうな場合において、専門家の指導・助言を得ながら、その時点での状況に応じた必要な措置を講ずる。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	項 目	手 法 等			陸生動物の注目すべき生息地 コチョウゲンボウのねぐら	<p>1. 行うこととした理由 予測結果は、科学的知見に基づいた一般的な手法によるものであり、不確実性の程度は小さいと考えるが、環境保全措置の効果に係る知見が不十分であり、環境影響の程度が著しいものとなるおそれがあるため、事後調査を実施する。</p> <p>2. 手法 調査時期は工事の実施中及び施設の供用開始後とし、調査計画は、以下の表に示すとおりとする。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <caption>事後調査の調査計画</caption> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>調査方法</th> <th>調査地点</th> <th>調査頻度・時期等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">コチョウゲンボウのねぐら</td> <td style="text-align: center;">定点観察法</td> <td style="text-align: center;">事業実施区域周辺6地点</td> <td style="text-align: center;">【工事中】 毎年11月～3月に各1日実施 【供用開始後】 全ての施設が供用開始後2年間、毎年11月～3月に各1日実施</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合の対応の方針 コチョウゲンボウのねぐらに問題が生じそうな場合において、専門家の指導・助言を得ながら、その時点での状況に応じた必要な措置を講ずる。</p>			項 目	調査方法	調査地点	調査頻度・時期等	コチョウゲンボウのねぐら	定点観察法	事業実施区域周辺6地点	【工事中】 毎年11月～3月に各1日実施 【供用開始後】 全ての施設が供用開始後2年間、毎年11月～3月に各1日実施
項 目	手 法 等																	
陸生動物の注目すべき生息地 コチョウゲンボウのねぐら	<p>1. 行うこととした理由 予測結果は、科学的知見に基づいた一般的な手法によるものであり、不確実性の程度は小さいと考えるが、環境保全措置の効果に係る知見が不十分であり、環境影響の程度が著しいものとなるおそれがあるため、事後調査を実施する。</p> <p>2. 手法 調査時期は工事の実施中及び施設の供用開始後とし、調査計画は、以下の表に示すとおりとする。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <caption>事後調査の調査計画</caption> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>調査方法</th> <th>調査地点</th> <th>調査頻度・時期等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">コチョウゲンボウのねぐら</td> <td style="text-align: center;">定点観察法</td> <td style="text-align: center;">事業実施区域周辺6地点</td> <td style="text-align: center;">【工事中】 毎年11月～3月に各1日実施 【供用開始後】 全ての施設が供用開始後2年間、毎年11月～3月に各1日実施</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 環境影響の程度が著しいことが明らかとなった場合の対応の方針 コチョウゲンボウのねぐらに問題が生じそうな場合において、専門家の指導・助言を得ながら、その時点での状況に応じた必要な措置を講ずる。</p>			項 目	調査方法	調査地点	調査頻度・時期等	コチョウゲンボウのねぐら	定点観察法	事業実施区域周辺6地点	【工事中】 毎年11月～3月に各1日実施 【供用開始後】 全ての施設が供用開始後2年間、毎年11月～3月に各1日実施							
項 目	調査方法	調査地点	調査頻度・時期等															
コチョウゲンボウのねぐら	定点観察法	事業実施区域周辺6地点	【工事中】 毎年11月～3月に各1日実施 【供用開始後】 全ての施設が供用開始後2年間、毎年11月～3月に各1日実施															